

IV.部門の活動状況

2022年4月～2023年3月

医療安全管理室

課長 宮崎俊子

実施できるように、是正の進捗に合わせてヒヤリングを実施しました。

1. 任務、役割

- (1) クオリティマネジメント部内に配置し、院内の医療の質と安全の向上を推進するため、専従の医療安全管理者を置き以下の業務を行います。
 - ①医療事故報告書の集約・集計・分析を行い、院内に発信します。
 - ②医療事故再発防止において、部門や委員会など横断的に関わり、対策実施と有効性の評価の支援を行います。
 - ③前年度の医療安全対策の課題から、次年度の目標設定や具体的手立て、研修計画などを作成し、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して、院内の活動に展開していきます。
 - ④毎週実施する医療安全対策評価カンファレンスにて、医療事故や医療安全相談事例の共有や、対策・再発防止策の検討と評価を行います。
 - ⑤地域の医療機関の医療安全管理者と連携し、相互の医療安全文化の醸成につなげます。

2. 体制 1 名 (2023年 3 月末日現在)

職種

薬剤師

1

3. 活動と実績等

年度初めに設定した目標計画に沿って、安全対策や職員教育を、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して実施しました。地域の連携医療機関との相互ラウンドを3年ぶりに実施することができました。改善の提案や、安全の取り組みの交流などを行いました。

1年間に報告された「ひやりはっと事故報告」(インシデント・アクシデント報告)は、2186件ありました。全ての報告書に対し修正処置が実施されその評価と承認が滞りなく行われるように、報告部門への声かけや援助を行いました。

日々のラウンドで事故発生部門への聞き取りや現場の確認、その後の対応などについて確認しました。

発生した医療事故の集約を行い、医療安全対策評価カンファレンスや医療安全委員会へ情報を提供し、対策の必要性や内容について協議しました。

是正処置が必要な事例において、処置が滞ることなく

感染管理室

部責主任 吉田智恵子

1. 任務、役割

感染管理認定看護師の専従者を置き、院内感染防止対策組織の事務局として、院内の感染予防と感染防止対策の推進を援助します。

2. 体制1名（2023年3月末日現在）

職種

看護師 1名

3. 活動と実績等

- (1) 院内感染対策組織の一員として、委員会・チームの連携に努めました。
- (2) 医療関連感染サーベイランスの結果を感染対策委員会、ICT・ASTで共有し、必要に応じて現場への介入を行いました。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の流行状況に合わせ、院内の感染対策の検討、対策に必要な物品・環境の整備を行いました。
- (4) 衛生管理者と連携し、職業感染の予防・経過観察が必要な職員に対するフォローを行いました。
- (5) 院内で発生した、アウトブレイクに対し、感染対策委員会・ICT・AST・関係部門と連携し、早期収束に努めました。
- (6) 医療生協さいたまの事業所内・外における感染対策に関連する相談の対応、問題解決のための介入・支援を行いました。
- (7) 医療生協さいたまの事業所内で発生したアウトブレイクに介入し、現場の支援・教育を行いました。
- (8) 周辺の医療・介護施設や行政と連携し、地域の感染対策に努めました。

医療情報管理室

部責主任 長峯光春

1. 任務、役割

- (1) 医療情報・記録の管理。
- (2) 医療の質向上につながる質指標測定・各種統計作成。
- (3) 診療支援および学術研究活動支援の3つの業務を主として担いながら、医療の質改善のためのPDCAサイクルが動くための支援機能を果たします。

2. 体制10名

常勤職員 6名

非常勤職員 3名（注1）

（注1）1名は医師アシスト業務として外科系学会が運営するNCDおよび日本整形外科学会JOANRへの手術症例登録録を行っています。

■認定資格

診療情報管理士 5名

院内がん登録実務中級認定者 2名

院内がん登録実務初級認定者 1名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 過去記録の取り寄せは昨年よりも増加しました。引き続きB型肝炎「特別措置法」、障害年金申請等のための初診時からの記録が必要なケースが一定数発生しています。
医療記録の質管理に関しては、QIの測定値（カンファレンス、総合的な初期計画、健康リスクの評価、適切な診療情報提供）としてフィードバックしました。
- (2) 医療コミュニケーション促進
引き続き新型コロナウイルス感染症流行のため、院内滞在時間を短縮したいニーズの影響もあり、新規登録はさらに減少しました。対面での「記録の読み方講座」ができないたため、「マイかるて」利用者とのコミュニケーションエピソードを職員に募集しましたが、応募がありませんでした。職員への周知が課題です。
- (3) QIをはじめ診療データを活用した改善支援
3回のマネジメントレビューへのインプット情報提供に加え、病棟会議に参加し医療の質目標に関わるデータの提供を行い、改善を支援しました。その他、医師、看護師、リハビリ等からの診療データ抽出依頼に日常的に応えました。

(4) 実績 (2022年1月～12月)

過去記録取り寄せ・貸出	79件 (前年比154.9%)
病歴登録管理	6,962件 (前年比91.9%)
退院時要約管理	7日以内完成 79.5% 14日以内完成 95.1%
死因登録	407件 (入院336、外来62、在宅9)
診療情報検索・調査	44件 (依頼24、学会等20)
院内がん登録	880件 (前年比104%)
NCD登録	外科691件、乳腺143件、病理3件
JOANR登録	1,343件
カルテ開示	97件 (申請52、法照会45)
「マイかるて」新規登録	75件 (前年比91.5%)

4. 今後の展望・次年度に向けて

クオリティマネジメント (QM) 部としてデータを活用した部門・チーム横断的な質改善活動を促進します。QI、BSC の評価指標の測定を確実にを行い、マネジメントレビューに適切にインプットし有効な PDCA を回します。また求められる診療実績データ、その他医療の質改善 (研究活動を含む) や専門資格取得等のためのデータ抽出・提供、改善活動支援や、医療活動の実績としての統計作成の精度向上と合理化を追求します。

チーム医療の質の証としての記録の改善を進めます。法的適切性・医療安全、効果的で標準的な医療、患者中心・人権尊重の観点からの警鐘症例に気づき、医療安全管理室と協力して安全施策につなげられるよう力量向上に努めます。

2023年8月に2病院化・電子カルテ更新・情報システム構成の大幅な変更に向けて業務の合理化を進めます。紙媒体帳票・記録の運用をできる限り削減し、退院までに医療記録の完成度を高める業務へと再構築し病院全体の記録および記録関連業務のスリム化と質改善を進めます。

患者と医療者のコミュニケーション促進のためのツールである「マイかるて」の普及を再開し、記録の質向上・患者と職員の満足度アップにつなげる取り組みを継続します。利用者のニーズに応えられる質情報の公開を模索します。

経営企画室

課長 桑田真央

1. 任務、役割

〈職務〉

1. 経営

- ① 管理部の指示の下、必要な調査・分析を行います。
- ② 経営分析を行い、経営的な企画・政策立案を管理部に対して行います。
- ③ 経営委員会の事務局として、病院管理部への適切な情報提供や決められた方針を具体化します。
- ④ 診療報酬改定の情報提供などをタイムリーに行い、診療報酬改定の準備をすすめ職員への周知徹底、啓蒙活動を行います。
- ⑤ 全職員参加の経営をすすめるために、保険請求の勉強会を開催し、報酬につながる業務の仕方について協力を求めます。
- ⑥ 当院にあった経営分析、業務改善のツールやサービスの研究、紹介、導入のフォローを行います。
- ⑦ 部門、部門責任者に向けた経営報告、経営分析、改善事項の報告と共有します。
- ⑧ 経営企画部門からみた、医療の質の評価や向上への取り組み、活動します。

2. 広報

- ① 病院広報紙「ふれあい」を定期発行し、組合員・患者の知りたい情報、地域の連携医療機関・介護事業所などに提供すべき情報等を、タイムリーに発信します。
- ② ホームページの更新、外来モニター (デジタルサイネージ) の運営管理を行います。
- ③ 病院主催の市民公開講座等、各委員会やチームと協力して病院の広報・宣伝を行います。
- ④ 効果的な広報の活用を進め、研修医募集、看護師募集等の職員採用情報も広報活動します。

2. 体制 1名 (2023年3月末日現在)

職種	人数	備考
事務	1	

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

- ・ 経営委員会を主催し、定例会議を行いました。第一四半期、上半期経営検討会、予算検討会を開催しま

した。

- ・診療報酬改定の対応を主導し、当院で算定できるもの、努力すれば算定できるもの、算定できないものをチェック、院内に発信し、適切に算定できるように働きかけました。
- ・2病院に向けた新しい広報活動を委託する業者選定を主導し、職員、組合員参加で意見を聞きながら業者を決定しました。また、2023年度新しいホームページや広報誌を地域に発信できるように準備を進めました。
- ・建設分野では、医療機器や什器の調達、移転業者の選定や準備を主導しました。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

特になし

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ・経営分野では、2023年度は新しい電子カルテ・医事システムが変わるため、今まで活用していた経営データ抽出ができなくなります。そのため、改めてデータ抽出の根拠を明確にし、できたら他院と比較できるような経営報告を新たに構築することが求められます。
- ・広報分野では、新しい病院や、埼玉協同病院の新棟を地域にアピールするための、新しいホームページや広報紙を発行します。2病院が一体となった広報として、それぞれの病院の役割や、最新情報などをわかりやすく発信することが課題です。

看護部

看護部長 小野寺由美子

2022年度の目標と活動報告

○病院機能評価受審をチャンスとした患者を尊重した看護の質を向上させる「人づくり」「職場づくり」

4月には新入看護職員 39名を迎えました。昨年度から取り組んできたICTを活用した教育ツールを進化継続しつつ、今年度は初期教育を支える教育担当者のプログラムの工夫や事務部門の指導者との交流機会を持ちました。また看護部共通のキャリアラダーの運用をラダー委員会メンバー中心に、全部署で開始しました。今後はラダーレベルを意識した役割期待に結び付け、ラダーとリンクした教育計画を構築していくことが課題です。

また、PNS体制を支えるパートナーシップマインドの醸成、心理的安全性の高い職場環境づくりのために、看護主任が中心となり、相互支援しながら定着に努めています。

プラチナナース交流会を発足しました。定年退職後も非常勤職員として従事している65歳以上の看護職員を対象に、意見交流をし、経験を活かしながら自分らしく働き続けられる環境をつくる機会として継続していきます。

○リニューアルの基盤となる専門性と総合性を高め、多職種協働のチーム医療の展開における看護師の役割を促進する。

医師のコンセンサスを得ながら、クリティカルケア領域の認定看護師を中心に院内迅速対応チーム（RRT）の活動を11月から開始しました。ER運営会議、HCU会議、手術室運営会議などの連携を促進し、救急患者やハイリスク術後患者へのケアの質向上を目指した検討を進めてきました。今後、救急搬入率（応需率）向上、HCU8床運用を実現させるアクションプランの具体化をすすめます。建設計画のSTEP2～3を見据えた、2病院間での柔軟な業務交流、専門外来担当看護師の全科への対応力、内科+小児科病棟の一体的運営など診療科の枠を越えた受け入れを目指した段階的育成計画を共有してきました。

また、PNS体制継続と合わせてユニフォーム2色制の導入により、時間外業務削減と意識の変化を図るプロジェクトが活動中です。

2 病院の体制を検討する中で、看護管理者の育成は継続的課題です。今年度全県看護長会議で検討した「医療生協さいたま看護部 マネジメントラダー」を活用し、看護管理者としてめざす姿を共有しながら自己の課題に主体的に取り組む風土を埼玉協同病院から作っていきけるよう取り組んでいきます。

○新型コロナウイルス感染対応

3 年目に突入した新型コロナウイルス感染症への対応は7月～8月にかけて爆発的な感染拡大により、困難を極めました。発熱外来受診者が連日100名を超え、複数の一般病棟で入院患者から陽性が判明し入院を制限する事態が連続的に発生、また医師をはじめとする職員の感染も広がり、外来機能の縮小をせざるを得ない状況になりました。検査方法の変更や結果返しのIT化等を図りながら全職員で対応しました。

また、院内だけでなく、法人内事業所で発生したのクラスターへの適切な支援が重要でした。感染対策のエビデンスを踏まえつつ、混乱した現場の状況を確認し、そこに合わせた初期対応のマネジメントを、本部対策本部と相談しながら感染管理認定看護師や感染症対応経験のある看護職員の派遣を継続してきました。これは今後も法人全体のロールモデルとして埼玉協同病院が期待される役割と認識して取り組んでいきたいと思えます。

○看護補助者（看護サポート）との協働の取り組み

2021年の日本看護協会から出された「看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン」に基づき、看護補助者の業務のあり方を理解し、チームの一員として協働した業務が行えることを目的に、全病棟看護長がこのガイドラインの研修を受講しました。昨年度までの取り組みをステップとして、看護補助者との協働を促進するための具体的なアクションを検討し実践してきました。コミュニケーションの機会を増やす手立てとして、看護長会議への定期的参加、各部署の看護職責会議への参加、転倒・転落防止など医療安全的なチーム活動、感染対策講じての新型コロナウイルス陽性者への対応など幅をひろげてきました。次年度に向けては、学習ツールとしては、看護職員と同様に「ナーシングスキル」を活用し、標準的な学習内容を網羅できるようにしていく予定です。

外来看護科 I

看護長 吉田暁子

1. 任務、役割

内科急患・ER・整形外科・外科・内視鏡・放射線検査・自己血採血外来・化学療法室を担っています。また、新型コロナウイルス感染症流行の3年目となった2022年度は、発熱外来のテンプレート問診の導入や、内服薬の院外処方への変更など改善しながら対応しました。感染対策を行い、外来診療がスムーズにいくよう、各診療科で連携しています。

2. 体制（2023年3月末日現在）

職種	人数	
看護師	35名	
認定看護師	2名	集中ケア救急看護
保健師	1名	
准看護師	6名	
看護助手	4名	内視鏡3名 整形1名

3. 活動と実績等

- ①新型コロナウイルス感染症の流行により、午前中は発熱外来・午後は保健所の依頼を受ける帰国者・接触者外来を継続して行いました。
- ②救急では前年度よりも多い台数の救急車を受け入れ、入院へつなげました。集中ケア認定看護師・救急看護認定看護師の配置により、ER・中央処置室で迅速な対応や技術・知識など、質の高い看護が提供できました。ERでは薬剤師など多職種の介入を積極的に進め、患者・家族の意向を聞き取り、入院病棟や在宅へつなげる仕組みを作りました。
- ③内視鏡やレントゲン関係の緊急検査に対応しています。緊急検査に対応できる看護師の育成にも取り組みました。
- ④各診療科では、感染対策を実施しながら、新型コロナウイルス感染症流行時も通常の診療を行いました。

4. 総括

- ① ERと処置室の業務の改善を行うことで患者の待機時間を短縮し、入院や帰宅までの流れが円滑に進むような仕組みを作りました。

- ②発熱トリアージ加算をもれなく取ることができるよう、看護師の育成に取り組みました。
- ③埼玉県 DMAT 研修や、JPTEC インストラクター養成講習に参加したスタッフを中心に、部門内でトリアージ訓練を実施しました。
- ④内科急患でのがん告知に立ち会い、患者・家族の思いを聞き取り、他部署との連携し患者支援を行いました。
- ⑤新型コロナウイルス感染症を含め、多くの感染症患者へ対応し、感染対策方法や検体採取方法の改善に取り組みました。

5. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
	渡辺みちよ (看護師)	働きやすい環境作りの取り組み～5S活動を通して～	医療活動交流集会	協同病院
	吉田暁子 (看護師)	外来看護科 I での新人看護師教育の取り組み	医療活動交流集会	協同病院

外来看護科 II

部責主任 中島祐子

1. 任務、役割

専門外来（慢性疾患）・予約内科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、健康増進センター、精神科デイケアを担っています。専門外来・予約内科・各診療科では、医師や多職種と連携し、患者・家族への治療・療養生活に関する相談・療養支援・ケアなどを行っています。健康増進センターでは、健診受診者への保健指導や、健診後のフォロー等を行っています。精神科デイケアでは、利用者の社会生活をサポートするプログラムや環境づくりと、生活指導、服薬指導、受診支援等を行っています。

2. 体制38名（2023年3月末日現在）

職種	人数
保健師	17
助産師	2
看護師	12
准看護師	4
視能訓練士	3

3. 活動内容と実績

- ・専門外来・予約内科では定期的に中断患者のフォローを実施し、外来カンファレンスでの事例検討や自宅訪問へつないでいます。
- ・毎週気になる患者カンファレンスや緩和カンファレンスを実施し、各診療科と連携しながら患者の情報共有やフォローにつなげています。
- ・健康増進センターでは毎月健康増進センターだよりを作成し、健診受診者や外来患者への情報提供のツールとして活用されています。
- ・精神科デイケアではコロナ禍で休止していた集団での外出プログラムを再開しました。また、強迫症の疾病学習プログラムを新たに考案し実施しました。新たな取り組みとして精神科だよりを発行し、外来・デイケアの利用者・家族向けに配布しています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

演題名	主催
糖尿病看護に携わる看護師の能力育成をめざした取り組み -糖尿病療養指導カードを導入して-	第36回全日本民医連糖尿病シンポジウム
外来通院中断患者に対する外来での取り組みとその成果	埼玉民医連学術運動交流集会
組合員とともに取り組むウエルシア薬局での健康講座	埼玉民医連学術運動交流集会
外来看護師として新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の対応をしながら、A 病院で働き続けられる理由	埼玉民医連看護学会

地域連携看護科

看護長 江畑直子

1. 任務、役割

総合サポートセンターに所属し、院内外の相談窓口・入退院支援・意思決定支援・訪問診療を担っています。困難事例に対して全スタッフで協力しながらアプローチ方法を検討し、実践しています。

2. 体制 11名

職種	人数	備考
保健師	1名	
看護師	10名	
上記のうち	緩和ケア認定看護師	1名
	皮膚・排泄ケア認定看護師	1名

3. 活動内容と実績

(1) 活動内容

- ①総合サポートセンターに所属し、院内外の相談窓口としての機能を担っています。
- ②多種多様な問題を抱える対象者に寄り添い、院内スタッフだけでなく地域の各種事業所スタッフと協力しながら支援しています。
- ③緩和ケア対象患者の身体的・精神的・社会的課題に専門知識を活かして医師と協働して支援しています。
- ④通院困難や社会的困窮者に対して訪問診療をおこない、在宅で安心して療養生活を送れるように院内外の医療・福祉スタッフと協働し支援しています。

(2) 実績

訪問診療	
実管理者数	79名
延べ訪問回数	778回

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

緩和ケア研修会 講師
西武文理大学 チーム医療論 講義
埼玉県立大学 地域看護学 講義
法人内キャリア 2 研修講師 (緩和ケア・褥瘡ケア)
法人内事業所講師

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 2 病院化に伴う様々な課題に総合サポートセンター

のメンバーとしてスタッフで協力して解決していきます。

(2) 地域の医療・福祉関連事業所との更なる連携強化に努めます。

C2病棟看護科

看護長 武 智子

1. 任務、役割

C2病棟は消化器内科疾患と呼吸器内科の患者様を中心に医療の提供を行なっています。食道から大腸、膵胆肝系の侵襲の高い検査や膵石治療にも取り組んでいます。悪性疾患などの患者様も多く、化学療法に移行する患者様、また緩和ケアへ繋ぐ役割も担い、認定看護師の協力を得ながら、疼痛緩和やQOLの向上、患者様・ご家族の方の精神的援助が出来るように日々努めています。また、呼吸器疾患の患者様には酸素の評価を行い在宅酸素、在宅呼吸器を導入し在宅への退院を支援しています。

また、独居高齢者や老老介護への介入も増えているため、入院時から多職種でカンファレンスを行い退院支援に取り組んでいます。

2. 体制37名

職種	
保健師	5名
看護師	35名
病床数	60床

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

- ①患者や看護師にとって安心・安全な医療を提供します。
- ②消化器疾患、呼吸器疾患を中心とした治療・看護を統一して行い、スムーズかつ安全な医療と看護を提供します。
- ③HPHに取り組み、ヘルスプロモーション活動の推進をおこないます。

(2) 実績

新入院患者月平均人数	103.4人
入院延べ患者数	1,183人
平均在院日数	11.3日
占床率(60床換算)	71.2%

4. 今後の展望

1. 各診療科における検査・治療をより多くの患者様に提供できるよう職員の知識と対応力の向上を目指します。
2. がんと診断されたときから患者様の意向に沿いな

- がら治療や緩和ケアが受けられるように支援します。
3. 地域へ退院される患者様に対し、情報を提供し、継続した支援ができるようにします。

C3病棟看護科(産婦人科)

看護長 小峰将子

1. 任務、役割

病床数40床。

1983年の産婦人科開局以来、『地域が産み・育てる』をスローガンに地域に根ざした活動を目標に掲げ、活動を展開してきました。

産婦人科外来・病棟・小児科との連携で、妊娠・出産・育児や婦人科手術前後の期間を含め、女性とその家族の一生を一貫してサポートしています。また、地域との連携も密に行っているため、地域のサポートも安心して受けていただくことができます。

今後も安心して地域で過ごすことができるよう切れ目ない支援を継続していきます。

2. 体制37名 (2023年3月末日現在)

職種

助産師	33名	うち保健師有資格者9名
看護師	3名	
准看護師	1名	
看護サポート	1名	

資格	人数
日本助産評価機構認定 アドバンス助産師	3名
NCPR (一次Bまたは専門A)	32名
NCPR 専門コースインストラクター	1名
ALSO プロバイダー	3名
J-CIMELS	1名
IBCLC	1名
ICLS	4名
災害支援ナース	1名

3. 活動と実績等

(1) 実績

新規入院患者数	1,019人
転入患者	63人
入院延べ患者数	6,287人
1日あたり患者数	17.2人
平均在院日数	7.0日
平均占床率	50.5%
分娩件数	316件
帝王切開	79件
婦人科手術件数	279件
他科受け入れ件数	336件

(2) 総括

- ①産前教育のうぶ声学校を3回コースに拡大し、夫の参加も再開し、対面での実施が継続できました。
- ②感染防止対策を徹底し、出産直後の面会は継続することができました。2022年12月より予定帝王切開の夫立ち会いを再開し、経膈分娩の立ち会いも再開できるよう準備を始めました。
- ③感染防止対策を徹底し、助産学校2校、看護学校4校の実習受け入れを行い、医療従事者の人材育成に貢献することができました。
- ④EMRを中心とした内科、整形外科の術前後、眼科、耳鼻科、ペインなどの他科受け入れを継続して行い、病床運営に貢献することができました。
- ⑤オンラインでの「いのちの授業」を再開することができ、ヘルスプロモーション活動を実施しました。
- ⑥産婦人科外来にて、市の子宮がん・乳がん検診への推進を継続し、検診受診者数増加に貢献することができました。
- ⑦COVID-19対応産科リエゾンシステムにより、当院管理の陽性妊婦フォローを確実に実施しました。また、COVID-19陽性妊婦の管理も実施し、陽性者の帝王切開も実施しました。
- ⑧セントラルシステムを導入し、移転に向けた安全管理ができるよう準備しました。
- ⑨2022年4月から、川口市より産後ケア事業の委託を受け、宿泊型：13件、訪問型：2件の受け入れを行いました。
- ⑩いのちのSAMBA9条の会では、3年ぶりに赤ちゃんの足型とスタッフの手型で平和のタペストリーを作成しました。平和のタペストリーの写真がSDGsフォトアワードの企業団体部門で準グランプリとなり、平和の大切さと命の尊さを発信することができました。

○J-HPHカンファレンスでのポスター報告

『HPH産婦人科に勤務する助産師が取り組む性教育～オンライン開催による活動再開～』

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- 埼玉県看護協会 助産師職能委員会に参加
- いのちの授業 夏休み公開講座（オンライン）
2022年8月6日（土）
学童編：10組の親子（子ども14名）
思春期編：6組の親子（子ども6名）
- いのちの授業 秋の公開講座（オンライン）
2022年10月9日（土）
低学年の部：1組の親子（子ども1名）
高学年の部：3組の親子（子ども3名）
中高年の部：3名

C3病棟看護科(小児科)

主任 伊藤千晶

1. 任務、役割

C3小児科は、小児科外来と病棟を担当しています。新生児から中学3年生までの小児内科疾患の患者様を中心に医療の提供を行っています。病棟では急性期疾患の他、食物経口負荷試験などの検査入院も行っています。また、小児の整形外科や耳鼻科、消化器外科（虫垂炎、鼠径ヘルニア）の手術患者様の受け入れや、成人のSAS入院EMRなどの検査入院、耳鼻科、眼科、術前の血糖コントロール目的での受け入れも継続しています。

小児科では、地域に選ばれる小児科を目指し、妊娠期から継続した子育て支援が出来るように日々努めています。

2. 体制 12名

職種

看護師 10名（うち保健師有資格者1名）
助産師 2名（保健師有資格）
病棟保育士 1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

①地域に選ばれる小児科を目指し、慢性疾患、長期に療養を必要とする患者様のフォローに力を入れてきました。今年度は胃腸炎などの流行があり、小児の入院が前年度より増加しました。また、今年度も継続して、内科の検査入院（EMR）、日帰りの胃瘻交換や成人の耳鼻科の手術患者様や点滴加療の患者様、術前の血糖コントロール入院、眼科も積極的に受け入れ占床率は前年度を上回る結果となっています。

②今年度もHPH・SDHの視点で地域医療活動を行い、チーム医療の質の向上にも努めました。小児虐待対策チームの活動を継続し、地域連携を大切に、地域との情報共有を中心に行ってきました。

子育て支援では、今年度もCOVID-19の影響で健診での集団教育が出来ない中、問診に力を入れ、多職種での個別相談を行ってきました。『命の授業』や『喘息教室』は、ZOOMを利用して開催し、患者教育を行うことができました。『小児科公式LINE』を開設後、子育て支援チームのスタッフ中

心となり、子育て中に役立つ情報を継続して配信できました。また、子育て支援の一貫としてZoomを使用した『巣ごもりカフェ』なども開催できており、地域の方々との交流も行っています。

さらに、小児科ではひらがなの読み書きが苦手なお子さんへの『学習支援』も行っており、毎月継続した支援が行えています。

③今年度から外来通院で重症心身障害児に対しての、リハビリも開始しており、他職種と連携を図りながら、親子が地域で暮らしていけるように関わることができています。

(2) 実績

①新規入院患者数	545人
②入院延べ人数	1,253人
③平均在院日数	3.3日
④平均占床率	38.0%
⑤成人患者	334人
⑥手術件数	110件

4. 教育、研修、研究活動

(1) 学術・研究等の発表

演題名	主催
継続支援が必要な親子を支える外来作り	第17回全日本民医連小児医療研究発表会 第9回埼玉民医連学術・運動交流集会

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ① コロナ感染症の動向を見ながら、少しずつ外来診療の運営方法を変更し、地域の要望に応えられる外来を目指します。
- ② 産科と協力して産後ケア事業を充実させ、親子のフォローができるよう努めていきます。
- ③ 紹介患者様や救急依頼、他科入院の受け入れを積極的に行い、病床利用率増加に努めていきます。多職種と連携し、質の高い医療を提供していきます。
- ④ 子育て教室、離乳食教室など、コロナ禍で中止していた育児支援を再構築していきます。

C4病棟看護科

看護長 榎 佳子

1. 任務、役割

癌から生じる痛みをはじめとする体のつらい症状や、患者様と御家族が病気とともに生きることの心のつらさが和らぐよう、多職種チームで連携し支援しています。残された時間をその人らしく過ごしたい場所で過ごせるように、症状が軽快されたら在宅調整の支援を行ったり、患者様とご家族の要望を叶えられるよう支援を行っています。

2. 体制 18名

職種

看護師	17名
緩和ケア認定看護師	1名

3. 概要、特徴、特色

新入院患者数	250人
転入院患者数	62人
退院患者数	288人
死亡退院数	196人
在宅復帰率	31.1%
即日入院	94人
平均在院日数	19.4日
平均占床率	66.16%

(2) 特徴

地域から求められる役割として、患者の状態に応じ緊急入院を積極的に受け入れると共に社会的入院や長期療養の患者の受け入れも行い地域のニーズに応えられるよう努めています。地域連携を円滑にするために、地域連携カンファレンスを実施しつながりを深めています。

(3) 特色

病棟ではカンファレンスを重ねながら患者様にとって必要なケアを多職種とともに日々考えています。患者様の日常に寄り添い、その人らしさを引き出す支援に努めています。コロナ禍の中で患者様やご家族にとっての最善を常に考え続けケアにあたっています。緩和ケアチームとの連携を図りながらより専門的な緩和ケアの提供を行っています。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 多職種で連携し充実した緩和ケアの提供を図ります。
- (2) 病棟スタッフの在宅調整力・支援力UPを図ります。
- (3) 充実した緩和ケアの提供のため、病棟スタッフのスキルUPを図ります。

C5病棟看護科

看護長 中島美貴子

1. 任務、役割

2020年8月、新型コロナウイルス感染症患者の増加を受けて、感染症病棟となりました。2022年度のスタート時は患者数が少なく他部門へ支援に出向いていました。7月から患者が増え第7波に突入し一気に満床になりました。第8波の中、フェーズに応じ、5床から15床の受入病床となりました。軽症～中等症患者を受け入れ、救急搬入患者、発熱外来からの陽性者、埼玉県からの要請を受け、市内外からの入院要請にも迅速に対応できるよう努めています。

2. 体制 16名 (2023年3月現在)

職種

保健師	2名
看護師	14名
看護助手	2-3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病棟として、軽症～中等量患者の対応を行いました。

2022年度当初から10月頃を目処に一般病床への変換する方向であると示されていました。

5月、6月と患者減少傾向にありましたが、熊谷生協病院でクラスターが発生し3名のスタッフが支援に行きました。

第7波：7月の中旬から患者が増え、瞬く間に15床のベッドは満床になりました。介護度、医療依存度も高く、併せて、スタッフの感染が相次ぎ、他部門からの支援を受けて乗り切りました。院内発生、看取り方向となる患者も続き、直接面会、オンライン面会、ガラス越し面会が出来るよう取り組みました。

帝王切開後の褥婦、外科、整形外科、泌尿器科疾患、終末期など幅広い患者層のケアにあたりました。

第8波：10月から翌年2月まで第8波は続きました。高齢者施設からの入院も続いており、患者層は中高年層が大半を占め、退院調整が必要なケースが多くありました。

認知症患者へのケアは連日検討し、個別性のある看護を提供していきました。

新病院建設に伴い、外の景色がわからない状態であった為、カレンダーの設置や季節感のある装飾を施すなど認知機能を低下させないよう取り組みました。

また、リハビリ以外でも離床を進めてADLが低下しないよう計画立てていきました。

(2) 実績

①2022年1月～2022年12月

新入院患者数	247人
退院患者数 (死亡含む)	257人
死亡患者数	25人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

埼玉民医連 看護学会

COVID-19病棟 看護活動報告～3年目を振り返って～

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ①20床の内科一般病床へ変換に合わせた病棟運営をしていきます。
- ②スタッフが各委員会、係を含めた役割発揮が出来るよう取り組んでいきます。
- ③患者の疾患、状態に応じて必要な観察、ケアが実践出来るよう学び会える環境を作っていきます。
- ④働く職員の精神的ストレスを表出し、感染症と精神的負担に関する正しい知識をもって仕事を続けられるようにします。

D2病棟看護科

看護長 浅香真由美

1. 任務、役割

病床数は57床です。主に変形性関節症や脊椎、骨折や外傷などの急性期治療を必要とする患者様を受け入れています。患者様が安全に手術を受けられて、手術後のリハビリをスムーズに進められるよう、多職種との連携も密に行います。特に機能的改善を重視した看護、日常生活動作の援助や疼痛コントロールを行う場面で役割を發揮しています。

2. 体制37名

職種

保健師	2人
看護師	32人
看護助手	3人

3. 活動と実績等

新入院患者数	平均79人
延べ入院患者数	17,885人
平均在院日数	17.7日
病床利用率	86.0%
手術件数	959件
死亡数	0件

- 平均在院日数17.7日、月平均入院数79人となりました。多職種連携で退院を促進し、在院日数の短縮に努め、多くの新患も受け入れました。
- 人工関節手術を中心とした周術期看護にも力を入れてきました。
- 病棟会議ではさまざまなデータを分析し、早期退院に向け、多職種と課題について検討してきました。
- 医療機能評価受審を控え、業務全般の見直しや環境の整備も行いました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- さらなる周手術期看護のレベルアップを図ります。
- 入院早期からスクリーニングを行い、多職種と連携し退院困難患者の把握と早期介入を行います。
- リハビリ科と日常生活動作の獲得に向け協働し、さらなる在院日数の短縮を図ります。
- コロナ禍で自粛していた患者主体の学習会やイベントを再開し、満足度の高い療養生活の提供を行います。

D3病棟看護科

看護長 大西美希

1. 任務、役割

- 病棟数は55床です。
- 消化器悪性疾患（消化器がん・呼吸器がん・乳がん等）や良性疾患（胆石・虫垂炎・腸閉塞・単径ヘルニア等）の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。
- 化学療法室と連携して術前・術後の化学療法を受ける患者様を受け入れています。
- 整形外科疾患（上肢下肢の骨折・大腿骨頸部骨折・脊椎疾患）の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。

2. 体制 39名

職種

保健師	4名
看護師	30名
認定看護師	2名（がん化学療法、癌性疼痛看護）
看護助手	3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

入院患者数	1,326人	(110.5人/月)
入院延人数	14,223人	
平均在院日数	10.8日	
病床利用率(占床率)	78.3%	
手術件数	649件	(緊急104件)
※外科系腹腔鏡下手術の割合：48.07%		

(2) 総括

- ①医師やメディカルスタッフと協力して入院患者の医療・看護に取り組みました。
- ②がん医療においては、がん関連認定看護師を中心に、外科、乳腺外科のキャンサーボードを定期開催し、多職種での情報交換・共有により切れ目のなく取り組みました。
- ③整形外科疾患の患者を昨年度より多く受け入れ、周手術期・退院指導を含めた医療・看護に取り組みました。
(整形外科入院数216件)さらに、積極的に緊急手術の受け入れをおこなってきました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 各種参加

- 2月 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会
- 10月 第60回日本癌治療学会学術集会

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 高難易度の手術に対応できる周術期看護のスキルアップを目指します。
- (2) 多職種と協働し、術前から退院に向けた患者教育の充実を目指します。
- (3) クリニカルパスの評価・修正を進め、適切な治療・看護を提供します。

D4病棟看護科

看護長 佐藤笑美子

1. 任務、役割

D4病棟はHCU4床と、循環器疾患・糖尿病・腎臓病・脳梗塞や脳出血などの血管障害の患者様が入院されている一般病床46床を合わせた病棟です。多職種で患者様に関わる業務体制を整え、質の向上をめざしています。また、医師の初期研修の場として、医師・看護師がともに学び合う環境作りを目標に活動しています。

2. 体制39名 (2023年3月末日現在)

職種		
保健師	6名	
看護師	31名	非常勤含む
認定看護師	1名	皮膚排泄ケア
認定看護師	1名	集中ケア

3. 活動と実績等

HCU病棟として、救急からの重症患者様、院内の急変患者様、手術後ハイリスク患者様などの重症管理が必要な患者様の受け入れを行い、入退室基準に沿って運営しています。

集中ケア認定看護師を配置し、重症治療管理のほか、身体的ケア・精神的ケア・家族ケアの実施、早期のリハビリ介入をし、重症者の看護の実践が適切に行えるように活動しています。身寄りのない患者様などの治療方針を多職種でカンファレンスを日々実施し、HCU退院後の退院支援につなげました。

また、一般病床では、患者様・ご家族の意向を伺いながら、病気や生活とどのように向き合うのか、最期はどこで迎えるかを考えていただけるように支援しています。慢性疾患を抱えた患者様には、生活状況を確認し、病気を理解したうえで日常生活を送ることができるように疾患別パンフレットを用いて指導を行いました。

感染対策のなかでの面会禁止で会うことのできない家族が病前・病中・病後の患者様をイメージできるように入院時から関わりを持って支援を行いました。

実績（月平均）

入院患者数	84.3件 / 月
平均在院日数（一般）	12.0日 / 月
病床利用率（一般）	91.7% / 月
ペースメーカー移植術	9件
心臓カテーテル検査	129件
内シャント造設術	41件
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	85件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	三久保宏子	脳卒中チームの発足と再発予防へのアプローチ～急性期治療開始からの患者指導～	埼玉県第7支部看護学会	埼玉県
④	手川裕子	Rapid Response System (RRS) 導入の経過と課題～4つのコンポーネントの視点から～	埼玉民医連看護学会	埼玉県

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学運交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研

会場：ZOOM

5. 今後の展望・次年度に向けて

2023年度は移転計画があり、HCUが8床に増床します。より一層救急患者の受け入れを効果的に実施できるように、医師をはじめ多職種連携し、基準・手順の整備や看護師の育成を進めていきます。

D5病棟看護科

看護長 大森有紀

1. 任務、役割

脳血管疾患、運動器疾患、急性期治療後の廃用症候群の患者を中心に、回復期リハビリテーションを提供し、障害受容から地域社会復帰に向けた支援を行っています。

2. 体制 28名

職種	
医師	2名
保健師	2名
看護師	18名
介護福祉士	8名
事務総合職	1名

※上記以外

社会福祉士3名、薬剤師1名、管理栄養士1名
理学療法士11名、作業療法士10名、
言語聴覚士5名（兼務）、歯科衛生士2名（兼務）

3. 概要、特徴、特色

回復期リハビリテーション病棟入院料3を算定しています。

チーム医療の展開により、患者、家族が安心して住み慣れた環境に戻れるよう、退院支援を行い、在宅復帰率が高い実績があります。

(1) 実績

入院患者数	276人
退院転出数	279人
平均在院日数	60.6日
病床稼働率	89.3%
在宅復帰率	90.9%
重症患者回復率	82.5%
アウトカム評価（実績指数）	48.75

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特記なし

5. 今後の展望・次年度に向けて

動画撮影を用いた病状説明、感染対策を徹底した介護指導などが定着し、家屋調査を再開しました。退院困難な方であっても後に生活に困らないような支援を行いま

した。今年度は、リハビリ職員がモーニングケアに入ることによって、患者様が日常生活動作をスムーズに獲得できるようにしていきます。また、薬剤師や看護補助者が転倒転落カンファレンスに入り、多職種の視点で患者様を支援し、安全にリハビリを進められるようにしていきます。

透析看護科

看護長 砂川千恵子

1. 任務、役割

透析室では入院透析と外来維持透析を行なっています。入院は糖尿病外来や腎外来からの予定導入、症状悪化による緊急透析、他施設の維持患者で入院が必要な場合の透析に対応しています。維持患者には合併症予防のため、食事・水分管理や日常生活に対する患者指導を行なっています。また、シャント不全のシャント拡張術も対応しています。

2. 体制21名 (2023年3月末日現在)

職種	人数
看護師	14名
准看護師	2名
臨床工学士	4名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

(1) 特徴

- ①急性期および透析導入病院の役割として、緊急透析患者の対応、糖尿病外来・腎外来と連携し、透析導入患者への生活指導を実践しています。
- ②エコー下での穿刺の技術の習得や、カテーテル留置患者へのケアなど、安全で安心な透析治療を提供しています。
- ③透析医療チームを立ち上げ、医師・看護師・臨床工学士・栄養士・薬剤師・事務など多職種で情報共有や年間目標を立案し、チームで取り組んでいます。

(2) 実績

年間透析件数	10,614件
新規透析導入数	38人
外来透析管理患者数延べ	751人
入院透析管理患者数延べ	361人
シャント拡張術	96件
内シャント造設術	43件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
④	盛 雅巳	透析運動療法 導入の実際	埼玉協同 病院	埼玉協同 病院

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民
医連学運交、④埼玉民医連看護学会、

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 透析看護外来で糖尿病や慢性腎臓病の患者・家族への指導を行い、透析導入病院としての役割を發揮していきます。
- (2) 臨床工学技師や栄養士など多職種と連携し、維持透析患者への生活指導を実施し、安定した維持透析治療や看護を提供していきます。
- (3) シャントの管理や、穿刺（エコー下穿刺含む）の技術の向上を目指し、患者への苦痛の軽減に努めます。
- (4) 災害発生時や緊急時に対応できるよう環境整備や防災訓練を実施していきます。

手術看護科

看護長 熊木直美

1. 任務、役割

手術室では周術期における患者の安全を守り、手術が円滑に遂行できるよう、正しい知識を身に付け、常に最新の技術を提供しています。

2. 体制36名（2023年3月末日現在）

職種	
手術看護実践指導看護師	1名
保健師	2名
看護師	26名
准看護師	1名
看護助手	5名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

今年度もコロナ禍で面会ができない中、手術患者様やご家族が少しでも安心して手術に望めるよう寄り添った看護を行ってまいりました。手術後は一人でも多くのベッドサイドに訪問できるよう心がけ、訪問率90%以上を維持してまいりました。

また、週1回のペイン外来は開始当初の2倍の受診数となり、来年度からは週2回の外来体制に拡大されます。

(1) 手術実績（前年比）

各科手術件数	2,718件（107.3%）
	外科655件、整形外科1,503件、産婦人科296件、透析科46件、耳鼻咽喉科58件、眼科160件
全身麻酔手術	2,010件（101.5%）
術前訪問件数	1,950件 / 外来手術は対象外
術中訪問件数	203件 / 3時間以上の外科手術対象
術後訪問件数	2,189件

(2) ペイン外来実績

年度	2018	2019	2020	2021	2022
外来件数	951	958	1,005	1,395	1,489

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

- 〈埼玉民医連看護学会〉
「帝王切開術を受ける外国人患者の不安軽減への取り組み」
「手術部位感染予防における現状と介入効果」
- 〈学術運動交流集会〉
手術室における急変対応のシナリオ演習の有用性
- 〈医療活動交流集会〉
「ペイン外来担当看護師育成と今後の課題について」
「術後訪問率の維持、向上するための取り組み」
「異国新系の活動」

看護長 高橋里美

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) スタッフ育成 (2) 周術期看護の連携強化
(3) ペイン外来の拡充 (4) 手術支援システム導入
(5) ふれあい生協病院外来手術室の活用

看護育成課

1. 任務、役割

看護育成課の役割は、人材の確保と育成、キャリアアップ支援と考えています。私たちのビジョンは、民医連の看護の継承と、一人ひとりの看護観の実現を支援することです。

2. 体制 3名

職種

助産師	1名
看護師	2名

3. 活動内容と実績

(1) キャリア1 (看護職員1～3年) 育成

キャリアアップ委員会のもと、看護教育センターとしての機能を有し、教育要綱に沿って 北部・西部・中南部サポートセンターと連携しながら看護職員を育成しています。教育担当者の育成支援も行なっています。

① 1年目看護職員研修

看護支援システム（ナーシングシステム）を活用しながら、集合研修での技術演習や集中講座、OJTを組み合わせた研修をすすめました。

② 2年目・3年目看護職員研修

いのちの章典、保健予防活動、健康の社会的決定要因について学び、事例やフィールドワークを通して互いの経験を共有しあうことで成長の機会となりました。

(2) 経験者入職時の支援

入職時オリエンテーションと、入職後の定着と不安軽減を目的とした1ヶ月後面接が定着しました。

(3) 看護学生・高校生への関わり

①看護学生実習受け入れ状況(2022年6月～2023年2月)

コロナウイルス感染症拡大で実習時間短縮や、やむをえず中止もありましたが10校・実人数205名を受け入れました。

学校(県内・県外)	学校数	実人数
大学	6	123名
専門学校	2	76名
助産実習	2	6名

②高校生企画(看護学生委員会と共催)

高等学校への出前授業2回、県民の日にも職種合同で

医療職体験を開催し、将来の職業選択を考える事につながりました。高校生向け看護体験をオンライン2回、親子体験を1回と受験のための模擬面接を2回実施しました。

③看護学生向けインターンシップ11回、個別対応で18回受け入れました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名	主催者
看護教育センターの実践報告 ～ With コロナの人財育成～	第9回 埼玉民医連 学術・運動交流集会
A病院看護部キャリアラダー運用 に向けての取り組み	2022年度 埼玉民医連 看護学会

看護サポート

主任 高田千春

1. 任務、役割

看護補助業務として安全で快適な療養環境整備を看護師指導のもと、業務を遂行します。また看護師と看護補助者が協働する中でより質の高いケアを提供できるよう日々職員の力量向上や能力開発に努めています。

2. 体制46名（2023年3月末日現在）

職種		
看護助手	10	常勤
看護助手	38	非常勤

3. 活動と実績等（教育計画）

- ・医療安全学習（車椅子移乗移動介・食事介助・口腔ケア）
- ・感染対策学習（手指衛生とPPEの着脱）
- ・SDHについて学ぶ
- ・透析糖尿病についての学習
- ・感染症の基礎知識（インフルエンザ・新型コロナウイルス）
- ・LGBTQについて人権学習

薬剤科

部責主任 吉田卓司

1. 任務、役割

- ・今年には術後疼痛管理チームにも参加を始めました。引き続き、外来救急薬剤師業務、術前外来、手術室での麻薬、医薬品の使用、払い出し、在庫管理の業務に関わってきました。その他に、さらなるカルテの記録の改善、危険薬や注意を要する薬剤の安全管理の向上の取り組みを進めてきました。
- ・引き続きカンサーボードに分担して参加し、レジメンの検討、作成、個々の投与設計などに積極的に関わり、がん患者指導管理料への算定に必要な業務本格的に進められ、的確で安全ながん診療に参画してきました。
- ・ICT、がん化学療法、NST、緩和、各診療科チームなどにも積極的に関与、病棟会議、病棟朝会への参加を進め、チームによる医療の質向上に努めてきました。

2. 体制32名

職種	人数
薬剤師	29名 (うち、非常勤1名)
薬剤助手	2名
事務スタッフ	1名

■資格取得

認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師、外来がん治療認定薬剤師、※栄養サポートチーム専門療法士、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士、スポーツファーマシスト、診療情報管理士、埼玉県肝炎コーディネーター

3. 概要、特徴、特色

①採用医薬品数1,473

新規採用医薬品数 106品目

医薬品廃棄率 0.265% (2021年は0.232%)

②外来院内処方箋枚数 20,197枚 (2021年は13,242枚)

院外発行率 平均87.7% (2021年は91.3%)

入院処方箋枚数 49,490枚

注射処方総数 (Rp) 280,006件

注射セット件数 (Rp) 228,408件

注射セット率 (Rp) 81.57%

③薬剤管理指導業務 他

- 1) 入院服薬指導実人数 7,375人
- 2) 退院時薬剤管理指導数 4,063人
- 3) 病棟薬剤業務実施加算 14,111件
- 4) 薬剤総合評価調整加算 100点239件、150点111件
- 5) 退院時薬剤情報連携加算246件
- 6) 周術期薬剤管理加算1,248件

④無菌調剤件数

- 1) TPN 無菌調製件数 246件
- 2) 外来化学療法件数 1,147件
- 3) 入院化学療法件数 164件
- 4) 無菌製剤処理 (細胞毒性) 件数 1,250件
- 5) 携帯型ディスプレイ混注件数 529件

⑤がん患者指導管理料ハ 91件

がん化学療法レジメン管理数227件
(新規作成24件 改定9件 削除0件)
がん連携充実加算308件

⑥TDM 67件

⑦DI業務

- 1) 質疑応答 110件
- 2) DI ニュース 12回発行 (No.633~644)
- 3) 一般使用成績調査10例 副作用詳細調査 9例

⑧安全管理業務

- 1) 副作用報告 全日本民医連 35件、厚労省 (PMDA) 35件
- 2) 医薬品副作用被害救済制度 申請3件
- 3) プレアボイド報告 612件
- 4) 中毒対応件数 23件

4. 教育、研修、研究活動

・埼玉民医連学術運動活動報告

「非癌患者に用いるモルヒネの使用状況調査」

「HPV ワクチンを安全に接種するための取り組み」

「バンコマイシン注 (VCM) 初回投与後の追加投与についての検討」

「周術期の薬剤科の活動報告～万全に手術に望むために薬剤師が出来ること」

・第6回日本老年薬学会学術大会 5/14-15

・「介護老人保健施設における薬剤師の介入効果の検討」

・第15回日本緩和医療薬学会 5/14-15

「呼吸困難感に対するヒドロモルフォン製剤の使用実態調査」

・第24回地協薬剤師交流会 6/19

退院時薬剤情報提供書を活用した薬-薬連携の取り組み

- ・日本病院薬剤師会関東ブロック第52回学術大会
8/20-21

「情報提供書を活用した薬薬連携の取り組み」

- ・学会等の参加

第6回日本老年学会 5/14- 5/15

第15回日本緩和医療薬学会 5/14- 5/15

日本臨床救急医学学会学術大会 5/26- 5/27

日本病院薬剤師会医薬品安全管理者等講習会 6/11

第37回日本経腸栄養学会学術集会 5/31- 6/1

第70回日本化学療法学会総会 6/3- 6/5

第4回老年学会総合研修会 6/26

第4回皮膚褥外用薬学会学術集会 6/11- 6/12

日本病院薬剤師会 東北ブロック第11回学術大会 6/25-
6-26

医療薬学フォーラム2022 7/23- 7/24

第32回医療薬学会年会 9/24

検査科

科長 金泉恵美子

1. 任務、役割

- (1) 迅速に正しい検査データを提供して早期治療へ繋がるように努めます。
- (2) 適正な検査が行えるよう院内への情報提供をするとともに安全な検査が実施されるよう働きかけます。

2. 体制 30名 (2023年3月末日現在)

職種人数

臨床検査技師 30名 (非常勤5名含む)

〈専門資格〉

細胞検査士 3名

超音波検査士 (消化器) 4名

超音波検査士 (表在) 3名

超音波検査士 (心臓) 2名

認定血液検査技師 2名

認定病理検査技師 1名

3. 活動と実績等

- (1) 報告書管理対策チームに参加し、病理検査結果について患者説明が確実に診療に活かされているか読影結果の追跡を行いました。
- (2) 実績

項目	件数
新型コロナ抗原 (定量)	5,724件
SARS-Cov-2 PCR	7,031件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特記なし

5. 今後の展望、次年度に向けて

- (1) 埼玉協同病院およびふれあい生協病院の職員が協力して地域住民に質の高い医療を提供していきます。
- (2) 全世代がタスクシフト研修をはじめする研修会や学会に積極的に参加、各検査分野の認定資格取得などをすすめる専門性の高い職員育成に取り組みます。

放射線画像診断科

放射線画像診断科 松本 茂

1. 任務、役割

一般撮影装置、マンモグラフィ撮影装置、X線TV装置、CT装置、MRI装置、血管造影装置、超音波装置、骨密度測定装置を有し、外来、入院、健診の検査に携わっています。

2. 体制 34名

職種	人数
診療放射線技師	常勤29名 非常勤1名
事務	非常勤4名

3. 概要、特徴、特色

(1) 特徴

各診療科から依頼される各種検査および健診を中心に業務を行っています。画像を提供するだけでなく、診療放射線技師として医師による画像診断の補助に積極的に関わることを目指し、CT、超音波検査、上下消化管検査では技師コメントを読影レポートに記載しています。また、画像診断の結果が確実に診療に活かされるよう放射線技師が読影レポートの内容と受診状況を確認し、必要に応じて主治医に報告するフォロー体制を確立し、毎日の業務としています。

(2) 技師取得認定

認定・資格	人数
放射線管理士	6名
放射線機器管理士	3名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	4名
超音波検査士(消化器)	1名
超音波検査士(体表臓器)	1名
乳腺超音波検査認定技師	2名
胃がん検診専門技師	1名
胃がんX線検診技術部門B資格	2名
胃がんX線検診読影部門B資格	2名
X線CT認定技師	3名

(3) 施設取得認定

医療被ばく低減施設認定

マンモグラフィ検診施設画像認定

(4) 実績 2022年1月～2022年12月

検査名	検査数
一般撮影	43,497
ポータブル撮影	10,827
乳房X線撮影	1,255
骨塩定量測定	1,564
CT	17,162
MRI	7,393
X線TV	1,578
血管造影	374
超音波	5,259

4. 教育、研修、研究活動

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 埼玉協同病院、ふれあい生協病院一体での研修計画を策定し、専門性を高める職員研修に取り組んでいきます。
- (2) 放射線画像診断科症例発表会をはじめモダリティごとの症例検討会を開催し、読影知識向上に取り組んでいきます。
- (3) 各検査の読影フォローを継続的に行い検査結果が確実に診療に活かされるよう取り組んでいきます。
- (4) 医療被ばく低減認定施設として、医療被ばくの適正化、病院職員への教育、医療被ばく相談に取り組んでいきます。
- (5) 部門として積極的に告示研修に取り組んでまいります。

リハビリテーション技術科

科長 吉田知行

1. 任務、役割

(1) 病棟及び外来におけるリハビリテーションの機能と役割

医師の指示のもと理学療法・作業療法・言語療法・摂食機能療法・口腔ケアを実施し、患者様、ご家族様を中心に、医師、コ・メディカル、ケアマネージャーなどと協力し、社会復帰を目指します。

①回復期病棟

急性期治療が終了した回復期の患者様に対しリハビリテーションを実施します。質の高い生活が行えるよう、その方にあったリハビリテーションを提供します。

②整形外科病棟

入院直後より退院後の生活を想定し、退院後も獲得した能力が維持できるようリハビリテーションを提供します。

③内科病棟

急性期の治療中及び治療後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。廃用症候群などの二次的合併症の予防を行います。

④外科病棟

手術前後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。術前呼吸リハや術後の廃用症候群などの二次的合併症の予防など行います。

⑤緩和ケア病棟

患者様・ご家族様の希望をかなえられるようリハビリテーションを提供します。

⑥外来

在宅生活を送る上での疑問や工夫などを常に確認しながらリハビリテーションを提供します。

2. 体制71名（2023年3月末日現在）

理学療法士 39名 作業療法士 22名

言語聴覚士 7名 歯科衛生士 2名 事務1名

3. 活動と実績等

①一般病棟

- ・リハビリ介入率 59.3%
- ・入院3日以内介入率 78.9%
- ・入院7日以内介入率 95.2%

②回復期リハビリテーション病棟

- ・実績指数 48.5
- ・患者一人当たり1日提供単位数 5.3単位

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

臨床実習指導者講習会へ参加しています。

食養科

科長 廣澤教子

1. 任務、役割

食を通して「身も心も養う」という理念に基づき、入院患者様へ安心・安全な食事提供を行うと共に、食生活相談やチーム医療の中で患者様の栄養管理のための役割を發揮しています。外来患者様へは個別食生活相談や保健指導、各種教室などを行い、地域では在宅食生活相談や健康班会・料理教室、各世代ステージに合わせた食生活支援等、各種教室を行っています。また、地域の院所と栄養の情報を共有できるよう栄養情報提供書の作成など、地域包括ケアの取り組みも行っていきます。

2. 体制 50名

職種		
管理栄養士	18名	(うち非常勤職員 5名)
栄養士	1名	
調理師	13名	(うち非常勤職員 2名)
非常勤調理員	17名	
非常勤事務	1名	

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

外来食事相談件数	2,408件 (月平均201件)
入院食事相談件数	2,327件 (月平均194件)
集団食事相談件数	51件 (月平均4.3件)
在宅食事相談件数	2件
特定保健指導件数	164件
入院患者食数	244,530食 (月平均20,378食)
選択メニュー数	42,752食 (月平均3,563食)
特別食加算の割合	月平均43.9%
1食あたり食単価	月平均312円

(2) 活動内容

- ① NST 回診 週1回
- ② 褥瘡回診 週1回
- ③ 緩和回診 週1回
- ④ アレルギー外来 週2回
- ⑤ 乳児健診 週1回
- ⑥ 糖尿病集団指導外来(はじめ外来) 週1回
- ⑦ 巣ごもりカフェ(産婦のサポート) 月1回
- ⑧ 各種教室(肝臓病・呼吸器・介護者等)

(3) 給食システム

安心、安全な食事を提供するために、ニュークックチルシステムを導入し、IH再加熱配膳カートを使用して食事を提供しています。

4. レストラン虹の森

病院直営のレストランとして、外来患者様・組合員さん・職員等への食事・軽食の提供や、お惣菜・お弁当等の販売を行っています。職員への福利厚生の一環としては、夜勤者・当直者への夕食の提供も行っています。また、『埼玉県健康づくり協力店(注1)』として、地域の健康づくりも担っています。

営業時間 11:30~15:00

※コロナの影響により、一時期休業させていただきました。

(1) 体制 11名

職種		
調理師	1名	(左記調理師が兼務)
非常勤職員	10名	

(2) 運営会議

- ① 体制 6名(うち組合員2名)
- ② 年間開催数 12回(毎週第3火曜日)

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 厨房改修中の仮厨房においても、満足度を落とさないために嗜好調査やミールラウンドなどを強化することで、患者様のニーズをつかんで対応します。
- (2) 新厨房の稼働に向けて、人員体制や献立の整備を行います。
- (3) 2病院間での管理栄養士の役割を明確にし、双方での入院・外来食生活相談および保健指導件数を増やすことで、経営に貢献します。
- (4) 多職種介入による栄養アセスメントから早期介入を行うことで絶食期間を減らし、低栄養状態のリスクの改善と、退院支援までかかわっていきます。
- (5) 新入職員、経験年数の少ない職員に対して、教育訓練を進め、民医連の職員として力を發揮できるようにします。

(注1)『埼玉県健康づくり協力店』とは、埼玉県が管理する健康増進を目的とした取組みのことで、一定の項目を満たした場合に認定されるお店です。

ME 科

科長 岡本雪子

1. 任務、役割

- (1) 安心して使用できる医療機器の管理をします
医療機器の専門職として点検・修理等、ME 機器管理を通して安全性、信頼性の高い医療機器の提供をします。
- (2) 専門職としてのスキル向上に努め、チーム医療の一員として力を発揮します。
- (3) 医療機器に関する事故ゼロを目指します
予防保全やスタッフへの教育により医療機器に関連の事故を未然に防ぎ、機器関連の事故ゼロを目指します。
- (4) 外来維持透析だけでなく CRRT、アフレスシス療法などを行ない、24時間体制で患者の命を守ります。
- (5) 在宅療養をされる患者様へ支援します
在宅療養される患者様やご家族へ装置の使用方の説明を行い安心して療養生活を送れるよう支援します。

2. 体制 14名 (2023年3月末日現在)

職種

臨床工学技士 14名

<専門資格>	人数
透析技術認定士	4名
透析技能2級	1名
3学会合同呼吸療法認定士	3名
第2種 ME 技術者	10名
医療機器情報コミュニケーター (MDIC)	1名

3. 活動と実績等

2022年度 ME 科月報

	2022年度												年度合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ME による修理件数	15	20	10	7	25	8	8	6	2	3	1	12	117
メーカーによる修理件数	11	2	6	5	7	10	7	7	2	2	10	5	74
職員の不注意による機器破損件数	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
装置の不具合による事故件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人工呼吸器 (NPPV 含む) 貸出件数	27	11	12	6	10	4	15	13	37	22	26	29	212
HOT 指導件数	7	9	7	11	5	6	10	6	2	4	3	5	75
CPAP 指導件数	2	1	1	0	1	2	0	0	2	1	5	3	18
在宅人工呼吸器指導件数	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	4
その他 ME 機器指導件数	1	0	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	7
ペースメーカ新規導入件数	2	2	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	9
ペースメーカ交換件数	1	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	8
自己血回収装置操作件数	0	0	0	0	1	1	1	1	1	4	0	0	9
神経モニタリング操作件数	4	3	4	4	4	4	5	1	2	5	4	4	44

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
②	過足莉乃 (臨床工学技士)	脊髄刺激療法に介入して	埼玉協同病院 (2022年12月17日)	埼玉県
②	相澤真衣 (臨床工学技士)	臨床工学技士によるシャントエコー業務介入の報告	埼玉協同病院 (2022年12月17日)	埼玉県

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学連交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研

会場：ZOOM

環境管理課

課長 小野秀敏

1. 任務、役割

- (1) 院内の施設設備管理、警備業務、清掃業務、バス運行管理業務を各委託業者と協力しながら行っています。
- (2) 主な資格：ボイラー技士1級・2級、エネルギー管理員、危険物取扱者（乙4類）、大気関係公害防止主任者・水質関係公害防止主任者・高圧ガス製造保安責任者（液化酸素）甲種防火管理者、甲種防災管理者、建築物環境衛生管理技術者（ビル管理士）、第2種電気工事士。

2. 体制3名（2023年3月末日現在）

職種	人数	備考
臨床工学技士	1名	
事務総合職	1名	
ボイラー技士	1名	
委託業者	施設：明新メンテナンス株式会社 清掃：株式会社 ボイス 警備：豊国警備保障株式会社 バス：株式会社 エム・ビー	

3. 活動と実績等

エネルギー使用量		前年比
電気	5,35,493kwh	98.3%
ガス	530,960m ³	104.9%
水	62,354m ³	103.8%
CO ₂ 排出量	3,781t	99.9%

- (1) 老朽化した施設設備の更新計画の立案と実施します。
- (2) エネルギー供給会社の検討、クリーンエネルギーの検討による環境負荷軽減します。
- (3) 非常災害マニュアル、BCPマニュアルの改訂等、災害対策を強化し、災害に強い病院づくりをすすめます。

医局事務課

部責主任 根岸千尋

1. 任務、役割

医局長を補佐し、医局運営課題を推進するため他職種と協力してよりよい医療が提供できるよう支援します。初期臨床研修医および後期研修医（専攻医）の対応、プログラムの管理と運営を行っています。

2. 体制5名（2023年3月末日現在）

職種	
事務総合職	4名
非常勤職員	1名

3. 活動と実績等

- (1) 医局目標に対して、医局運営委員会や月例医局会議で進捗確認を行い、達成に向けて取り組みました。
- (2) 初期研修医、専攻医、既卒医師、大学派遣などの非常勤医師に対し、医局のオリエンテーション、診療支援（電子カルテ操作説明）を行いました。
- (3) 初期研修委員会・専門研修委員会のメンバーを中心に研修全体の管理を行い、研修終了に向けた支援（研修システムへの登録・確認）を行いました。
- (4) 基幹病院、関連病院等の更新申請や年次報告の作成を行いました。
- (5) 後継者の確保・育成に対して、初期研修医7名、専攻医2名（連携含む）の入職が決まりました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 医局を中心に病院全体で後継者の確保・育成に取り組みます。全職員が専門研修プログラムへの理解を深めてもらえるよう、医局事務の役割を発揮します。
- (2) 初期研修医、専攻医や既卒医師に対してのオリエンテーションやレクチャーを計画的に行うような仕組みを構築します。また他職種と定期的に情報共有ができるシステムを検討します。
- (3) 医師の働き方改革に向けて、宿日直申請を進めます。

入院医事課

部責主任 吉岡洋輝

1. 任務、役割

病院の医療収入の半分以上を入院診療で占める中、入院で行われる医療行為を正確に、かつ漏れなくお金に変える事は病院の経営にも大きく関わってきます。

私たち入院医事課では、入院患者の会計業務、保険請求業務をはじめ、病棟運営のためのデータ作成・分析といった多岐にわたる業務を担い、医師・看護師が治療・看護に集中できる環境をつくり、患者様への質の高い医療の提供へつなげていきたいと考えています。

2. 体制11名（2022年3月末日現在）

職種

事務総合職	7名
事務スタッフ	1名
非常勤職員	3名

3. 活動と実績等

(1) 入院医事課の病院での役割

- ①入院患者が行われる医療行為をしっかりと収入につなげること。
- ②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメントすること。
- ③データをもとに各病棟の課題を洗い出し改善に向けた提案を行うこと。

(2) 活動

- ①入院患者の早期退院の促進
- ②加算算定率向上に向けた取り組み
(救急医療管理加算、入退院支援加算等)
- ③職員が働きやすい職場づくり
(超勤削減、有給休暇の取得推進)
- ④事務返戻・減点件数削減に向けた取り組み
- ⑤システムを活用した業務自動化の取り組み

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 頼られる事務の育成
- (2) 分析・発信力の強化（ツール・データの活用）
- (3) マネジメント力の強化（病棟運営・他職種連携）
- (4) 医療の質の分析・課題発見・提起
- (5) チーム医療への役割発揮（ファシリテーション能力）
- (6) 病棟移転後の稼働率維持

外来医事課

課長 田中紗代

1. 任務、役割

- (1) 急性期病院として機能発揮するため外来診療における課題抽出を行い、患者・病院職員にとって利用しやすい、働きやすい環境を整備します。
- (2) 多職種と連携し質の高いケアを提供できる診療科運営を行います。
- (3) 医師・看護師および関連部門と連携し、予算達成に向けた診療科マネジメントを行います。
- (4) 多職種と連携し正確な保険請求を行います。
- (5) 事務総合職としての職務への理解を深め、お互いに学び合い育ち合う組織作りを目指します。

2. 体制53名（2023年3月末日現在）

職種

事務総合職	13
事務スタッフ	5
非常勤職員	26
派遣職員	1
当直事務	15

3. 活動と実績等

外来医事課の病院での役割は、①病院で行われる医療行為をしっかりと収入につなげること、②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメント（会議運営・ファシリテーター）することなどがあります。

- (1) 内科・会計チーム（22名：常勤5、スタッフ職員3、非常勤13、派遣職員1）

①内科急患外来

- ・内科急患外来患者受け入れ、救急対応、転送時の対応、医師補助業務。

②専門外来

- ・糖尿病、呼吸器、循環器等、内科疾患の専門領域を扱う。
- ・患者受入れ、予約管理、検査説明および案内。
- ・チーム会議の運営。

③内視鏡業務

- ・内視鏡の予約管理、チーム運営。

④会計入力

- ・専門内科、婦人科、中央会計における患者窓口負担の計算

(2) 外科チーム (22名：常勤7、スタッフ職員2、非常勤13)

- ①皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科、婦人科
- ・各診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内。
- ・各診療科会議の運営。

医療社会事業課

部責主任 水本留美子

1. 任務、役割

- (1) 患者・家族が抱える以下のような問題に対し、個別に相談・援助を行います。
 - ①患者の療養にかかわる問題
 - ②経済的な問題
 - ③権利擁護問題
 - ④介護問題
 - ⑤心理・情緒的問題
 - ⑥医療・介護施設の紹介、活用できる社会保障制度の説明・相談援助
 - ⑦病気に対する医学的な質問や入院中あるいは生活上の不安の解消等
 - ⑧疾病の治療・介護と仕事の両立の問題
 - ⑨病院のシステムや職員の対応等についてのご意見や質問の窓口
- (2) 必要な社会保障制度の活用につなげ、院内の他職種や地域の様々な機関と連携し、患者が安心して療養・生活できるような支援を行います。
- (3) 個別の事例に共通する社会的な問題について、社会に向けて発信・問題提起を行い、制度や行政対応の改善や問題解決ができるよう取り組みます。

2. 体制14名 (2023年3月末日現在)

職種

社会福祉士	14	
精神保健福祉士	4	社会福祉士との重複取得者 4名

3. 活動と実績等

- ①入退院支援
 - ・多職種退院支援チーム会議に参加し、事例検討会や学習会を開催しました。長期入院患者について、月2回の定例部会内にて支援状況を確認し、対策検討を行いました。
- ②地域連携
 - ・「ケアマネ懇談会」を開催しました。事前アンケートにより実施し、要望多かった「身寄り無い方への支援について考える」をテーマとし、講師を伍賀道子氏(石川民医連 SW)に依頼し全体講義とグループワーク

を行いました。

- ・20年度より行われている、社会保険労務士と連携しての障害年金相談会を継続しました。職員の知識・経験も向上し、社労士に頼らずに障害年金受給に繋がった事例も生まれました。

③患者の受療権を守る取り組み

- ・全日本民医連の「経済的自由による手遅れ死亡事例調査」について、東洋大学ライフデザイン学科の吉浦教授と共に分析を行い、その実態について、埼玉県記者クラブにて記者会見をしました。又、県政要求行動にて発言しました。
- ・川口社会保障協議会開催の川口困りごと相談会に参加し、主に医療問題についての相談対応をしました。
- ・外国人への対応について主に「難民支援協会」「北関東外国人相談会」「在日クルド人と共に」等と連携し、当院の無料低額診療事業も活用しながら日本の社会保障制度が利用できない方が医療を受けられるよう対応をしました。
- ・外国人の医療問題について4回シリーズで学習会（「難民の置かれている状況、ウクライナ情勢を皮切りに：難民支援協会」「東京クルド+当事者からの報告：法人職員、組合員、ワーカーズコープ共催」「外国人労働者の現状と共生にむけて：NPO 法人 POSSE」「日本の在留資格について：川越法律事務所弁護士」）を行いました。他病院の職員にも参加してもらいました。
- ・ホームレスの生活保護申請や無保険者の保険加入、無料低額診療事業の活用を通じて、経済的に困窮している方が受診できるようにしました。
- ・フードバンク・フードドライブの取り組みを活用し、生活困窮者への食料提供と同時に生活問題解決の為の相談支援を行いました。
- ・じん肺・アスベスト患者の対応が適切にできるように、建設型アスベスト給付金法について学習し、医師・看護師と外来体制を整備しました。建設アスベスト給付金受給者を2名生み出すことができました。

④自己研鑽の取り組み

- ・21年度から引き続き東洋大学ライフデザイン学科の吉浦教授を招いての事例検討会を4回開催しました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	竹本耕造 (社会福祉士)	アスベスト問題への取り組み～働く者の健康問題を考える～	埼玉県医療社会事業協会 (2023. 2. 18)	大宮ソニックシティ+ZOOM
①	竹本構造	非正規滞在外国人の医療問題支援の取り組み	学術 (2022.12.17)	ふれあい会館
①	松島愛子 (社会福祉士)	SHJ 推進委員会における戦争体験聞き取り活動の報告	学術 (2022.12.17)	ふれあい会館
①	灘本悠 (社会福祉士)	地域包括ケア病棟への転院調整に関するアンケート結果の報告	学術 (2022.12.17)	ふれあい会館
①	杉田葵 (社会福祉士)	本人の意志尊重と家族支援における他職種・他機関のかかわり方	学術 (2022.12.17)	ふれあい会館
②	水本留美子 (社会福祉士)	相談支援に関するアンケート調査から分かった事	医療活動交流集会 (2023.02.18)	ふれあい会館
②	竹本構造	在日クルド人も対象にした虫歯の取り組み報告	医療活動交流集会 (2023.02.18)	ふれあい会館
②	熊谷瑛梨 (社会福祉士)	外国人患者対応に関する意識調査から見えてきた現状と課題について	医療活動交流集会 (2023.02.18)	ふれあい会館

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学連交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研

会場：ZOOM

地域連携課

課長 伊藤 剛

1. 任務、役割

- (1) 地域医療機関と協力して、患者様の望む医療を提供します。地域全体でより質の高い継続性のある医療を患者様に提供するために、地域医療機関との連携を強化し、当院と地域の医療機関とをつなぐ役割を果たします。
- (2) 当院の機能を十分に発揮できるように努めます。私達は地域医療機関や患者様からの依頼・問い合わせへの対応能力を強化し、外来・入院・救急医療に貢献し、地域に選ばれる病院を目指します。
- (3) 誇れる医療活動を伝えます。
当院の医療活動を地域に伝え、誰もが安心して利用できる病院情報の発信を行います。
- (4) 患者様の医療、健康を地域全体で守るために、安心してかかれる地域の医療機関との信頼関係を構築するお手伝いをします。
- (5) 訪問活動・連携会議を通じて、地域医療機関と『顔の見えるネットワーク』を構築します。

2. 体制32名 (2023年3月末日現在)

職種

事務総合職	5名
事務スタッフ	5名
非常勤職員	22名

3. 活動と実績等

- (1) 地域連携チーム (6名: 常勤4、スタッフ職員1、非常勤1)

[1] 地域連携 (院内業務)

- ①地域医療機関から紹介される患者様の依頼・ニーズに応えるべく、受診・入院・検査において各職種と連携し、迅速かつ安心と満足の医療が提供できるように調整を図りました。
- ②紹介患者様に関する診療情報提供書や報告書の管理を行い、紹介元医療機関へ迅速かつ確かな情報提供を行っています。
- ③当院で完結できない医療に関して、安心して治療が継続できるように専門病院への受診調整や、安定した患者様へ逆紹介をスムーズに進めています。
- ④開業医名簿アクセスを用いて、地域医療機関の情報

をタイムリーに集積・更新し、全職員へ情報共有できるようにしています。

- ⑤紹介率(数)・逆紹介率(数)を管理・分析し、当院の機能・医療水準を図る指標とし、今後の戦略を提案しています。

[2] 地域連携 (院外連携)

- ①開放型病床登録医との「共同指導」の運営管理を行い、新規登録医の拡大を図りました。
- ②地域医療懇談会の運営・事務局を行いました。
2022年12月1日(木)実施(参加80名)
- ③地域医療機関へ、書類やデータなどの定期訪問を通じて、コミュニケーションを向上し、信頼関係の構築を図りました。
- ④広報活動を通し、当院の診療体制や医療活動・採用薬の変更を知らせています。
- ⑤病病連携の強化の為に、近隣病院の地域連携の会や、地域連携クリニカルパスの協議会へ参加しました。

[3] 患者様へのサービス

- ①当院の機能だけでなく、地域医療機関の情報を提供し、患者様の選択肢・自己決定できる支援を行います。
- ②休診・時間外対応やベッド満床時、患者様の病状やニーズに沿った地域の医療機関を案内しています。
- ③患者様の受療権を守り、通いやすく治療中断しない医療サービスを提供しています。

- (2) 受付チーム (15名: 常勤1、スタッフ職員1、非常勤11)

- ①初診再診の受付、保険証確認、見舞い客の案内、文書申込み、各種お問い合わせ等
- ②総合案内業務
- ③紹介専用窓口
- ④収納業務

2022年11月より外国籍の職員を採用し、外国人患者対応の幅が広がっています。

- (3) 入院受付チーム (4名: 常勤0、スタッフ職員1、非常勤3)

- ①予約入院業務
- ②病床運営に関係するデータの管理や分析、地域への発信
- ③埼玉県広域災害救急医療情報システムへの発信

(4) 電話交換チーム（7名：常勤0、スタッフ職員1、非常勤6）

①代表電話交換

②各診療科電話予約、検査予約

システム管理課

課長 大野弘文

1. 任務、役割

- (1) 情報システムの適切な運用を行います。
- (2) 医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供しています。
- (3) 医療経営情報の把握できるシステムを開発し、医療の質の向上に貢献します。
- (4) 資質の向上に努め、法令遵守をすすめます。

2. 体制 3名

職種

事務総合職	2名	うち1名医療情報技師
管理栄養士	1名	

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

- ①12月に発熱外来の負担軽減と来年度以降を見越して患者が問診を入力できる、「テンプレート問診」を導入。転記作業の負担軽減を支援。
- ②サイバーセキュリティについて新システムでの対応方針の決定。
- ③オンライン資格認証に対応するため、準備をすすめ本稼働は5月より開始できる見込み。

(2) 電子カルテ委員会

電子カルテ委員会と連携し、電子カルテ更新の事務局機能を担っている。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

(1) 外部研修

- ①電子カルテユーザーフォーラム
- ②オンラインセミナー セキュリティ対策 など

5. 今後の展望・次年度に向けて

2023年度は電子カルテ更新と2病院化を成功させるため、操作研修、リハーサル、ハードウェア更新を計画的にすすめます。通信インフラ更新による、影響を把握し対応できる力をつけていきます。また、システム更新によって出来るようになること、出来なくなることを把握し、稼働後のフォローアップを継続して職場を支援していきます。

医師アシスト課

課長 菅原千明

1. 任務、役割

医師が専門的な知識・技能を生かして患者に安全・安心な医療を提供するためには、各職種の適切な業務分担と連携が必要です。医師アシスト課では医師事務作業補助者が28名在籍し、医師の事務作業を支援することによって医師が診療に専念できる環境を提供しています。

2. 体制25名 (2023年3月末日現在)

職種		
事務	6	常勤
事務	22	非常勤

3. 活動と実績等

1. 医師からの各種依頼・相談に応えられる体制を構築しています。
内科、整形外科の診療支援や診察陪席での代行入力等により、診療中の医師の依頼に応えられる医師事務作業補助者の配置を行いました。
2. チーム医療への役割を担っています。
検査・手術オーダーの手配や実施確認、クリニカルパスの適用、書類やデータ準備などを中心に、迅速な業務対応に努めました。
3. 学会・研究のための資料作成を行っています。
再生医療や人工関節手術の症例入力、手術台帳作成等主に外科分野の症例データの入力を行っています。
データは医師の学会発表、研究、資格申請等に活用されています。
4. 効率的で、精度の高い書類作成支援を行っています。
年間約14,000件の診断書や医師サマリー、診療情報提供書の作成支援を行いました。
5. 医師事務作業補助者としての基礎能力である医学的知識と事務処理能力を向上に力を入れています。
短期と長期の育成課題を明確にしたキャリアパス、キャリアラダーをもとに、医師事務作業補助者のスキルアップに取り組みました。毎月の学習会、夕会時の学習会で知識の共有化を図りました。

6. 電子カルテ更新に向けて、オーダーマスターやセットの設定等を行っています。
新しい電子カルテで医師がスムーズに診療ができるよう、医師と相談し、各種オーダーセットの設定作業を進めています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
②	菅原千明 (事務)	クリパス利用状況とクリパス更新準備について	クリパス委員会 2022年11月30日	医療生協 埼玉協同病院 (埼玉県)

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学運交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研
会場：ZOOM

資材課

課長 小池綾一

1. 任務、役割

病院で使用する、医療材料・伝票類（印刷物）・事務用品などの購買業務を行っています。また、診療報酬改定や高額機器購入時には価格交渉を実施し費用削減を行い、ベンチマーク活用による価格低減を実施しております。

2. 体制 2名

職種

事務総合職 2名

3. 活動と実績等

(1) 診療報酬、償還価格引下げの影響率90%以上の回復することができました。

①価格交渉団にて交渉会議計6回（4月21日、5月20日、6月16日、6月28日、7月21日、8月19日）

②交渉合計3回（日本ストライカー1回6月7日、ジンマー2回6月10日、6月30日）

仁平先生 7月末 計3回（ストライカー1回、ジンマー1回、京セラ1回）

旧償還掛率87.42%→新償還掛率88.75% 回復率98.5%

9月遡及額（4月～8月） 法人計 = 協同病院 [9,149,793円]

③償還品以外の主な値上げメーカーとの価格交渉回数。

【2022年】 4月5社15回、6月1社3回、7月5社12回、8月4社9回、9月2社4回、10月9社19回、11月5社7回、12月1社3回 【2023年】 1月7社11回、2月3社8回（メーカー希望値上げ額を阻止できました）

④Hip6Knee インプラント割戻プログラムにて10月割戻金。（日本ストライカー）

(2) 医療消耗品をベンチマークで10品目以上交渉し価格を引き下げました。

①上期で7品目実施。年間実績で3,205,000円/年の削減効果。

(3) 機能評価に向けて各病棟のデットストック（6ヶ月以上の長期滞留品）を可視化し、費用軽減することができました。

①長期滞留品削減は3月年度末に結果発表。

②定数見直しにより適正定数（病棟全体）。

金額：3,725,382円 → 3,509,203円

削減額 - 216,179円

③長期滞留品の削減効果として適正定数化を図れました。

④各病棟の棚整備は略完了。（5月の機能評価に向けて継続）

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育、研修、研究活動

①全日本民医連 医療材料購入担当者 ZOOM 会議に参加

健康まちづくり課

部責主任 工藤昇一

1. 任務、役割

健康まちづくり課は、住民の「健康で安心した暮らし」を実現していくために、医療生協の活動を知らせ、「参画」してもらい、全職員や他団体の協力のもと、社会に働きかけ、「地域まるごと健康づくり」を目指しています。

2. 体制 5名

職種

事務総合職	3名
管理栄養士	1名
非常勤職員	1名

3. 地域担当

南部Aブロック (10支部)	木曾呂・東内野、神根東、道合・神戸、根岸、源左衛門、芝北、柳崎、芝南、芝西、伊刈・芝
南部Bブロック (7支部)	差間、戸塚中央、戸塚南、東川口、安行、安行慈林、新郷
東部地区 (11支部)	草加、八潮、三郷、吉川、越谷、松伏、庄和、春日部中央、春日部北、春日部東、春日部南

4. 概要、特徴、特色

- フレイル予防、認知症予防の取組みを地域に広げ、「高齢者にやさしいまち」をつくります。
- 暮らしの中で発生する「困った」へのアプローチを行う為に、「(県南地域版)こまりごと対応安心ネットワークシステム」を具体化します。
- 建設の取組みを、組合員・職員とともに、多くの住民に知らせ「医療生協の魅力ある事業と活動」に参加してもらいます。

5. 今後の展望・次年度に向けて

- 地域活動の協力者を増やし、安心して住み続けられる地域づくりを進めます。
- 建設と事業を通じて地域に医療生協を広げます。
- 埼玉協同病院の職員として、他職種や他事業所との「仕事の見える化」を互に行いながら、日常業務の中での連携を進めていきます。

総務課

課長 我妻真巳子

1. 任務、役割

(1) 総務課は、人事業務・福利厚生・経理・庶務・業務委託など、職員が働くために必要な環境や制度についてサポートしています。

①人事業務 職員の募集、契約実務、入職時オリエンテーション、履歴書や免許証、職員名簿の管理など。

給与関係では就労システムの様々な問い合わせ対応。

②庶務 院内の会議室や貸出用物品管理(パソコンやデジカメ、zoomアカウント)、郵便物や宅配物の受付と仕分け、慶弔業務、夜勤勤務者食の手配など。

③福利厚生 制服、職員寮、院内保育所利用案内、職員駐車場調整、さいたま共済会、有給休暇や特別休暇等の対応。

④経理 入出金管理、職員小口、出資金回収、集計。

⑤業務委託 売店、床屋、病室のテレビ、院内公衆電話、自動販売機、院内鑑賞用植物(エコロジーガーデン)、絵画展示物など

(2) 職員が気軽に相談でき、利用しやすい総務課を目指してきました。職員寮における相談、健康保険の加入相談や手続き、出資金、落とし物の問い合わせなど様々な用件で窓口を訪れます。

(3) 患者さんが使用する院内の公衆電話、病室のテレビ、院内床屋さん、売店や自動販売機、観賞用植物(エコロジーガーデン)、患者用駐車場の窓口を行っています。

2. 体制 7名

職種

事務総合職	3名(うち1名育児休業中)
事務スタッフ	1名
非常勤職員	3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

①病院建設に向けての準備を始めました。

- ・更衣室の移設準備
- ・ピクトグラム導入による床頭台入れ替え(TV、wifiなど)
- ・制服の更新(リハビリ、事務、看護師、ME)
- ・入退室管理システム

- ・ 2 病院に対応する職員名簿管理システムの整備
- ②超過勤務と有給休暇の管理が各部門でできるよう支援してきました。
- ③働くものための法令や規則を学び、職員へ正しい情報を伝達するよう努めてきました。
 - ・ 総務課発行の「通船堀」を発行してきました。
 - ・ 職責者向けに「育児休業」についての学習会を実施しました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

いよいよふれあい生協病院が開院します。埼玉協同病院とふれあい生協病院 2 病院の 1 総務課として円滑に機能し、職員、組合員、業者が安心して病院が利用できるよう対応、サポートします。

- ・ 業務を整備し、他部門と連携して職員が働きやすいと思える職場づくりを目指します。
- ・ 職員アンケートの実施、情報収集、調査内容の分析を行い、働きやすい環境づくりを行います。

つくし保育所

主任 丸岡京子

1. 任務、役割

医療生協さいたまに勤務する職員のお子様を保育しています。産休明けから 2 歳児までを中心に 0 歳、1 歳、2 歳以上の 3 つのクラスに分け保育を行っています。夜間、休日、臨時保育、病児・病後児保育も行っています。よく遊び、よく食べ、よく眠る、を 3 本柱に心身ともに健やかに元気に過ごせる子どもを目指しています。

2. 体制 17名

職種	
保育士	13名（うち常勤職員 3 名、事務スタッフ 1 名）
保育助手	3 名
調理師	1 名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 地域や職員を対象に子育て講座を開催しました。地域を対象に ZOOM で 3 回、職員を対象に対面で 2 回開催しました。個別の相談に応じたり、参加者同士で子育てのヒントを出し合ったり、和気あいあいとした楽しい講座になりました。参考になったとの声が多くありました。
- (2) 保育所の職員全員が外部研修に参加して、その後、部門で学習会を実施しました。いろいろなテーマの研修内容を職場全体で聞くことで、新しい知識を得ることができ、共通認識のもと保育にあたることができました。
- (3) 災害時に落ち着いて行動ができるように地震、火災、不審者、水害のアクションカードを作成し毎月、避難訓練を実施しました。また乳幼児の BLS 実践学習を実施し救急処置の流れや心肺蘇生を学びました。
- (4) 実績
 - ①在籍児数：24人
 - ②臨時保育児実数：42人
(年間延べ数715人、月平均59人)
 - ③夜間保育児実数：16人
(年間延べ数343人、月平均28人)

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 地域や職員のニーズに合った子育て支援に取り組み

ます。

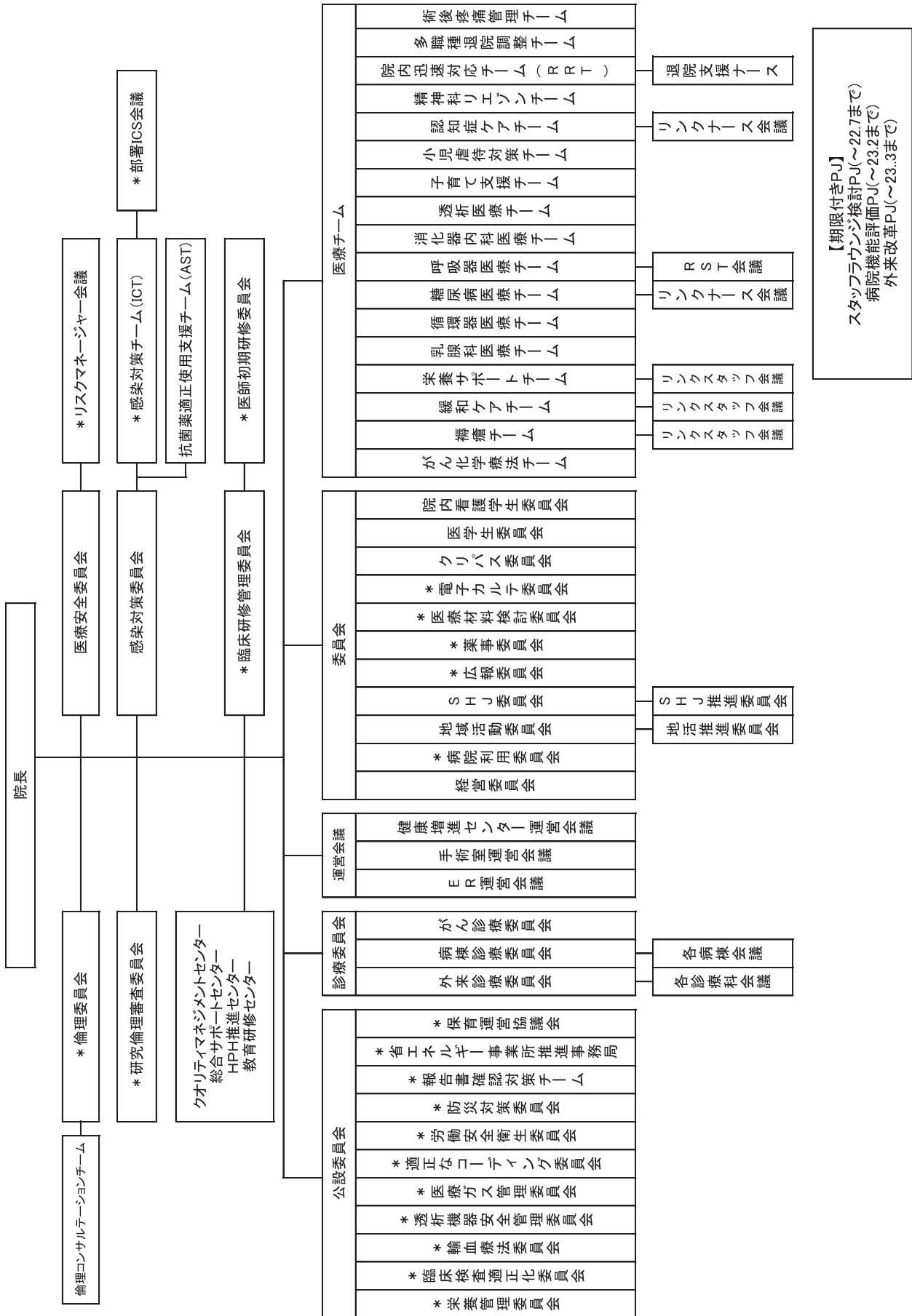
(2) 専門職としての資質向上、質の高い保育を目指します。

(3) 安全対策、感染症対策を強化して子どもの安全を守ります

V.委員会等活動状況

2022年4月～2023年3月

2022年度 委員会組織図



倫理委員会

事務局 水本留美子（社会福祉士）

1. 任務・役割

- (1) 医療への患者の意思（や家族の意向）の反映、情報開示、インフォームドコンセントのあり方、その他倫理的検討が必要なテーマについて検討し、委員会としての提言を行います。また、諮問事項に対して答申します。
- (2) 先進的な医療及び保険外医療（特殊療法など）や臨床研究について、倫理的妥当性について判断し、見解を述べます。
- (3) 医療倫理に関して、病院職員・医療生協組合員への教育や、情報発信、情報公開を行います。
- (4) 病院管理部に対して行った提案や答申に関して、その実施状況と実効性を評価し、必要な意見を述べます。

2. 開催実績

- (1) 体制 19名（外部委員含む）
- (2) 倫理委員会 6回（奇数月第4土曜日）
事務局会議23回（毎月第2・4火曜日）

3. 2022年度の活動報告

- (1) 検討テーマ
 - 【第1回】コロナ禍での医療提供上の制約と倫理的課題
 - 【第2回】医療にかかわる同意能力について考える～成年年齢引き下げによる問題から～
 - 【第3回】埼玉協同病院の「患者の権利」より有効なものとするために
 - 【第4回】身体抑制について
 - 【第5回】緩和ケア病棟における癌終末期患者への向精神薬使用をどのように考えるか
 - 【第6回】ヤングケアラーのこと、知っていますか？～SOSに気づける医療機関であるために～
- (2) 学習会
 - ①「マジョリティの特権について考える」
講師：上智大学 出口真紀子教授
 - ②「インフォームド・コンセント～真の同意を実現するために～」
講師：西武文理大学 神庭純子教授

4. 倫理コンサルテーションチーム会議

2022年度は11回会議を開催し、学習・事例検討等を行

いました。

- (1) 目的
 - ①各臨床現場での倫理的課題を表出（気づき、検討の場を提起）する。
 - ②基本的な倫理的考え方を身につけ、倫理委員会のこれまでの見解・指針を把握し、患者にとっての最善を導く検討を（倫理的検討の手順にそって）促進する。
 - ③必要に応じてカンファレンスへの倫理委員会事務局への相談・参加要請を行います。また倫理委員会への検討課題提起や学習テーマを提案する。
- (2) メンバー 36名（看護部門22名、技術系7名、事務系5名）
- (3) 事例検討
 - ・各職場の事例検討6事例。
- (4) ミニレクチャー
 - ①死を覚悟しての栄養摂取の手段拒否（埼玉協同病院倫理委員会報告）
 - ②エホバの承認の医療における宗教上・倫理上立場への対応について（埼玉協同病院倫理委員会報告）
 - ③患者の意向に基づいた治療・療養と支援のあり方について（埼玉協同病院倫理委員会報告）
 - ④インフォームドコンセントを得る手順（埼玉協同病院）
 - ⑤意思決定支援を適切に行うために～適切でない使い方がされている用語に焦点をあてて～（埼玉協同病院倫理委員会報告）
 - ⑥高齢者医療ガイドライン（埼玉協同病院）
 - ⑦人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスに関するガイドライン」（2018年3月厚生労働省）
 - ⑧生命倫理の4分割法とは
 - ⑨臨床倫理の4分割法とは
 - ⑩倫理的課題の検討手順について（埼玉協同病院）
 - ⑪外国人の医療対応について（埼玉協同病院倫理委員会報告）
 - ⑫性の多様性について考える（埼玉協同病院倫理委員会報告）

5. 2023年度の課題

- ①臨床の現場で日々生じる「倫理的な問題」について職員が気づける「感性」を磨き、また、現場での検討ができる力量をつけるために「倫理コンサルテーションチーム会議」の取り組みを継続すると共に、引き続き看護部以外の部門の参加を呼びかけます。
- ②倫理的問題についての対応ガイドラインや手順の周

知を継続します。

- ③日々臨床現場で生じる倫理問題にタイムリーに検討対応できる「コンサルテーション機能」の質と公正性の担保のために、第三者の参加の仕組みを検討します。
- ④各職場で生じている倫理的問題や職員意識の把握のための職員アンケートの実施を検討します。
- ⑤医療や情報管理、社会構造の変化、社会構造の変化に伴う人間関係の変化や価値観の多様性について対応できるよう、「患者の権利」について見直します。

研究倫理審査委員会

事務局 関口智子（事務）

1. 任務、役割

- (1) 申請書、研究計画書に基づき研究実施の可否を審査します。また、研究対象者の保護及び研究の質の確保に努めます。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 11名
- (2) 年間開催数 10回 (毎月第3水曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 申請書、研究計画書に基づき、委員会で研究の実施の可否を審査しました。
 - ①審査件数 迅速審査10件
 - ②審査 43件 新規 36件 再5件 修正2件

4. 2023年度の課題

- (1) 学術研究が行われる前に研究計画書・申請書が提出されるよう働きかけていきます。

クオリティマネジメントセンター

事務局 貞弘朱美（社会福祉士）

1. 任務、役割

- (1) 医療の質向上のために QI の管理を行い、測定値をもとに分析、課題の抽出を行い、質改善につながる課題を院内全体に提起する。
- (2) 各部門や医療チーム、委員会で目標設定する指標の追跡とこれに基づく改善活動の援助を行う。
- (3) MS 事務局の機能を有し、内部監査責任者、文書管理責任者を配置し、内部監査計画に基づく内部監査の実施と院内で使用する文書の承認、管理。
- (4) 各委員会等から提案された、クリニカルパス、検査同意書・説明書等の承認、医療記録の管理・記載指針の徹底をする。
- (5) 患者への情報提供を充実させ、自己決定を支援する。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制 13名
- (2) 年間開催数
 - ①センター会議 12回（毎月第4水曜日）
 - *2022年度 QM 部の創設にともない、事務局会議を廃止し、QM 部会での議題検討を行うこととしました。

3. 活動と実績等

QMC メンバーが関わっている医療安全、感染管理をはじめとした医療の質に関わる委員会、チームでの活動に参加しながら年間の活動を進めてきました。

①ケアプロセス対象病棟が多職種でチーム医療の視点で記録を検討し、気づきが出され、記録の変化が生まれている。

→病院機能評価に合わせて、医療記録の監査や記録の不備などを指摘し改善活動を進めてきました。

医師の記録監査も行うことによって、少しずつ変化が見られるようになってきました。

②病院機能評価でS評価を受ける。

→1月受審予定でしたが、コロナの感染拡大により次年度に受審延期となりました。

③病院機能評価 PJ2022のメンバーが受審終了後に、自分の病院の質を自分の言葉で語れるようになっている状態を作る。

→1月の受審に向けて準備を進めていましたが、受審

延期となったため PJ メンバーは2023年度の受審に向けて引き続き準備を進めることとなりました。

4. 第5回医療活動交流集会

2023年2月18日（金）に第5回医療活動交流集会を開催し、68名の参加者と31の演題発表がありました。今年度は座長推薦演題の選出は行いませんでした。

職員の参加のしやすさや、発表の意識付けなどを方法が課題として挙げられていたため、2023年度の交流集会に活かしていきます。

5. 2023年度の課題

QI などの指標を用いた改善活動を、QM 部からの提案を行うとともに、各委員会・診療科と協同して進めていきます。

受審延期となってしまった6回目の病院機能評価の受審に向け、準備を進めていきます。

新しい病院開院に向けた QM センターの在り方について、検討し活動を広げていきます。

総合サポートセンター

事務局 高波奈津代(事務)

1. 任務、役割

- ①患者・家族、地域の医療機関、施設・事業所、院内スタッフからの紹介依頼や相談の総合的な窓口となり、「何でもまずはワンストップで受け止める」センターとして、患者の抱える問題を早期に把握し問題解決を図る。
- ②入退院管理を計画的・統括的に実施することで、地域・組合員にとっての限られた病床の有効活用に繋げる。
- ③がん相談窓口として、がん治療や緩和ケアに関する相談をはじめ、就労支援等で患者・家族をサポートする。
- ④患者のヘルスリテラシーを高める為の情報提供をはじめ、さまざまな意思決定支援の為に活動を行う。
- ⑤医療生協の急性期病院として、地域医療機関や組合員との連携で地域包括ケアを実践する。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

(1) 体制

医師 1名、看護師 7名
社会福祉士 14名(うち精神保健福祉士 3名)
事務 40名

(2) 年間開催数

運営会議 23回

3. 活動と実績等

- ①12月2日に第38回地域医療懇談会をハイブリッドで開催し、会場24名、オンライン50名の参加がありました。院長より「新病院、埼玉協同病院リニューアルの進捗報告」、栗原医師より「埼玉協同病院における肝胆膵の外科的治療」について、大石医師より「埼玉協同病院の消化管内視鏡検査・治療の現状」について講演しました。
- ②トルコ国籍の方に勤務していただき、トルコ語、クルド語を中心に、総合受付で受診前の問診や診察室での通訳など、多国籍のかたが安心して来院出来る環境を整えました。
- ③外国人の置かれている状況を周知すること、自分事として考えてもらえるよう、外部講師に協力いただき、「難民の置かれている状況、ウクライナ情勢を

皮切りに「外国人労働者の現状と共生に向けて」「日本の在留資格について」外国人学習会をシリーズで開催しました。

- ④2020年11月より毎月第4土曜日に社会保険労務士の方にご協力いただき相談会を実施しています。21年度は10件、22年度は9件に介入いただき、障害年金受給につながった方もいます。
- ⑤11月24日に老人保健施設みぬま、ケアセンターきょうどうとの共催で、ケアマネ懇談会を開催しました。事前アンケートにより参加者のニーズを把握し、「身寄りのない方の支援について考える」というテーマで、学習講演とグループワークをオンラインで実施しました。

HPH 推進センター

事務局 小暮里美（事務管理）

1. 任務・役割

患者（家族）・職員・地域に HPH を推進していきます。

2. 開催実績

(1) HPH 推進センター

- ①体制 13名
- ②年間開催数 12回（毎月第2火曜日）

(2) HPH 職場推進委員会

- ①体制 43名
- ②年間開催数 5回（偶数月第3月曜日）

3. 2022年度の活動報告

(1) 患者・家族向け

- ①電子カルテ更新後も SDH 問診を活用した患者支援ができる仕組みを検討しました。また、デジタル問診を導入しました。
- ②地域班会メニュー集を作成し支部運営委員会に提示した。複数の学習会依頼がありました。
- ③各職場で疾病予防に関連した掲示やパンフレットを作成し提供しました。

(2) 職員向け

- ①私の SDGS 写真を募集。職場目標を掲げて取り組み、431の投稿がありました。
- ②法人30周年企画「あなたのまちウオーク」に参加しました。また国連 WFP 給食支援チャリティーウオークに参加し100万円の募金をおくりました。
- ③職場単位の体力測定会を企画し24職場270人が取り組みました。
- ④食生活アンケートを実施しました。

(3) 地域向け

- ① WHO 西太平洋機構から依頼があり地域で取り組んでいる高齢者への社会的処方の実践動画を作成 YouTube にアップされました。
- ②ウエルシア薬局で毎月保健師によるミニ学習と相談会を行いました。
- ③フードパントリーを毎月実施しました。外国人への歯科講座を実施しました。
- ④市民公開講座「頭痛の話し」を川口前川イオンで実

施し、112名が参加し相談コーナーにも15名の相談者があり好評でした。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 第8回 J-HPH セミナーに3名が参加しました。
- (2) 6月と2月に職場推進委員会主催で「社会的処方」を学習し SDH カンファレンスを行いました。
- (3) HPH について初級版・中級版を作成し e-ラーニングで学習しました。

5. 2023年度の課題

(1) 患者・家族向け

- ①新電子カルテに変更後も SDH 問診を活用し患者支援ができる仕組みを検討します。
- ②開院したふれあい生協病院の外来待合室で患者へのヘリスリテラシーが高まる取り組みを進め、かかりやすく学べる病院にします。

(2) 職員向け

- ① HPH 活動の参加を広げ、健康で働きやすい職場を作ります。
- ②職員の SDGs の取り組みを募集し、優れた活動を水平展開します。
- ③食事アンケートをもとに食生活を改善できる取り組みを行います。

(3) 地域向け

- ①職員が地域に出て HPH 活動を行う場を複数回つくり、地域ニーズの把握と問題解決につなげます。
- ②地域公開講座を行います。

(4) その他

- ① e-ラーニング初級編・中級編を活用し全職員に向けた HPH の学習を進め理解を深めます。
- ②各職場や多職種で気になる患者を共有し事例を発信できるようにします。職場推進委員会で SDH カンファレンスを実施します。

教育研修センター

事務局 多賀谷真樹 (管理栄養士)

すすめる

- (2) 成長を促す研修プログラムの充実と継続
- (3) 職種間の相互理解により他職種連携がすすむしくみづくり
- (4) 安心して働き続けられる職場づくりの推進

1. 任務・役割

- (1) 病院の職員育成理念をもとに、全職員対象の理念教育や階層別研修等を企画開催・評価する。
- (2) 年間の必須研修の開催状況を把握し、受講促進の支援をおこなう。
- (3) 臨床研修をはじめ各職種の育成プログラムを統括し、相互教育・多職種協力のもと適切に初期研修がすすむよう調整をはかる。
- (4) 様々な機会を職員育成の場に位置づけ、ともに育ちあう職場づくりを推進する。
- (5) 適切な学生実習の実施と受入れ状況の把握

2. 開催実績

- (1) 体制 10名
- (2) センター会議年間開催数 12回 (毎月第4火曜日)

3. 2022年度の活動報告

4月	埼玉協同病院 新入職員研修
6月	全日本民医連総会方針 DVD 視聴学習
7月	教育学習月間大学習会 (県連教育委員会主催)
11月	中途入職者研修 (32名参加) 他部門研修 (看護部・技術部)
2月	埼玉協同病院 医療活動交流集会

2022年度は、これまでの職員育成課題の議論をふまえて埼玉協同病院の職員育成理念をあらたに作成しました。育成理念は「私たちの医療理念を実践し、地域社会に貢献できる人と職場をつくります」とし、そのために身につける能力と態度として五項目にまとめました。次年度以降、この育成理念のもとに研修計画を作成します。

6～9月は全日本民医連総会方針 DVD 視聴学習にすべての職場でとりくみ750名の職員が参加しました。2～3月には法人創立30周年を記念に作成されたDVD学習を職場ごとに開催し、組織の理念や歴史を学ぶ機会となりました。

コロナ禍で集合研修が制限されるなか、受講が必須とされている研修はeラーニングやオンライン教材を活用するなど、個人でとりくめるよう工夫しました。

4. 2023年度の課題

- (1) 病院の理念を理解し、職場で実践できる職員育成を

医療安全委員会

事務局 宮崎俊子（薬剤師）

- ⑥新入職員対象 e ラーニング（2 種類）
- ⑦中途入職者対象研修
- ⑧委託事業者スタッフへの学習会

1. 任務、役割

- (1) 医療事故報告書の事例や医療安全相談の事例から、真の原因を明らかにして医療事故やミスの発生しにくいシステムを提案します。
- (2) 医療事故防止に関する職員教育の機会を年複数回提供します。
- (3) リスクマネージャー会議を置き、巡視や事例の共有を行い、部門における安全管理の具体化、安全教育の徹底をはかります。
- (4) 医薬品安全管理者は、医薬品の安全使用・管理体制を整備し、医療機器安全管理者は、医療機器の安全使用・管理体制を整備します。
- (5) 感染対策委員会と連携し、院内感染制御体勢を整備します。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 医療安全委員会
 - ①体制 17名
 - ②年間開催数 12回（毎月第2水曜日）
- (2) 部門リスクマネージャー会議
 - ①体制 51名登録
 - ②年間開催数 10回（毎月第3火曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 昨年に引き続き、転倒・転落の事故の対策に取り組みました。集約したデータを看護の部門責任者や主任の会議に発信し、部門リスクマネージャー会議では多職種によるグループワークを実施し、現状の把握や、課題、対策を話し合い改善につなげました。
- (2) 与薬・投薬における事故を減らす取り組みは、他病院の取り組み等も参考にしながら対策を検討しました。次年度は電子カルテの更新に伴い運用全体の見直しが必要になります。新しいシステムに合わせ、事故を回避できるよう与薬・投薬のプロセスを構築します。
- (3) 職員に実施した医療安全の研修は以下の通りです。
 - ①新入職員オリエンテーション
 - ②新入職 初期研修医師対象研修
 - ③新任リスクマネージャー対象研修
 - ④全職員対象 e ラーニング（2 種類）
 - ⑤医師対象学習会

感染対策委員会

事務局 吉田智恵子 (看護師)

1. 任務、役割

感染対策委員会は公設委員会であり、病院長直轄の諮問機関です。医療関連感染防止のために、方針の作成と決定を行います。ICT：infection control team (感染対策チーム)、AST：antimicrobial stewardship team (抗菌薬適正使用支援チーム)、部署 ICS (infection control staff) 会議を組織し、これらに一定の権限を与え、強力に支援します。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 20名
- (2) 年間開催数 12回 (毎月第3火曜日)

3. 活動と実績等

- (1) ICT・AST・部署 ICS と薬剤耐性菌や感染症発生状況などの情報を共有・分析・評価し、関係部署に協力を得ながら迅速に対応したことにより、院内伝播を最小限にとどめることができました。
- (2) 手指衛生の推進を目指し、強化期間を設けて集中的な取り組みをしました。
- (3) 職員教育として、eラーニングを中心に研修を行いました。
 - ①新入職員オリエンテーション
 - ②全職員対象 (eラーニング) 1回目 (広域抗菌薬の使い方と標準予防策)
 - ③全職員対象 (eラーニング) 2回目 (血液培養・バンコマイシンのTDM・スタッフエリアの環境整備)
 - ④委託業者対象 学習会
 - ⑤中途入職者研修
- (4) 感染対策向上加算・外来感染対策向上加算の連携医療機関と、カンファレンスを12回実施しました。当院主催のカンファレンスでは、「新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行への対応について」をテーマに、参加施設や保健所と意見交換を行うことができました。

また、新興感染症の発生を想定した個人防護具の着脱訓練の研修会を連携医療機関と合同で開催しました。

感染対策チーム

事務局 吉田智恵子 (看護師)

1. 任務、役割

ICT：infection control team (感染対策チーム) は、感染対策委員会の方針のもと、組織横断的に活動する実働的な専門チームの役割を担っています。

近年、世界的な問題となっている薬剤耐性菌の増加に対し、日本では2016年に薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランが策定されました。このAMR対策アクションプランをもとに、ASTや現場と協力・連携しながら、抗菌薬適正使用の推進・薬剤耐性化の抑制、感染拡大の制御を目指して活動しています。また、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、各部門と連携し、病院内の感染拡大防止に努めています。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 12名
- (2) 年間開催数 ICTカンファレンス 50回(毎週火曜日)
ICT環境ラウンド 32箇所(毎週火曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 定期的にカンファレンスを開催し、院内感染の発生情報をもとに、院内感染防止対策の実施状況の把握・指導を行いました。
- (2) 手指衛生の推進を目指し、強化期間を設けて集中的な取り組みをしました。
- (3) ICT環境ラウンドは、部署 ICSメンバーと一緒にラウンドし、報告書を用いて現場へフィードバックを実施することで、指摘事項の早期改善に努めました。
- (4) 職員教育として、ASTと協力し、複数のテーマの研修を計画しました。
 - ①新入職員オリエンテーション
 - ②初期研修医向け研修
 - ③全職員対象 (eラーニング) 1回目 (適切な喀痰検体採取及び検査について、細菌培養検査と抗菌薬の使用状況のまとめ)
 - ④全職員対象 (eラーニング) 2回目 (血液培養検査と陽性時の抗菌薬選択について)
- (5) 感染対策向上加算・外来感染対策向上加算の連携医療機関と、カンファレンス (12回) を実施しました。当院主催のカンファレンスでは、「新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行への対応につい

て」をテーマに、参加施設や保健所と意見交換を行うことができました。また、新興感染症の発生を想定した个人防护具の着脱訓練の研修会を連携医療機関と合同で開催し、連携医療機関（38施設・合計78名）の参加を認めました。

部署 ICS 会議

事務局 吉田智恵子（看護師）

1. 任務、役割

部署 ICS(infection control staff・部署感染管理スタッフ) 会議は、感染対策委員会、ICT・AST と連携し、以下の活動を行っています。

- (1) 感染対策に関する部署の窓口
- (2) 職場内における感染防止対策の教育担当
- (3) 感染防止対策の実践と現場指導
- (4) 院内における手指衛生の推進

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制 47名
- (2) 年間開催数 12回（毎月第1月曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 感染対策に関する部署の窓口

職場内の問題に対し、疑問や支援が必要と判断した場合は、感染管理室や ICT へ相談し、必要に応じて協力・支援を受けました。

- (2) 職場内における感染防止対策の教育担当

①院内学習(eラーニング)を積極的に受講しました。

また職場内の職員に対し、受講状況の把握や未受講者への参加の呼びかけを行いました。

②部門担当者による学習会を開催しました。

③新型コロナウイルス感染対策の基準や PPE 製品の変更、新規採用製品についてなど、情報を会議内で共有し、職場への発信を行いました。

- (3) 感染防止対策の実践と現場指導

職場内の環境の整備（作業環境の整理整頓、清潔・不潔の区別、个人防护具の配置・管理）を行いました。また、ICT 環境ラウンドに参加し、指摘をうけた項目の改善に努めました。

- (4) 院内における手指衛生の推進

職場内の手指消毒剤の配置・管理を行いました。また、院内で行われている、手指消毒の推進活動に参加し、職場内の手指消毒剤の使用量の集計・評価を定期的に行い、会議内でデータや取り組み内容を共有しました。

- (5) 連携医療機関による院内環境ラウンドの参加

感染対策向上加算の連携医療機関の ICT による院内環境ラウンドに参加し、問題点や改善策についての指導を受けました。またその指導内容を参考に、指摘事項の改善策を立案し、実行しています。

抗菌薬適正使用支援チーム

事務局 関口梨絵 (薬剤師)

- ①初期研修医向け研修
- ②法定研修 1 回目：適切な喀痰検体採取及び検査について、細菌培養検査と抗菌薬の使用状況のまとめ
- ③法定研修 2 回目：血液培養検査と陽性時の抗菌薬選択について

1. 任務、役割

- (1) 近年、薬剤耐性菌の世界的な増加が問題となっています。日本でも医療における抗菌薬の使用量を減らすこと、主な微生物の薬剤耐性を下げることが目的に、2016年に厚生労働省より、薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランが策定されました。当院では、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師からなるチームで、薬剤耐性菌の抑制のために抗菌薬適正使用を目指して活動を行います。
- (2) 感染症領域に関する院内基準の文書作成・教育活動を行い、知識や技術の向上に努めます。

2. 開催実績 (2023年 3 月末日現在)

- (1) 体制 8 名
- (2) 年間開催数
 - ①抗菌薬適正使用カンファレンス50回 (毎週火曜日)
 - ②血液培養陽性者カンファレンス：100回 (毎週火・金曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 抗菌薬の適正使用に向けた早期モニタリング
 - ①院内の耐性菌発生状況の確認をしました。(200症例)
 - ②特定抗菌薬 (カルバペネム系抗菌薬、抗 MRSA 薬) や広域抗菌薬 (タゾバクタム/ピペラシリン、セフェピム) の使用患者のモニタリングや評価を行いました。(613症例)
 - ③血液培養陽性患者の抗菌薬使用状況 (薬剤選択・用法用量や投与期間)、必要な臨床検査の実施状況 (血液培養の再検査や精査目的の画像検査など) の確認や介入を行いました。(415症例)
- (2) 適切な検体採取と培養検査提出への取り組み
血液培養検査の複数セット採取率は平均98%以上、汚染菌率は1%以下を維持できました。鼠径からの採取は全体の5.8%で前年度(7.3%)より減少しました。院内アンチバイオグラムの更新をおこないました。
- (3) 職員教育
医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師を対象に知識向上のための研修を実施しました。

臨床研修管理委員会

事務局 榎本千紘（事務総合職）

1. 任務・役割

管理型臨床研修病院として求められる、公設の委員会です。管理型臨床研修病院のほか、協力型臨床研修病院・研修協力施設の指導医および外部委員によって構成されます。卒後臨床研修の理念と方針の策定、研修プログラムの運営と管理、初期研修医の採用と修了判定を主な任務とします。当委員会のもとに、医師初期研修委員会を置き、実際の運用や執行を行っています。

2. 開催実績

- (1) 体制 21名
(外部委員3名、協力型病院・研修協力施設8名含む)
- (2) 年間開催数 4回（6月・9月・2月・3月）

3. 2022年度の活動報告

- (1) 2022年度は2年目研修医7名、1年目研修医8名、計15名の大集団となりました。
- (2) 2022年度の研修医採用のマッチングは、採用面接受験者が37名に達し、昨年に続き8名フルマッチを達成することができました。
- (3) 2023年に開院予定のふれあい生協病院での研修施設の登録について検討・共有をしました。開院後に臨床研修協力施設として登録し、その後、1年半前に申請が必要となる臨床研修協力型病院の申請を行うこととしました。埼玉協同病院と一体となっている病院であることをアピールし、申請の許可が下りるよう準備を進めていくことを確認しています。
- (4) 2021年4月に入職した2年目研修医7名の修了確認を行いました。修了者のうち2名が当院にて内科基幹型プログラム、外科連携プログラムにて専門研修を開始し、2名はプログラムにのらないTransitional Year研修を継続しています。その他3名は大学の救急科に2名、小児科に1名入局し専門研修を継続となりました。
- (5) 2023年3月に行われた臨床研修修了発表会では、研修管理委員の外部委員も3名出席し、オンライン参加者を含め63名が2年目研修医の初期臨床研修医の修了にあたり、まとめの発表報告、修了証授与を見届けることができました。

4. 2023年度の課題

- (1) 年4回の研修管理委員会を開催します。任務は、卒後臨床研修の理念と方針に基づいた研修プログラムの策定とその運営管理とします。
- (2) 2023年度は2023年開院予定のふれあい生協病院を含めたプログラム申請の準備を進め、研修が滞りなく行えるよう整備をしていきます。
- (3) 研修医の到達状況および修了に向けた指導等総勢15名の管理を徹底します。
- (3) 引き続き初期研修医への教育方法、指導医層のスキルアップ、メディカルスタッフとの関わりも課題とします。

医師初期研修委員会

事務局 榎本千紘 (事務総合職)

1. 任務、役割

2022年度は臨床研修管理委員会のもと、隔月2回の開催としていた委員会を月1回とし、加えて委員長・プログラム責任者・事務局で構成されたコア会議を月1回開催する運用に変更しました。研修医個々の状況を踏まえながら初期研修プログラムの進捗及び研修指導を進展させ、民医連・医療生協の医師として成長できるようメディカルスタッフを含め全職員で養成します。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 18名
- (2) 年間開催数 12回 (毎月第4金曜日)
(コア会議 12回 (毎月第2水曜日))

3. 活動と実績等

- (1) 初期研修医の進捗確認や情報共有を行いました。ローテートごとの目標確認と総括、評価を行い、研修医にフィードバックを行っています。
- (2) メディカルスタッフはローテート毎の360度評価、初期研修医向けのニュース発行やレクチャーを実施しました。また、各部門で発生した初期研修医に関するひやりはっと報告、疑義照会を会議内で共有しています。今年度より、研修医が講師となる産婦人科の学習会へ委員が参加し、研修の様子を間近に感じてもらう機会を作ることができました。
- (3) 研修修了に向けて経験すべき症候・疾病・病態、外来研修等、必修の研修も含めた到達目標の達成度合いを確認し、7名全員が研修修了することができました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (2) 講演会活動・座長・リマークス等
 - ・専門研修プログラム説明会 7月
 - ・片山充哉医師 (東京医療センター・総合内科)
6月・11月・2月 ケースカンファレンス
 - ・高橋慶医師 (川口診療所・所長)
7月・1月 プロフェッショナルリズムワーク

5. 2023年度の課題

- (1) 初期研修医育成に医師のみでなくメディカルスタッ

- フとの関わりをさらに強化します。そのためには多職種合同の振り返りの場を設け、実践します。
- (2) 分院開院に向けて、開院後すぐに臨床研修が確立できるように調整・検討していきます。
 - (3) 退院時要約の期限内提出を促進します。
 - (4) 手技、知識の確認 (問診、フィジカルのスキルアップ)を行います。
 - (5) 症例報告、医局症例検討会 ⇒ 各種学会発表へつながります。また学会発表の経験、方法を身につけます。
 - (6) 研修の質、研修医の満足度を上げます。
 - (7) 「ひやりはっと」の提出を促進します。
 - (8) フードパントリー等の地域活動へ参加の促進をします。
 - (9) SDHの学習と実践、HPH推進活動に取り組みます。
 - (10) 初期研修医に対して、3年目以降の後期研修につなげる積極的なアプローチを行います。

栄養管理委員会

事務局 廣澤教子（管理栄養士）

1. 任務・役割

- (1) 食養科月報に基づき、患者給食数、給食材料費、喫食状況、栄養指導数等を確認します。
- (2) 給食に対する入院患者からの意見や要望について検討し、食事内容に反映します。
- (3) イベントや行事食について検討し、患者満足度の向上を図ります。
- (4) 喫食率向上のための嗜好調査や患者個別の対応について実践状況を確認します。
- (5) 安全衛生上の課題について検討し、関係部署と連携して業務遂行をはかります。

2. 開催実績

- (1) 体制 7名
- (2) 年間開催数 12回（毎月第3水曜日）

3. 2022年度の活動報告

- (1) 食事相談・特食加算・栄養サマリーなどの加算件数や、給食数・給食単価・給食予算比・栄養再評価数・リハ栄養件数等を報告し、現状の確認を行いました。
- (2) 給食簿のコメントや患者様の声から、イベントの振り返りや献立修正について話し合い、食養科へ助言を行いました。
- (3) 食事満足度調査や残食調査の結果を食養科からの報告で確認し、今後の課題を検討しました。
- (4) 嚥下調整食や小児易消化食、改定に伴う約束食事箋変更の承認を行いました。
- (5) 新しい栄養補助食品や食品(高カロリープリン・ゼリー粥)の内容を把握し、試食の上、使用の承認を行いました。
- (6) 遅延食やお楽しみランチの必要性を理解し、承認しました。
- (7) 配茶中止に伴う代替え案の検討を行いました。

4. 2023年度の課題

- (1) 物価高騰に対する給食材料に関わる、費用管理と検討を行います。
- (2) 仮厨房での完調品を用いた食事への患者の声や満足度調査などから、改善へのアドバイスをを行います。
- (3) 仮厨房において、衛生管理の確認を行います。
- (4) 新設厨房への準備状況の確認を行います。

臨床検査適正化委員会

事務局 大山美香（臨床検査技師）

1. 任務・役割

- (1) 臨床検査の精度管理、検査項目、実施状況に関する必要事項について検討。
- (2) 臨床検査に関する事項の立案並びにその実施にあたっての指導、質の向上と効率かつ適正な運営、管理に関すること。
- (3) 病院における臨床検査に関する機能、運営、管理に関すること。
- (4) その他臨床検査に関すること。検査科に関する業務及び運営について協議・検討・指導を行い検査科の質の向上と効率かつ適正な運営を図る事を目的とする委員会です。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制 7名
- (2) 年間開催数 6回（隔月第4水曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 精度管理
 - ①内部精度管理 生化学項目・CBC・血液ガスではCV1～3%と良好な結果でした。
 - ②外部精度管理 外部機関による臨床検査精度管理調査を年2回受審しています。
- (2) 適正な臨床検査実施のための検討
 - ①診療報酬で縦覧点検により査定対象となり返戻扱いになったものの対応について検討しました。
 - ②分析前精度管理について啓発活動を行いました。

輸血療法委員会

事務局 小林真弓 (臨床検査技師)

1. 任務・役割

輸血・血液製剤の適正な使用を管理し、血液に関する諸問題を検討し、課題を関係会議に提起します。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 11名
- (2) 年間開催数 12回 (毎週第4水曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 血液製剤また分画製剤の使用や廃棄状況を監視していく体制を作り、製剤の適正使用に努めました。
2022年血液製剤使用実績は、赤血球製剤2,576単位、血小板製剤1,255単位、新鮮凍結血漿360単位、自己血2,430単位でした。自己血採血件数は1,444件でした。赤血球製剤の廃棄率は2.0%で、2021年の4.5%より低く抑えることができました。
- (2) 日本細胞・輸血治療学会の方針に従い、院内の輸血後感染症検査の運用を変更しました。
- (3) 新人看護師向への研修、輸血・自己血輸血の学習会を実施しました。

4. 2023年度の課題

- (1) 血液製剤の適正使用を高め安全な輸血療法を提供できるよう管理を行います。
- (2) 職員向けの輸血学習会を実施します。
- (3) 患者が自己血輸血を安心・安全に行えるように、自己血輸血看護師を中心に、職員の育成と採血技術向上に努めます。

透析機器安全管理委員会

事務局 菅隆太 (臨床工学技士)

1. 任務・役割

- (1) 透析液水質基準に則った透析用水・透析液の管理を行い、透析患者の感染症や合併症を防ぎます。
- (2) 透析排水基準に則った透析排水管理がされているか監視し、下水配管の保護、公共水域の水質を保ちます。
- (3) 透析関連機器の点検管理・記録管理を行い、安全な運用がなされるよう取り組みます。
- (4) 血液浄化に関する職員教育、教育課程整備を行います。

2. 開催実績

- (1) 体制 7名
- (2) 年間開催数 12回 (毎月第3水曜日)

3. 活動内容と実績

- (1) 透析用水・透析液水質管理
日本透析医学会発行の“2016年版 透析液水質管理”に則り、年間の計画を立てて透析用水・透析液の水質管理を行いました。全ての装置において推奨値以下でした。
- (2) 透析排水管理
日本透析医学会・日本透析医会・日本臨床工学技士会発行の“2019年度版 透析排水基準”に則り、委員会内での透析排水監視を行いました。当院での異常排水は見られていません。
- (3) 透析関連機器管理
透析関連医療機器の更新スケジュールを立て、委員会内で共有しました。今年度は多人数用 RO 装置・多人数用透析液供給装置・A 剤溶解装置・B 剤溶解装置のオーバーホール・部品交換を実施し、安全な透析医療の提供を担保することができました。
- (4) 職員教育、カリキュラム整備
透析用水・透析液の検査サンプル採取において、3名のスタッフが技術・知識を身につけました。また、新入職員がサンプル採取を習得する際は、事務局が一つ一つの手順を確認することで、バリデーションを確保した採取を行うことができました。

4. 2023年度の課題

- (1) 透析用水、透析液の清浄化管理、透析排水の監視を

継続的に行います。

- (2) 透析関連機器の点検・管理スケジュール制定を行い、透析関連機器使用における安全性担保に努めます。
- (3) 血液浄化療法におけるスタッフ教育の一環として、他部門への学習会開催を推進します。

医療ガス管理委員会

事務局 篠塚陽子（臨床工学技士）

1. 任務、役割

- (1) 患者にとって安心、安全な医療を提供するために、医療ガス（診療に用いる酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素等）設備の点検、管理を行っています。
- (2) 医療従事者に適切に使用してもらうために学習会を実施しています。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制 6名
- (2) 年間開催数 1回（不定期、年1回）

3. 活動と実績等

- (1) 医療ガス設備点検を年2回実施。
- (2) 学習会（eラーニング）の実施 1回。
- (3) 手術室酸素と笑気の誤接続により全手術室配管アウトレット付け替え。
- (4) 酸素流量計取り違いひやりから当該病棟に学習会を実施。
- (5) 酸素流量計（アイハー）の採用。

4. 2023年度の課題

- (1) 酸素流量計やY字管などの機器点検並びに整備を進めます。
- (2) 医療ガスの正しい取り扱いを周知するため、学習会を実施する。関連したひやり報告が各病棟で発生しているため、院内全体に向けた学習会を行い危険性や正しい使用方法の周知に努めます。

適切なコーディング委員会

事務局 滝本真里江 (事務総合職)

1. 任務・役割

標準的な診断および治療方法について院内に周知し、医師を中心とした職員のICD(国際疾病分類)や、DPC/PDPSについて理解を深める取り組み等を行うことで、適切なコーディング(適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう)を行う体制を確保することを目的としています。DPC対象病院では「適切なコーディングに関する委員会」の設置と年4回の開催が義務づけられています。

2. 開催実績

- (1) 体制 5名
- (2) 年間開催数 10回(毎月第3木曜日)

3. 2022年度の活動報告

- (1) 肺炎の重症度評価について医師の記載が少なく、コーディングの誤りにもつながっていることから医局の朝会で医師に記載が必要な理由とともに、現在の記載状況と当院の肺炎患者のA-DROPスコア別入院数について報告しました。
- (2) 詳細不明コードの使用状況やコーディングの修正事例について、入院医事課と医療情報管理室の部会で共有し、同じ修正を繰り返さないためにどの点に注意したら良いか検討を行いました。
- (3) 研修医にDPCの仕組みやコーディングのルールについて講義を行いました。

4. 2023年度の課題

- (1) DPCデータを活用した分析を行い、その内容について他の委員会や診療チーム、病棟等と共有することで課題を明確化し、医療の質の改善、標準化につながる取り組みを促進します。
- (2) コーディングルールや病名の修正事例について、学習会やニュース、会議等で院内に周知します。また、コーディングに関する疑問について気軽に相談できる窓口になれるよう、対面でのコミュニケーションを積極的に取り入れていきます。

労働安全衛生委員会

事務局 金原隆善 (事務総合職)

1. 任務・役割

職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進し、健康で働きやすい職場づくりに必要な課題を提案し実践する委員会です。

2. 開催実績(2023年3月末日現在)

- (1) 体制 11名
- (2) 年間開催数 12回(毎週第2金曜日)

3. 活動と実績状況

- (1) 職員の健康管理
 - ①健康診断
 - ・定期健康診断、採用時健康診断、深夜業健康診断、特殊健康診断を実施しました。
 - ②院内感染対策
 - ・入職時に感染症のアンケートを実施し抗体価の情報を把握しました。
 - ・HB抗体陰性者へHBワクチン注射を実施しました。
 - ・全職員を対象にインフルエンザワクチン注射を実施しました。
 - ③メンタル不調休業者の現況確認と、復帰後の状況を委員会で共有しています。
 - ④ストレスチェックの実施
 - 全職員を対象に実施しました、その結果を労働基準監督署に報告しました。
 - 希望者には産業医面接を実施しました。
 - ⑤日本産業カウンセラー協会と契約し、カウンセリングや新入職員対象のメンタルヘルス研修をしています。
- (2) 長時間労働と有休休暇取得状況の管理
 - ①働き方改革の施行に伴い、毎月、時間外超過勤務45時間以上リストや部門別一人当たり平均超過勤務単位数の推移表を作成し産業医へ報告をしています。
 - 3ヶ月連続で45時間以上の長時間勤務者は、産業医面接を実施しています。
 - ②有休取得状況を確認しています。取得状況を部門責任者が把握し管理しています。
- (3) 職場におけるハラスメント防止措置の実施
 - 全職員を対象にハラスメント学習を実施しました。
- (4) 安全で働きやすい職場環境作り

- ①ホルマリン・キシレンの使用環境測定検査の実施(年2回)し管理区分1となっています。
- ②職場巡視を毎週火曜日に実施しています。「職場巡視チェックリスト」に基づき実施した結果を部門に文書で報告しています。
- ③全国安全週間でリスクアセスメントを実施、実施内容を決め危険源の特定、再発防止策に取り組み、実施後の振り返りをしています。

4. 2023年度の課題

- (1) ふれあい生協病院の開院に伴い、新たな視点で職場巡視を実施し、安全で働きやすい職場を作り上げていきます。危険で有害な要因を除去し、労働災害ゼロを目指して活動をしていきます。
- (2) 働き方改革実施に伴い、長時間労働及び年次有給休暇取得の管理監督に取り組みます。

防災対策委員会

事務局 小野秀敏（臨床工学技士）

1. 任務、役割

- (1) 埼玉協同病院 大規模災害マニュアルの見直しを行い、職員に周知します。
- (2) 災害及び防錆に関する知識の啓発並びに防災訓練などの教育に関することを行います。
- (3) 施設、設備及び土地とならびに危険物等の安全対策に関することを行います。
- (4) 情報の収集及び連絡体制の整備に関することを行います。
- (5) 避難経路及び避難場所の整備並びにその他の避難対策に関することを行います。
- (6) 飲料水、食料、医薬品などの災害時に必要な物資の調達対策に関することを行います。
- (7) その他防災に関することを行います。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制 14名
- (2) 年間開催数 11回（毎月第4金曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 消防計画の変更（2022年6月5日届出）
- (2) 防火対象物点検、防火設備点検、防災管理点検
 - ①春期消防用設備等の点検 4月7日～5月25日
 - ②秋期消防用設備等の点検 10月6～12日
- (3) 学習会の実施
 - ①総合防災訓練の実施
 - ・前期総合防災訓練（11月25日）参加者：52名
 - ②新入職員むけ学習会

省エネルギー事業所推進事務局

事務局 小谷健司 (環境管理課)

1. 任務、役割

- (1) 省エネ法にもとづくエネルギー使用削減計画と管理の仕組み「管理標準」を作成し、運用します。
- (2) 院内の節電対策について具体的課題の提起と推進をはかります。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 4名
- (2) 年間開催数 6回 (奇数月第2木曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 環境学習会の開催
- (2) 節電対策の啓蒙と取り組み
- (3) 埼玉県 CO₂排出基準の第3者評価 (第2計画期間)
- (4) 効率的な施設設備の運用検討
- (5) 廃棄物の適正な処理管理

保育運営協議会

事務局 我妻真巳子 (事務総合職)

1. 任務、役割

保育運営協議会は、病院の代表と保護者の代表を委員に選出し、つくし保育所の円滑な運営と保育の向上及び充実を図ることを目的として、日常の運営について協議しています。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 5名
- (2) 年間開催数 5～6回

3. 活動と実績等

- (1) 会議では、以下の点について協議し、確認しています。
 - ①つくし保育所における活動内容
 - ②在籍児の様子
 - ③児童数の予測とその体制
 - ④病児・病後児保育室たんぽぽの運営について
 - ⑤新型コロナウイルス感染関連
 - ⑥夜間・休日保育の日程
 - ⑦父母会からの要望 (意見箱の設置)
 - ⑧公的機関からの情報共有と監査等の対応
 - ⑨環境整備
- (2) 新規採用者や育休明け復帰者の保育所利用について、保育士の確保、保育体制の整備を行いました。
- (3) 新型コロナウイルス感染症について

4. 2023年度の課題

- (1) 多様な保育ニーズに対して、職場保育所としての受け入れ拡大を検討します。
- (2) 病児・病後児保育の再開、在り方を検討します。
- (3) 地域の子育て世代の方々へ、Web を使ったの学習会や公開保育、感染対策を取りながら子育て教室などを行い支援していきます。
- (4) 保育施設・設備の改修とその費用について検討します。

外来診療委員会

事務局 田中紗代（事務総合職）

1. 任務、役割

- (1) 患者にとってわかりやすい、かかりやすい外来となるために、診療の方法や診療エリアの環境改善を進める。
- (2) 急性期病院の外来機能を果たせるよう、病状の安定した方を地域医療機関へ紹介する取り組みと専門外来に紹介患者を増やすことを目的に外来機能の整備を行う。
- (3) 外来診療の質向上に向けた課題解決に取り組む。
- (4) 診療科会議を統括し、外来診療の課題を聴き取り、改善活動を行う。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制 14名
- (2) 年間開催数 12回（毎月第2水曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 2病院化に伴う課題について検討を行いました。外来の診療フローや検査指示のオーダー方法等について決定し、院内の会議で職員に情報共有を行いました。また、新たに導入する待ち番号表示システムの運用やディスプレイのレイアウトについて検討し、導入にあたっての準備を行いました。
- (2) 長年の課題であった診察の待ち時間短縮のため、患者の院内滞在時間を短縮させるとり組みを行いました。状態の安定している患者の他院への逆紹介や、診察日とは別日に採血検査を行っていただくようなとり組みを実施しました。効果については、次年度検証したいと考えています。
- (3) 専門的な外来診療を行い、地域の医療機関から紹介いただいた患者さまの受入を行うため、新たに紹介専用の予約枠を作成しました。各診療科の医師に確認し、予約枠を調整して紹介枠を作成しました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
②	中島祐子 (保健師)	2022年度 外来患者満足度アンケートのまとめ	医療活動交流集会 (2023/2/18)	埼玉県

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学運交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研会場：ZOOM

病棟診療委員会

事務局 吉岡洋輝 (事務総合職)

1. 任務、役割

- (1) 急性期病院としての役割発揮。
- (2) 3つのセンターと連携し、チーム医療を強化と、医療の質を高めます。
- (3) 安定した収益を確保できるよう取り組みます。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制11名
- (2) 年間開催数 12回 (毎月第3月曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 病院機能評価受審にむけ、各病棟のケアプロセスの評価をおこない、改善に向け取り組みました。
- (2) カンファレンス記録の改善と記載率向上に向け、前年度からの継続課題としてカンファレンス事例の共有に取り組みました。
- (3) 患者満足度調査を行い、病棟ごとの取り組むべき課題を明確にし、各病棟に情報提供を行いました。
- (4) 入院前からの患者支援・指導を強化し、合同カンファレンス等を活用し早期退院に取り組みをすすめました。(DPCⅡまでの退院割合平均 70.8%)

4. 2023年度の課題

- (1) 他職種退院支援チームと連携し、一般病棟での早期退院を目指します。
- (2) 病室WGと連携し、病棟移転に伴う運用面での課題改善をおこない病棟の稼働率向上を目指します。

ER 運営委員会

事務局 鶴我秀治 (事務総合職)

1. 任務、役割

- (1) 救急車・急患患者・時間外の患者を断ることなく受け入れる体制を構築する。
- (2) 安心して患者を受け入れられる仕組みや体制をつくる。
- (3) 救急支える医師、メディカルスタッフを育成する。

2. 開催実績

- (1) 体制12名
- (2) 年間開催数11回 (毎月第1金曜日)

3. 2022年度活動報告 ※ () は2021年度実績

- (1) 2022年度の救急要請数は9,173件(7,582件)でした。そのうち搬入数は3,756件(3,425件)、搬入率は40.9%(44.8%)でした。救急応需に関する情報発信と検討、救急、ERの運用の検討を毎月の会議で行いました。
- (2) 院外敷地内急変対応のフローを作成し管理会議での承認を得た。フローを元に10月7日(金)のシミュレーションを実施、手順書を作成し運用開始となった。

4. 2023年度の課題

旧救急診療委員会が2022年度より、ER運営会議及び、院内迅速対応チーム(RRT)とし分割運営されることとなりました。ER運営会議では各種救急対応の運用整備と事例検討を実施し、救急対応の向上に検討し、救急、ERの運用手順書、設備等の点検、改善を進めて参りました。2023年度は2病院での救急対応の構築に向けて、準備を進めていきます。

がん診療委員会

事務局 奥山翔太（事務総合職）

1. 任務、役割

- (1) 埼玉協同病院のがん診療指針に沿って標準的治療を提供する中で、発生する課題を明確にし、院内に提起する。
- (2) がん診療指定病院要件の進捗管理と相談窓口・研修会開催・地域連携・地域カンファレンスの開催等、年間活動報告の根拠となる数値を集約する。
- (3) がん検診要精査者のフォローを確実に行う仕組みや、早期発見・早期診断・早期治療のためのがん検診の質の向上に寄与する活動を検討、提案する。
- (4) 遺伝子検査が適切に実施されるため、運用手順の検討と実施状況を把握する。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制10名
参加職種：医師、臨床検査技師、看護師、MSW、事務
- (2) 年間開催数10回（毎月第1金曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 周術期口腔管理の運用を整理し、地域連携課による歯科予約取得の支援を開始しました。歯科衛生士の口腔チェックの際の歯科への受診状況も大きく改善し、算定の実績も下記のとおり大きく向上しました。

医科歯科連携	合計
歯科医療機関連携加算 1	123
歯科医療機関連携加算 2	27
周術期口腔機能管理後手術加算	70

- (2) がん検診における再精査者数の把握と受診勧奨を実施しました。

年月	検診件数	要精査	精受診	要精査率	精査受診率
大腸癌検診	18,621	788	170	4.2%	21.6%
胃癌検診	11,189	1,478	360	13.2%	24.4%
肺癌検診	24,337	936	235	3.8%	25.1%
乳がん検診	5,785	290	181	5.0%	62.4%
子宮がん検診	6,737	398	260	5.9%	65.3%

- (3) 埼玉県のがんワンストップ相談会への参加協力を行いました。6月7日、12月20日にがん化学療法看護認

定看護師、社会福祉士の2名が参加し、相談に対応しました。

- (4) がん領域の認定看護師（緩和ケア・がん化学療法）によるがん看護相談外来で725件、がん患者・家族の相談を受けました。325件 MSW による経済的問題、就労支援・不安などの介入を行いました。
- (5) 5月と9月に連携医療機関と2回、12月に連携している訪問看護事業所と1回緩和ケアカンファレンス開催しました。COVID-19流行下での困りごとや面会制限状況の共有、症例検討を行いました。

経営委員会

事務局 糸田真央 (事務総合職)

1. 任務・役割

- (1) 2022年度予算の遂行状況を管理し、予算達成のための課題を提起します。予算根拠となっている各部門(診療科、病棟、職場)、分野の活動把握分析・点検し管理会議に提言します。
- (2) マネジメントレビューや経営検討会において、経営指標の状況を報告するとともに課題の提起を行います。

2. 開催実績

- (1) 体制 13名
- (2) 年間開催数 12回 (毎月4水曜日)
- (3) 事務局会議 12回 (毎月第3水曜日)

3. 2022年度の活動報告

- (1) 経営委員会の定期開催
院長・事務長・看護部長参加の経営検討を毎月行いました。
- (2) 2023年度予算作成
2022年度収益、費用について、項目別に増減を反映して精緻な予算を作成しました。
- (3) 経営指標の設定と課題進捗
毎月の経営指標を分析し、課題を提起しました。
- (4) 診療報酬改定対応
経営委員会で22年度診療報酬改定の対応を行い、関係各所と調整し、適切に算定できるようになりました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

当院の経営状況についてニュースの発行し、部門責任者会議で報告しました。

5. 2023年度の課題

- (1) 2023年度埼玉協同病院予算遂行状況の管理を行います。
- (2) 埼玉協同病院、ふれあい生協病院の経営分析を適切に行うためのデータ抽出と、課題提起を行います。

病院利用委員会

事務局 津崎聡子 (事務総合職)

1. 任務・役割

組合員と職員が協力し、病院に対する意見や提案について検討し改善をはかり、組合員がより病院利用しやすく頼りになるものにしていきます。

2. 開催実績

- (1) 体制 24名 (組合員16名/職員8名)
- (2) 年間開催数 10回 (毎月第3火曜日)

3. 2022年度の活動報告

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ボランティア学校や入院患者向け癒やしのイベントは中止となりました。

- (1) 「2つの病院の機能について・上手な病院のかかり方」をテーマに医療懇談会を各支部にて実施しました。
- (2) 組合員と職員で「虹の箱」の投書内容の検討を行い、院内掲示物や設備、接遇など改善箇所の確認を行いました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

職員から組合員に向けて仕事内容について発表し、情報交換や意見交換を行う多職種学習会を1回、逆紹介についての学習会を1回実施しました。

- (1) 1月17日「こまりごと相談の対応について」
社会福祉士・医療社会事業課 松島愛子主任
- (2) 1月17日「逆紹介促進月間の実施について」
外来看護科Ⅱ 中島祐子看護長

5. 2023年度の課題

- (1) 「虹の箱」の投書の検討を積極的に行い、病院の利用をよりわかりやすく、上手に利用できるよう、さらなる情報発信を行います。
- (2) 前年に引き続き、組合員の要望に基づいた学習会を実施し、院内の多職種との関わり方についての理解を深めます。
- (2) 組合員と職員との距離がより身近になるように、「医療懇談会」のテーマ設定を早い時期から始め充実したものにしていきます。
- (3) 感染拡大に注意し、ボランティア学校を開催し、ボランティアを増やし、新病棟、ふれあい生協病院開院に向けて、より利用しやすい病院を目指します。

地域活動委員会

事務局 小峰将子（産婦人科・小児科看護長）

1. 任務・役割

- (1) 組合員とともに学び、活動する機会を通して、医療生協活動への理解度を高めます
- (2) 仲間増やしを日常業務として病院全体に定着させ、仲間増やし目標を達成します
- (3) ひとりでも多くの方に出資に協力して頂き、増資件数・出資金額目標を達成します

2. 開催実績

- (1) 地域活動委員会
 - ①体制 9名
 - ②年間開催数 24回（毎週第2・4火曜日）
- (2) 地域活動推進委員会
 - ①体制 59名
 - ②年間開催数 6回（隔月第4火曜日）

3. 2022年度活動報告

- (1) 地域活動委員会を定期開催（月2回）し、加入、増資件数、出資金の目標達成に向けて、進捗状況を共有し、課題の整理と、下記のとおり取り組みの提起を行いました。
 - ① e-ラーニングでは、7/19～8/31の期間で、『組織3課題目標到達へ向けて～加入と増資の声かけについて～』を全職員対象に実施し、活動を活性化するための学習を行いました。
 - ②地域活動推進委員会では、医療生協の仕組みや地域活動委員会の役割について学習しました。
 - ③職員による生協コーナーを継続実施し、当番制で全部門からの外来声かけを強化しました。結果として多くの部門の参加を通して、成果に繋げる機会となり、仲間増やしについては、前年度を超える部門数が早期に目標を達成させることができました。
 - ④卒後1年目職員の研修企画として、一斉行動への参加を呼びかけました。実際に声かけすることで、意義の理解が高まり、組合員さんとの対話する機会にもなりました。
 - ⑤初夏のコロンキャンペーン、新病院開院＆新病棟開設記念増資キャンペーン、医療生協さいたま合併30周年記念増資ラストチャンス月間などのキャン

ペーンを行い、行動を盛り上げました。

- ⑥毎月一斉行動週間を設け、1日2回の封筒配布を行うことで呼びかけを強化しました。
- ⑦入院患者様への加入・増資お願いや外来予約患者様への増資お願いハガキを送付し、加入・増資への声かけを強化しました。
- ⑧2022年度の成果

	仲間増やし	増資件数	出資金額
目標	3,650人	12,000件	96,000千円
実績	3,986人 (109.2%)	11,880件 (99.0%)	96,003千円 (100.0%)

増資件数はわずかに到達しませんでしたでしたが、増資実人数が達成したことにより、3冠達成としました。仲間増やしの目標は2月中に達成し、2015年以来7年ぶりの早期達成となりました。また、13部門が3冠達成となり、各部門とも目標達成に向け、活発に取り組み進めていました。

- (2) 地域活動推進委員会では、毎回各部門の進捗や取り組み報告を行い、組織課題推進グッズの紹介などで活動を盛り上げました。

4. 2023年度の課題

ふれあい生協病院開院に伴い、2病院化後も滞りなく活動を継続できるよう全職員を巻き込むような発信していくことが求められます。地域活動委員会から名称も改め、『生協なかまづくり委員会』として、ふれあい生協病院に新設される生協コーナーをフルに活用し、埼玉協同病院リニューアル・ふれあい生協病院開院をアピールし、仲間増やし・増資件数・出資金額の目標達成が行えるよう活動を強化していきたいと思えます。

SHJ 委員会

事務局 松島愛子 (社会福祉士)

1. 任務、役割

- (1) 組合員と共同して署名や平和活動などの「憲法第9条と25条をかえさせない活動」に取り組み「戦争する国」づくりの抑止力となる。
- (2) 新型コロナウイルスが及ぼす様々な危機にも負けず、患者の権利及びいのちの章典の実践と結んで受療権と人権を守る取り組みを進め、安心をつなぐまちづくりに貢献する。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) SHJ 委員会
 - ①体制 10名
 - ②年間 12回 (毎月第4月曜日)
- (2) SHJ 推進委員会
 - ①体制 59名
 - ②年間6回 (奇数月第4水曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 社保カンパ・署名活動等

カンパ	444,589円 (到達率233.6%)
署名到達	みんななかまバス署名：1710筆、原発反対緊急署名：149筆、看護処遇改善50筆、最低賃金1500円：44筆、保険でより良い歯科医療：118筆、新原発推進撤回署名：98筆、健康保険証撤廃中止とマイナ取得強制反対：94筆、ウイルス性肝臓重度肝硬変患者支援署名：124筆、辺野古新基地断念署名：72筆
ニュース	10回発行

(2) 主な活動

2022年 5月	・フードパントリーにじいろ参加 (10名) ・ピースメイト選出
6月	・フードパントリーにじいろ参加 (5名) ・緊急学習会「ロシアのウクライナ侵攻と憲法9条」(33名)
7月	・フードパントリーにじいろ参加 (11名) ・「戦争のつくりかた」動画視聴と感想交流 (25名) ・平和活動交流集会参加 (2名)
8月	・フードパントリーにじいろ参加 (12名) ・原水禁世界大会オンライン参加 (3名) ・放射線量測定、原水禁世界大会報告会参加 (31名)
9月	・フードパントリーにじいろ参加 (12名) ・みんななかまバス外来署名集中行動 ・原水禁世界大会伝達学習、放射線量測定参加 (28名)
10月	・フードパントリーにじいろ参加 (14名) ・戦争体験聴き取り活動報告書作成
11月	・フードパントリーにじいろ参加 (21名) ・憲法カフェ：動画視聴と意見交流 (26名)
12月	・フードパントリーにじいろ参加 (11名) ・ピースフォーラム、戦争体験聴き取り活動報告交流会参加 (46名)
2023年 1月	・フードパントリーにじいろ参加 (21名) ・放射線量測定参加 (24名)
2月	・フードパントリーにじいろ参加 (17名) ・新学期向け学用品、冬物衣料募集
3月	・フードパントリーにじいろ参加 (5名) ・ビキニデー集会参加 (現地2名 オンライン4名) ・平和情勢学習会「戦争を『体験』しないために、今できること」(30名)

広報委員会

事務局 桑田真央（事務総合職）

1. 任務・役割

- (1) 病院広報紙「ふれあい」を、月刊12回（毎月）季刊号年4回を発行します。
- (2) 組員・患者の知りたい情報、地域の連携医療機関・介護事業所などに提供すべき情報を、タイムリーな企画で編集し、紙面の充実をすすめます。
- (3) ホームページの更新、デジタルサイネージの更新・運営管理を行います。

2. 開催実績

- (1) 体制 6名
- (2) 年間開催数 12回（毎月第1火曜日）

3. 2022年度の活動報告

- (1) 広報委員会の定期開催、広報紙の内容を検討しました。
- (2) 月刊ふれあい、季刊ふれあいを発行しました。
- (3) 2病院の特徴を発信できる新しい広報活動の委託業者を選定し、新しい広報紙、新しいホームページ作成の準備をしました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特になし

5. 2023年度の課題

- (1) 新しい病院、新しい病院を地域に、適切に発信できる広報紙、ホームページを目指します。

薬事委員会

事務局 木村典子（薬剤師）

1. 任務・役割

- (1) 医薬品の新規試用の検討とその評価
- (2) 採用医薬品の検討・整理・変更・中止
- (3) 医薬品をめぐる情勢、管理・医療整備、経営に係わる諸問題に対応します。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制 6名
- (2) 年間開催数 12回（毎月第1火曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 経営を守る取り組み
 - ・薬剤の廃棄額は年間累計1,803,349円で昨年比117%となりました。
- (2) 医療の質向上の取り組み
 - ・病棟常備薬をマイスリー錠5mgから依存性の少ないデエビゴ錠2.5mgに変更しました。
 - ・子育てする家庭の現状に合わせ、小児科の約束処方をも1日3回から2回に変更しました。
 - ・超速効型インスリン製剤の選択基準を明確化しました。
 - ・シタグリプチン含有製剤でニトロアミン類が確認された件について、検出原因が不明であること、基準値以下であること、使用者が多く全面使用中止は混乱を招くことから、採用削除はしないこととしました。
 - ・ゾコーバ錠125mgが緊急承認されたことに対し、既存の薬と比べて優れている面はなく、使用を推奨しないこととしました。
 - ・シルガード9が定期接種となる見込みとのことから、交互接種の問題点などについて討議しました。

(3) 実績

- ①新規採用薬
 - ・年間計106品目
- ②新規試用薬
 - ・年間計48品目
- ③試用薬の評価
 - ・年間計26品目
- ④採用削除
 - ・年間計73品目
- ⑤後発医薬品、バイオシミラーへの切り替え推進
 - ・後発医薬品への切り替え 年間12品目

医療材料検討委員会

事務局 小池綾一 (事務総合職)

1. 任務・役割

- (1) 治療に関する医材の安全性・操作性・経済性を総合的に検討し、評価し、導入・変更を提起します。
- (2) 素材、廃棄の方法、廃棄量など、「環境にやさしい」視点を重視します。
- (3) SPDの稼動状況を管理し、適正な材料選択と価格設定を行います。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 7名
- (2) 年間開催数 12回 (毎月第3月曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 委員会開催の実績
 - ①延べ93アイテム (限定採用1、採用56、変更17、試用13、デモ6) の検討を行いました。
- (2) 採用、削除、試用、デモの可否
 - ①現場使用感、エビデンス(カタログ値など)、安全性、有効性、経済性、価格の妥当性を検討しました。
 - ②使用の範囲、学習会の必要性と範囲、ニュース配布・安全性モニタリングの要不要の情報提供をしました。
- (3) ディスポ製品の再使用に関して
 - ①不具合が発生した場合はメーカー補償範囲外になる旨を踏まえ、再使用の基準や運用の適正使用の情報提供をしました。
- (4) メーカーからの案内
 - ①仕様の変更、発売や製造の変更・中止などの案内を周知しました。
- (5) SPD定期協議で統一提案 (ベンチマーク)
 - ①製品の採用を決定し法人全体の価格低減に貢献しました。

電子カルテ委員会

事務局 飯塚一成 (事務総合職)

1. 任務・役割

電子カルテ運用中に発生した課題を解決し、新たな改善要望を各部署から集約し協同病院の医療に適した機能・操作を検討します。また、電子カルテの機能が使い切れるよう必要な情報を研究・発信します。電子カルテ更新にむけて運用検討を行い、ソフトウェア設定やハードウェア調達の各分野で、病院内外との折衝・連携を行います。

2. 開催実績

- (1) 体制 24名
- (2) 年間開催数 11回 (第3水曜日)

3. 2022年度の活動報告

- (1) 2023年8月の電子カルテ更新に向けての調整
2023年8月14日、ふれあい生協病院の開院に併せて電子カルテ更新を行うための準備・調整を行いました。

7月	…	キックオフ
7～12月	…	再来受付機の選定
8月	…	ワーキンググループ開始
9月～	…	マスタ作業開始
9～12月	…	パソコン台数の調整と入札
1～3月	…	プリンタ入札
- (2) Web問診システムの導入
患者様のスマートフォンで問診を入力できる仕組みを10月に導入しました。COVID-19流行下でHER-SYS登録が業務負担となったため、効率的な業務の構築を図りました。
- (3) オンライン資格確認の導入
オンライン資格確認の導入が保険医療機関として義務になったため、対応機器を導入しました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 導入予定システムの機能説明

4月	…	Web問診、オンライン資格確認
2月	…	MegaOak / iSのカンファレンス機能
3月	…	Wellcneについて

5. 次年度の課題

- (1) 次期電子カルテの導入

MegaOak / iS のマスタ完成、操作研修、リハーサルと運用整理、更新後の運用フォローアップを行います。パソコンやプリンタ等の必要機器のリプレースを行います。

クリパス委員会

事務局 高橋亜希（看護師）、菅原千明（事務総合職）

1. 任務、役割

- (1) 医療の標準化や質の向上、チーム医療の推進を目指します。
- (2) 標準的医療によるリスクマネジメントを行います。
- (3) インフォームド・コンセントの充実に努めます。
- (4) 症例分析によるクリニカルパスの改善、平均在院日数と医療コストの適正化を目指します。
- (5) クリニカルパス作成・変更についての審査、パスの運用管理を行います。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制26名
医師、看護師、薬剤師、セラピスト、管理栄養士、診療情報管理士、医師事務作業補助者、医事スタッフ。
- (2) 年間開催数 12回（毎月第2水曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 委員会の定期開催
多職種参加の委員会を毎月行い、パス運用状況の報告、新規・改訂クリニカルパスの審査、クリパス症例分析（在宅酸素療法パス、脳梗塞パス、科別バリエーション傾向、パスと栄養管理、クリパス効果、小児科病棟パス、脊柱管狭窄症例パスの課題について）、7回の学習会を行いました。
- (2) クリニカルパス利用状況
 - ・2022年度新規運用開始クリニカルパス 4種
アナフィラキシー・ショックパス、回転性めまいパス、頭部外傷短期入院パス、子宮筋腫核出術パス。
 - ・運用されているクリニカルパス数 全診療科 124種
内科34種、小児科3種、外科28種、整形外科17種、産婦人科16種、眼科3種、耳鼻咽喉科8種、化学療法7種。
 - ・クリニカルパス利用率 全診療科 63.9%（一般病棟）内科47.5%、外科65.9%、整形外科95.3%、産婦人科82.5%、小児科14.9%、眼科98.8%、耳鼻咽喉科60.1%
- (3) パス大会開催
『次期電子カルテisで目指すクリニカルパス』をテーマに多職種参加の下、2022年11月30日に開催しました。8演題、参加者27名（医師、看護・助産師、薬剤師、

管理栄養士、検査技師、リハビリ療法士、事務)

『クリニカルパスの活用の現状からその効果を明確にし、院内での共有と交流を行う。パス運用上の課題を見出し、次のアクションプランにつなげる』を目的に、アウトカム集計や病院ダッシュボードのデータ分析結果からパス症例を評価し、今後の取り組み課題を提示しました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
②	高橋亜希 (看護師)	院内パス活動 活性化への取 り組み	QMセンター 2023年2月 18日	ふれあい 会館 (埼玉県)

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民
医連学運交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医
連介活研

会場：ZOOM

医学生委員会

事務局 千葉翔太 (事務総合職)

1. 任務、役割

- (1) 理想の医療を模索する医学生に向け、広く医療生協
さいたま・埼玉民医連の医療を伝え、理念に理解・共
感する医師の確保を行います。(初期研修医フルマッチ)
- (2) 埼玉協同病院はじめ法人内施設を医学生の地域医療
実習のフィールドとして提供、また様々な医学生向け
企画を開催し、医学生の医療観や医師像を育みます。
- (3) 高校生に向け、医師体験をはじめとした企画を開催
し、医師の魅力や埼玉県の医療事情を伝え、未来の埼
玉県医療の担い手を増やします。
- (4) 医療生協さいたま・埼玉民医連の医療に理解・共感
し、未来の実践者となる医学部奨学生を増やし、育成
します。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 13名
- (2) 年間開催数 12回 (毎月1回)

3. 活動と実績等

- (1) 初期研修医確保に向けての取り組み
 - ①医学生延べ164名の病院見学受入を行いました。
 - ②オンラインを使用した初期研修説明会を1回開催
し、延べ207名の医学生が参加しました。
 - ③採用試験は36名の医学生が受験し、8名の研修医確
保(フルマッチ)を達成しました。
- (2) 医学生に向けた学習機会の提供
 - ①昨年新型コロナウイルスの影響で受け入れできな
かった医学生の長期実習(クリニカルクラークシップ)
を4名(3大学)受け入れしました。
 - ②近隣の埼玉医大・医学生に向けて、無料のお弁当配
布を16回開催し、医学生のサポートを行いました。
- (3) 高校生向け企画の開催
 - ①高校生の夏休みと春休みに「医師体験」を開催し、
県内外31の高校から延べ97名の高校生が参加しまし
た。
 - ②高校3年生(受験生)に向けた「医学部受験オンラ
イン模擬面接会」を開催し、18名の受験生が参加し
ました。
 - ③これまで高校生企画に参加した学生に向けて進路ア
ンケート調査を実施し、58名の学生から回答を得、

22名の医学部進学を把握しました。

(4) 医学部奨学生確保と育成

- ①高校生企画に参加経験のある医学生から2名の奨学生が誕生しました。
- ②奨学生に向けた学習会を年10回・フィールドワーク企画を年3回開催し、延べ70名が参加し学びを深めました。

第1回	自己紹介・交流 「戦争のない世界のために何をすべきか」 発表：増田剛医師（埼玉協同病院院長）
第2回	「外来診療の極意！？」 講師：瀧井未来医師（総合診療専攻医）
第3回	「病気になっても自分らしく生きる～緩和ケアのお話～」 発表：佐野広美医師（緩和ケア内科）
第4回	「ハンセン病の歴史」 発表：山田歩美医師（さいわい診療所所長）
第5回	「高齢者が自分らしく生き抜くことを支えるために人生の最終段階の医療とケアについて考える」 発表：会田薫子特任教授（東京大学 死生学・応用倫理センター）
第6回	「人工妊娠中絶について」 発表：芳賀厚子医師（産婦人科）
第7回	「自己責任論について考える」 発表：山田歩美医師（さいわい診療所所長）
第8回	「コミュニケーション ～傾聴～」 発表：森直美看護師（地域連携看護科）
第9回	「在日外国人について考える」 発表：東京女子医科大学3年生
第10回	「【コロナ】生活保護の申請が増加…健康で文化的な生活」は守られている？【憲法記念日】：NHK ニュース特集動画視聴
FW 第1回	多摩全生園・国立ハンセン病資料館の見学
FW 第2回	認定NPO法人 マギーズ東京の見学
FW 第3回	広島平和記念公園・広島平和記念資料館の見学 および被爆者講話拝聴

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特になし

看護学生委員会

事務局 四方田寿子（看護師）

1. 任務、役割

- (1) 定期便や進級時面接を利用して、学生の状況を把握し、学業面・生活面での支援を行います。
- (2) ヘルスケアゼミ等の看護奨学生行事を通じて、民医連・医療生協さいたまの看護活動について伝え、組織に対する理解を深めます。
- (3) 高校生看護体験や医療職体験、出前授業等、模擬面接を実施し、看護学校進学・奨学生確保に向けて支援を行います。

2. 開催実績（2022年3月末日現在）

- (1) 体制 13名
- (2) 年間開催数11回（毎月第2金曜日）

3. 活動と実績等

- (1) 高校生企画・運営
 - ①高校生対象の看護体験はオンライン・ハイブリット・会場開催を含め4回、2年生対象医療技術職体験を1回開催し、118名を受け入れました。
 - ②模擬面接は8月（オンライン）・10月（会場）2回開催し、27名が参加しました。
 - ③浦和学院高等学校医療系コースの2・3年を対象に出前授業を多職種（リハビリ職・介護職・臨床検査技師・臨床工学技士）合同で行いました。
- (2) 看護学生（奨学生）企画・運営
 - ①6月より定期だよりを卒年生全員（27名）と低学年奨学生（11名）に対して、委員会内での学習内容やきりりホッと事例や近況を知らせる手紙を送り、返信内容からも積極的に一人ひとりに関わる事ができました。
 - ②説明会内でのオンライン・ハイブリットインターンシップ、対面（個別）インターンシップを25名受け入れました。病院の特徴や雰囲気伝えるためにスライドを修正し、ミニ事例検討会を毎回取り入れることで、看護師への想いや看護の実践について紹介する機会になりました。
 - ③新規担当奨学生全員とオンラインを通じて顔合わせができ、帰属意識を高めることに繋がりました。
 - ④オンラインヘルスケアゼミ参加者と企画内容

5/21 13名	状況設定問題・(優先順位) 民医連の看護の紹介 手術室看護科の紹介	優先順位の 考え方、3つの視点に ついて学ぶ
9/17 18名	いのちの授業 民医連の看護の実際 母性・小児国家試験問題	性や命について考える。 外国人の事例で検討

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

なし

手術室運営会議

事務局 熊木直美 (看護師)

1. 任務、役割

手術室の円滑な運営を目的とし、手術に関わる各科医師や他職種への情報伝達を行うとともに、手術室全体の業務内容を変更・決定しています。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 医師7名 看護師9名 事務 管理部 薬剤科 ME 資材課 放射線科 検査科
- (2) 年間開催数 12回・毎月1回

3. 活動と実績等

- (1) 毎月第2金曜日に通常会議を12回開催しました。通常会議では経営報告、返戻減点、機器保守点検、新規購入機器、ミス・トラブル・ヒヤリハット、虹の箱、各科からの報告・検討事項について話し合い、必要時管理会議での承認を得ながら進めてきました。
- (2) コロナ禍の変動に伴い、手術患者の受け入れ体制を検討してきました。
- (3) 年度末には次年度の外来体制や人事体制を考慮し、円滑に運営できる麻酔枠を決定しました。

4. 2023年度の課題

- (1) ふれあい生協病院の開院・新棟からの新たな患者移送をはじめ、新体制で手術を安全に受け入れ稼動していけるよう、各科医師・関連病棟・多職種との連携を強化し、対策を検討していきます。

がん化学療法チーム

事務局 内川聡美（看護師）

1. 任務・役割

- (1) 院内で行われるがん化学療法の治療計画（レジメン）を科学的根拠に基づき、当院において実施可能か否かの適切な審査を行い、判断を決めます。
- (2) 登録済がん化学療法レジメンの改定時の変更についての審査を行います。
- (3) 登録済がん化学療法レジメンの管理（削除、中止命令も有する）を行います。
- (4) その他がん化学療法レジメンの申請、承認、登録、管理に関することを立案・実施します。
- (5) その他がん化学療法に関わる諸問題に関することを立案・実施します。

2. 開催実績

- (1) がん化学療法チーム会議（毎月第4金曜）
 - ①体制 12名 ②年間開催数 5回
- (2) レジメン検討会議（月曜、不定期）
 - ①体制 5名+申請医師 ②年間開催数 9回
- (3) リンクナース会議（毎月第1木曜日）
 - ①体制 7名 ②年間開催数 8回

3. 2022年度の活動報告

- (1) レジメン検討会議は複数科の医師体制で開催し、新規24件 改訂9件を承認しました。総レジメン数は227件となりました。緊急での対応は臨時で召集し、手順に逸脱なく安全管理を行いました。
- (2) キンサーボードを112回開催しました。各科体制での開催の他に、必要に応じて内科・外科や関連部署のコ・メディカルへも召集をかけ、合同開催の調整も行いました。また、昨年度に続き放射線科医の参加も継続することができました。
- (3) 「化学療法ホットラインの案内」を見直し、修正を行い、緊急時の受診について周知しました。
- (4) 閉鎖式薬物移送システム（CSTD）の輸液ラインの見直しを行いました。リンクナースを中心に安全確実な製品の検討を行いました。
- (5) がん関連遺伝子検査などの検査オーダーについて、コストを意識した運用ができました。
- (6) 管理栄養士が中心となり、隣がん術後退院された患者の電話相談の仕組み作りを行い、次回外来予約まで

のサポート体制の構築ができました。

(7) 実績

がん薬物療法（点滴）実施実人数：152人
 レジメン適応実人数（月平均）：66名
 がん薬物療法剤調製実績（月平均）：95件（外来）
 13件（入院）

4. 教育、研修、研究活動

下記の学習会を開催しました。

- ・7月 がん薬物療法セミナー
～大腸癌のバイオマーカーについて学ぶ～
ハイブリッド開催（腫瘍内科砂川医師）

5. 2023年度の課題

- ・がん診療委員会と協働し、キンサーボードを各科開催から医師主体の合同開催につなげられるようにします。
- ・閉鎖式薬物移送システム（CSTD）の製品の見直しや全製剤の調製に向けた検討を継続します。輸液ラインについても引き続き検討を継続します。また、肝動注などの局所療法の曝露対策についても引き続き介入します。
- ・がん患者への栄養管理についてチームで積極的に介入を継続します。
- ・院内学習会を開催し、スタッフ教育に力を入れます。また、リンクナース、リンクファーマシストの育成を継続します。

栄養サポートチーム

事務局 多喜淳夫 (管理栄養士)

- (2) 介入後の評価を数値化して、効果判定をわかりやすくします。
- (3) 新カルテ導入後の、NST 介入依頼の作業書を作成します。

1. 任務、役割

栄養サポートチーム（以下、「NST」）は、栄養療法に関する知識や技術を院内に広め、栄養療法が質の高い安心・安全な医療の一環として行われることを目的としています。

また、栄養療法が円滑に行われるよう、他職種間及び院内各委員会・チームとの連携をはかります。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

(1) 体制21名

回診は医師1名、看護師2名、薬剤師1名、歯科衛生士1名、言語聴覚士1名、管理栄養士1名の計7名

(2) 年間開催数 毎週金曜日

47回 (611件)

3. 活動と実績等

(1) 学習会

リンクナース対象に学習会を行いました。

年間3回

(2) 周術期栄養管理

・大腿骨近位部骨折患者（75歳以上）を対象として栄養管理実施しました。年間58件介入

(3) 慢性疾患の栄養管理

慢性閉塞性肺疾患患者の栄養管理を開始しました。

年間18件介入

(4) 栄養補助食品の検討

栄養価を見直し、新しい栄養補助食品に切り替えました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

2022年度埼玉民医連学術運動交流集会で発表しました。

演題「栄養サポートチームの活動報告」

第5回 医療活動交流集会で発表しました。

演題「成分栄養剤と消化態栄養剤は下痢改善に効果が期待できるのか」

5. 2023年度の課題

- (1) 症例検討やセミナー等参加して各職種の知識や技術の向上に努めます。

乳腺科医療チーム

事務局 山本夏都美（診療放射線技師）

1. 任務・役割

乳腺疾患の早期発見をめざし、乳癌の検査、診断、標準治療を多職種連携で充実させ、質の高い医療ケアを提供し地域に貢献します。

2. 開催実績

- (1) 体制 14名
- (2) 年間開催数 8回（毎月第3月曜日）

3. 2022年度の活動報告

- (1) 看護師、リハビリテーションスタッフを対象とした乳癌周術期の学習会を開催しました。チーム会議や患者会へ参加し、問題の共有や解決策を検討したことで周術期看護の質が向上しました。
- (2) 周術期乳癌患者の栄養相談を乳腺がんサージカルボードと連動し、情報共有や評価を行いました。介入継続の有無を確認し、円滑な治療やケアに繋がりました。
- (3) リハビリ介入のマニュアルを運用し、術後患者の患側上肢の可動域制限をアセスメント、高齢者の身体機能低下を予防しました。
- (4) 乳癌検診の受診者を前年度以上に増加させました。
- (5) 乳癌手術のクリニカルパスを見直し、DPC IIの期間での退院を促進しました。
- (6) SDH 症例検討を1回行いました。

4. 患者会（ひまわりの会）

ひまわりの会の企画運営にチームで取り組み、限定された人数ではありましたが今年度は一度だけ開催することができました。下半期にも開催予定でしたが、感染状況により開催することはできませんでした。

次年度に再開できるよう、対面での患者会の開催を計画していきます。

循環器医療チーム

事務局 桐生宣侑（臨床工学技士）

1. 任務・役割

- (1) CAG・PCI・PM 植え込み術を安全に、かつ安定して受け入れる
- (2) 各専門職の力を発揮し、循環器に関わる指導體制を整える

2. 開催実績

9回／年

3. 2022年度活動報告

- (1) 循環器領域に関係する患者についてチーム議内多職種でのカンファレンスを2症例実施しました。循環器医療チームとして、医師を含めた多職種と交流の場をつくることができたため、有意義な情報共有、意見交換ができました。
- (2) 循環器領域の検査・処置にかかわるスタッフも育成され対応できる職員も増えました。
- (3) ペースメーカ植え込み患者のMRI対応手順や植え込み型除細動器のCTおよびMRIの撮影対応について手順の見直しや新規手順書の作成を行い、安全かつスムーズな検査を実施する環境を整えることができました。

4. 2023年度の課題

- (1) 2022年はカンファレンスの開催実績が2症例と少なかったため、2023年はカンファレンスの開催頻度を増やし、より活発な情報交換を実施していきます。
- (2) ICD（植え込み型除細動器）やICM（植え込み型心電計）について勉強会を実施し、植え込んだ患者の対応能力を強化します。
- (3) 2023年も昨年に引き続き、会議を定例開催して多職種で様々な角度から課題について検討します。
- (4) 循環器チームとして新病院でどのような介入ができるのかを洗い出してそれぞれの専門性を発揮しチーム医療の環に加わり良質な医療の提供に貢献します。

糖尿病医療チーム

事務局 橋本奈津実・芝本里・高田綾乃 (外来看護Ⅱ科)

1. 任務・役割

- (1) 医療の質向上に努める為の課題設定 (糖尿病診療基準見直し・糖尿病関連手順見直し) を行い、進捗状況を管理します
- (2) 院内職員及び、地域住民に向けて糖尿病についての教育、啓蒙活動を行います
- (3) 診療に必要な医療機器の更新、購入について、集团的に議論を行い提案します

2. 開催実績

- (1) 体制 19名
- (2) 年間開催数20回 (毎月第1火曜日)

3. 2022年度の活動報告

〈入院医療〉

- (1) 術前 DM パス：適応者は97件。
- (2) DM リンク NS の取り組み：会議は11回/年開催。
インスリン手技と糖尿病問診表のテンプレートの見直しを実施。

〈外来医療〉

- (1) 糖尿病腎症の重症化予防：新たに透析予防指導外来の運用 (腎症2期) を開始し、透析予防指導管理料の算定件数アップに繋がっている。

- (2) 透析室との連携：今年度透析看護外来件数5件でした。
- (3) 糖尿病足病変の発症の阻止：DM カンファレンスで足病変患者の情報共有、対応策の検討を行った。
- (4) 誕生日検査：AAA スコアシートを用いて、ハイリスク者の抽出を行いました。
- (5) 災害時対応：1型糖尿病患者65名 (介入率95.6%) に災害時・シックデイの指導を実施しました。
- (6) はじめくん外来：レッスンプランの見直し、カードシステムを導入し指導を行っています。

4. 教育、研修、研究活動

- (1) 地域住民への取り組み：11月に啓発予防について当院ふれあい記事に掲載。11月8日～15日、院内総合案内前にて糖尿病に関するポスター展示実施。看護師、管理栄養士、臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、医事課の6職種がポスター作成。
- (2) 職員教育の取り組み：フットケアラダーでは、2021年度の延期分を実施。中級8回、上級6回を開催しました。WOC 認定看護師とともに褥瘡回診のラウンドを行いました。フットケアラダー終了者3名。

5. 学術、研究：講演、研修会等の記録

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	川合汐里 (医師)	肥満患者への減量治療介入における減量度 sib4inbex に関する検討	2022年5月12日～14日 第65回日本糖尿病学会年次学術集会	神戸
①	今村さつき (看護師)	糖尿病コントロール入院における糖尿病療養指導カードシステムの効果と課題	同上	同上
①	今村さつき (看護師)	糖尿病看護に携わる看護師の能力育成をめざした取り組み—糖尿病療養指導カードを導入して—	2022年11月12日 第36回全日本民医連糖尿病シンポジウム	東京

呼吸器医療チーム

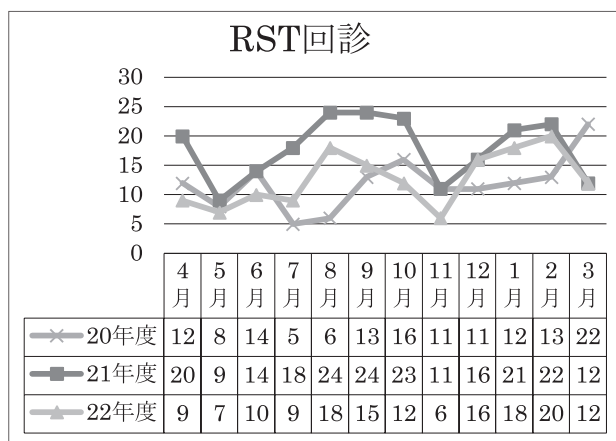
事務局 市川宗賢（臨床工学技士）

1. 任務・役割

- (1) 慢性呼吸器疾患の患者教育を充実させ、患者のセルフケア能力を高めます。
- (2) 患者教育にかかわるスタッフの知識とスキルを向上させます。
- (3) 人工呼吸器の適正な使用を促進します。

2. 開催実績

- (1) 体制13名
- (2) 呼吸器チーム会議主催学習会 3件
- (3) 年間のRST回診件数は、152件です。



3. 2023年度の活動報告

- (1) 呼吸器チーム会議主催で学習会を開催した。
下記の項目で3回実施した。
 1. 口腔ケア（講師：歯科衛生士）
 2. VAPバンドル（講師：看護師、臨床工学技士）
 3. フィジカルアセスメント（講師：看護師、理学療法士）
- (2) 定期的にRST回診にて、スタッフへNPPVやTPPVを使用する患者の在宅支援に向けた助言や指導を行いました。NPPVマスクやNHFカニューレが適切にフィッティングされているかアドバイスをを行い、スタッフのケア向上に繋がりました。
- (3) 人工呼吸器・NPPV・酸素療法に関する事故報告から、管理方法の見直しの検討・是正し、院内ニュースを使って啓発を行いました。
- (4) 人工呼吸療法及び酸素療法についての手順を整備し、安全な管理体制の構築に努めました。

以下、作成した手順書

「人工呼吸器抜管にたいする手順書」

「経鼻高流量療法（NHFT）開始・離脱基準」

4. 2023年度の課題

- (1) 2病院での慢性呼吸器疾患患者のセルフケア指導と並びにスタッフ育成を行っていきます。
- (2) 呼吸器関連の学習会を定期的に開催し、患者教育にかかわるスタッフの知識とスキルを向上させます。
- (3) 早期抜管に向けたより安全な取り組みができるようにSAT・SBTの評価を実施していきます。

消化器内科医療チーム

事務局 林 繭 (事務総合職)

していきます。

- ・患者様にとって安心安全で苦痛の少ない検査を実施すると共に、内視鏡検査・処置に係わる感染予防を徹底していきます。

1. 任務・役割

日本消化器内視鏡学会指導施設・日本消化器病学会関連施設・日本肝臓学会関連施設として、地域に密着した急性期病院の消化器内科の役割を果たすべく、救急診療・がん診療に力を入れ診療にあたっています。消化器疾患における救急患者の受け入れの強化、迅速な対応など役割は大きくなっています。

2. 開催実績

- (1) 体制 16名 (職種:医師、薬剤師、保健師、看護師、臨床工学技士、放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、事務)
- (2) 年間開催数 8回 (毎月第3▽水曜日)

3. 2023年度の活動報告

- ・患者様対象の肝臓病教室を3回開催しました。
- ・COVID-19感染症への対策として、検査2週間前からの体温測定や検査時にマスクを着用するなどの運用変更を継続しています。
- ・検査実績
 - 上部消化管内視鏡検査 7,489件
 - 下部消化管内視鏡検査 1,754件
 - 上部超音波内視鏡検査 66件
 - 上部 EMR・ESD 41件
 - 下部 EMR・ESD 422件
 - ERCP (処置含む) 505件

4. 教育、研修、研究活動

内視鏡的大腸ポリープ切除術や早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術などの内視鏡治療には、医師・看護師だけでなく臨床工学技士も参加しています。これにより今まで以上に安全に治療が行える環境となっています。

内視鏡検査に関わる看護師も研修で技術を身につけ、安心・安全な検査が行えるよう努力しています。

5. 2023年度の課題

- ・高度内視鏡治療の発展に努めます。
- ・より質の高い医療の提供に向け課題を明確にし、検討実施を提起します。
- ・肝臓病教室など、患者様を対象とした学習講演を開催

透析医療チーム

事務局 小幡国子（事務総合職）

1. 任務、役割

透析医療チームを立ち上げ3年目となりました。

- (1) 腎不全保存期患者の管理に関すること。
- (2) 腎代替療法選択時の多職種介入に関すること。
- (3) 維持透析患者の管理、合併症予防に関すること。
- (4) 透析室の経営・運営に関すること。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制11名（医師2名・看護師3名・臨床工学技士（以下ME）2名・管理栄養士1名・薬剤師1名・理学療法士1名・事務1名）
- (2) 年間開催数 12回

3. 活動と実績等

- (1) 透析運動療法加算（一回につき75点を3か月）が本年度導入され、リハビリ科・看護師5名は所定研修の腎臓リハビリテーションガイドライン講習会受講を修了し（うち2名腎臓リハビリテーション指導士を含む）、透析中の運動療法を開始。体力測定を11月から開始し、1年間続けた患者へフィードバックを行っている。
- (2) QIデータ（Hb、IP、補正Ca×IP）を毎月測定し、共有した。チームで介入し、値が改善している。
- (3) 職種間の仕事を理解するために、学習会を開催。（リハビリ科・食養科・ME・薬剤科）
- (4) 維持透析患者のシャントの管理は、毎月チェックシートを用いて行い、シャントエコーが必要な患者をピックアップし、実施。閉塞があればシャントPTAへ結びつけチームとして早期発見、早期治療することができた。
- (5) 防災訓練は年6回行い第一避難所までスムーズに避難できるようになった。またベッド柵の設置など物品の整備、補充し内容を患者と共有することができた。
- (6) フットチェックは、看護師がレクチャーし、MEも毎月のフットチェックに介入することで、CKD-MBDの管理、治療へつなげ、下肢悪化救済へ貢献する仕組みができた。
- (7) 透析室の患者動向と収支を毎月測定し、黒字経営であった。
年間10,614件（外来8,841件、入院1,773件）入院は昨

年度より微減だったが、薬剤費が大きく減り収支は前年比で+3000万円となった。

4. 2023年度の課題

維持透析患者56名のうち糖尿病患者34名に対して毎月GA値を測定しているが、チームとしての介入が課題。

シャント造設	シャントPTA	うち紹介	シャントエコー
43 (55)	96 (130)	55 (74)	76 (-)
運動療法*	フットチェック★	栄養相談★	維持患者★
865回*)120	58.3人	31.5人	60.4人

*)実人数 ★月平均

	実人数	うち紹介	件数
外来透析	751		8,841
入院透析	361	191	1,773
合計	1,112	191	10,614

子育て支援チーム

事務局 菅野直美 (助産師)

1. 任務、役割

- (1) 子育てに悩むひとりぼっちのお母さんをつくらないよう取り組みます。
- (2) 自主的な子育てサークルを支援し、地域の子育てネットワーク作りを促進します。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 8名
- (2) 年間開催数 12回

3. 活動と実績等

- (1) 子育て教室・子育てカフェ
新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、子育て教室、子育てカフェは昨年に続き中止しました。
- (2) わいわいサークル
院内でのサークル活動は中止しました。現在登録しているサークルに対し、ZOOMを利用したリーダー会議を実施して、「性教育」「子どもとの関わり方」「子どもと一緒におやつづくり」など、幼児期から学童期にあたるサークル世代のニーズを把握することができました。
- (3) 巣ごもりカフェ
2021年に引き続き ZOOM を利用した子育て支援「巣ごもりカフェ」を定期開催しました。妊娠期から1歳頃を対象に、離乳食や産後のリフレッシュ、スキンケアなどの内容で実施しました。年間22名/12回の参加があり、ZOOM アンケートでは4段階評価のうち毎回「大変良かった」「良かった」の高評価でした。

4. 2023年度の課題

- (1) コロナ5類移行に伴い、ZOOMを利用した巣ごもりカフェから、感染対策に配慮した対面式の子育て教室の開催を目指して、親と子の横の繋がりをサポートできるようにチームで取り組んでいきます。
- (2) グループとしての活動支援だけでなく、就学時(思春期)の子どもと向き合うための親と子への支援内容を充実させていきます。
- (3) 子育て中の親子の要望を把握して、安心して子育てができるよう情報の発信を行っていきます。

小児虐待対策チーム

事務局 伊藤千晶 (助産師)

1. 任務、役割

- (1) 地域の中で健全な親子関係が形成できるよう、病院と地域行政機関と連携強化し、地域での生活支援を行います。
- (2) 多職種協同でチーム運営を行い、多角的な視点で親子に関わります。
- (3) 職員教育を行い、多職種による専門集団をつくりま

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 17名
- (2) 年間開催数12回 (毎月第3水曜日)
※緊急時臨時開催あり
会議へのオブザーバー参加者3名/年

3. 活動と実績等

- (1) 地域での生活支援、行政機関との連携
 - ①小児科外来・夜間小児救急でフローチャートに基づき、ココロチェックリスト・養育環境問診票を用いて、医師・看護師・事務職員で、気になる親子の情報を共有しました。また、専用シートを活用し、事故予防指導を実施しました。
 - ②地域でのフォローが必要な親子には適宜、行政機関、(学校、保育園含む)へ連絡し、一緒にカンファレンスを実施して、家族全体の支援に向けての対応ができました。
- (2) 多職種協同
 - ①毎月のチーム会議で行ったカンファレンスは143件でした。(2022年1月～12月:新規検討件数83件、児童相談所紹介4件、保健センター紹介28件、子育て支援課紹介1件、その他の件数は継続検討)
 - ②要保護児童対策協議会にあがる妊婦3名に対して、関係機関が集合してカンファレンスを実施しました。
- (3) 職員教育
 - ①各診療科リーダーへ小児虐待の学習会を実施しました。その結果、診療科で虐待を発見し、小児科との連携が強化されました。
 - ②事務職員へ「小児救急～小児科受診の児と家族の特徴について～」学習会を実施しました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

なし

(2) 講演会活動・座長等

なし

(3) 各種参加

- 7月 埼玉県児童虐待対応医療ネットワーク事業第1回研修会
- 9月 全日本民医連小児医療研究会
- 11月 埼玉県児童虐待対応医療ネットワーク事業第2回研修会
- 2月 埼玉県児童虐待対応医療ネットワーク事業第3回研修会

5. 2023年度の課題

ふれあい生協病院のオープンに伴い、外来診療の流れや関わるスタッフの変化が予測されます。これまで以上に職員教育へ力を入れ、親子の支援を継続していきたいです。

また、産婦人科病棟、産婦人科外来、小児科病棟、小児科外来との連携方法の検討が必要です。

認知症ケアチーム

事務局 村田里美（看護師）

1. 任務・役割

- (1) 認知症により治療への影響が見込まれる患者の尊厳を守ります。
- (2) 病院全体の認知症対応力の向上を目指します。
- (3) 不要な身体抑制を減らし、認知症に配慮した治療環境へのアドバイスをを行います。
- (4) 入院患者の認知症のスクリーニングをもとに、病棟リンクナースと連携した病棟回診を実施します。
- (5) 今年度は加算が算定できる体制を整えていきます。

2. 開催実績

- (1) 認知症ケアチーム会議（毎月第2水曜日）
 - ①体制 10名 ②年間開催数12回
- (2) リンクナース会議（毎月第1水曜日）
 - ①体制 病棟担当、外来看護師 ②年間開催数10回

3. 2022年度の活動報告

- (1) 認知症ケア加算の算定が2022年8月から再開できることになり、加算の要件や実践の記録など再度学習を行い周知することができました。
- (2) 認知症ケア、ユマニチュード技術を、院外講師から受ける事ができ、実践も含め多くの学びになりました。次年度も継続して行う予定です。
- (3) 身体抑制をしないために、離床CATCHセンサーの導入を検討し、内科病棟に複数台設置することができました。これにより、抑制しないことを考えるきっかけにつながりました。
- (4) 認知症サポーター養成講座を3回開催。
- (5) オレンジ回診の継続。病棟からの相談や、身体抑制の解除にむけて提案・カンファレンスの開催につながり抑制数を減らすことができました。
- (6) 感染対策の継続で、部門を超えた集団リハビリの開催に制限がかかっていました。回復期リハビリ病棟で、集団リハビリの再開がされました。他部門での開催にむけて検討の継続をおこなっていました。次年度の課題です。
- (7) 実績
 - ・せん妄ハイリスクケア患者加算 平均380件/月
 - ・身体抑制患者割合 2022年 8.1%
 - ・認知症ケア加算 2022年8月から再開

4. 教育、研修、研究活動

下記の学習会を開催しました。

- ・ユマニチュード実践
- ・離床 CATCH 使用学習会。

5. 2023年度の課題

- ・認知症サポーター養成講座の受講を、技術系、事務系スタッフができていない現状がある。病院全体の対応力向上をめざすために次年度は開催数を多くしていきます。
- ・外来や組合員の認知機能低下に関する困り毎を受けとめ、認知症を理解する活動と対応について相談できる機会をつくっていきます。
- ・ユマニチュードの技術を継続して学んでいきます。
- ・「身体抑制をしない」ことを、病院で実践できるようオレンジ回診の継続、せん妄予防の対策とせん妄対策をリンクナースを通して部門への提供を行っていきます。

精神科リエゾンチーム

事務局 水谷麗子 (作業療法士)

1. 任務・役割

- (1) 一般病棟におけるせん妄や抑うつといった精神科医療のニーズの高まりを踏まえ、入院する患者の精神状態を把握し、精神科専門医療が必要な者に対して早期に介入することで、症状の緩和や早期退院を推進することを目的として、精神科医、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師、看護師からなる他職種チームで活動を行います。
- (2) 救急搬送された患者のカルテチェックや病棟スタッフからのアセスメントで精神科医への受診調整を行い、適切な援助、治療を実施します。
- (3) 精神科領域に関する院内基準の文書作成・管理や教育活動を行い、院内の精神科領域の水準の維持向上に努めます。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 7名
- (2) 年間開催数 12回 (毎月第2木曜日)

3. 2022年度の活動報告

- (1) 毎週火曜日と金曜日 (15:00~16:00) に精神科リエゾン回診を実施しました。
- (2) アルコール依存症患者に対する酒害教育を行いました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 【せん妄について、もう一度学ぼう】のEラーニングを実施しました。

褥瘡チーム

事務局 江畑直子（看護師）

1. 任務、役割

- (1) 褥瘡発生予防ケアを提案します。
- (2) 褥瘡の早期治癒を目指して必要な治療やケア方法の実践と提示をおこないます。
- (3) 院内外の多職種と連携して対象者に応じた褥瘡発生予防対策や治療方針を検討します。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制 7名＋各病棟リンクナース
医師・看護師・管理栄養士・理学療法士・薬剤師
- (2) 年間開催数 10回
- (3) 事例報告7件・学習会9回実施

3. 活動と実績等

- (1) 活動
 - ①褥瘡回診：52回実施（419件）
 - ②医療材料変更：0件・検討：1件
 - ③体圧分散寝具更新：なし
- (2) 実績
 - ①褥瘡発生患者数：89名
 - ②推定褥瘡発生率：0.093%
 - ③治癒率：33.9% 改善率：50%

緩和ケアチーム

事務局 布川昌代（看護師）

1. 任務、役割

- (1) 緩和ケアチーム介入を希望する症例に対し、苦痛を和らげQOL向上のために、緩和ケアに関する専門的な知識や技術をもとに、担当医や担当看護師と協力し、治療・ケアの実践・助言を行います。
- (2) 一般病棟入院患者、外来通院患者から対象を抽出し、緩和ケア病棟や在宅など適した療養の場で過ごせるよう調整を行います。
- (3) 緩和ケア領域に関する院内基準文書作成・管理や教育活動を行い、院内の緩和ケア水準の維持向上に努めます。

2. 開催実績（2023年3月末日現在）

- (1) 体制14名（医師、管理、看護師、薬剤師、社会福祉士、管理栄養士、作業療法士、事務）各病棟リンクナース
- (2) 年間開催数
 - ①緩和ケアチーム会議 12回（毎月第3木曜日）
 - ②リンクナース会議 12回（毎月第4火曜日）

3. 2022年度の活動

- (1) 毎週木曜日に緩和ケア回診を実施し、緩和ケアの実践・助言活動を行いました。
- (2) 毎週病棟ラウンドを行い院内緩和ケア患者の把握、緩和ケア回診介入促進に努めました。
- (3) 緩和ケア回診 延べ30症例 104回（毎週木曜日）
- (4) 2021年6月より緩和ケア診療加算算定開始（79件／年）がん性疼痛指導管理料算定136件／年、がん患者カウンセリング料①82件／年②41件／年
- (5) 緩和ケアリンクナースと共にごん患者の苦痛スクリーニングから苦痛がある患者の抽出を行い、早期介入に努めました。
- (6) 緩和ケア領域の文書管理・作成・改訂を行いました。（緩和ケアマニュアル改訂）
- (7) 緩和ケア研修修了医師リスト作成を継続しました。
- (8) 日本緩和医療学会、緩和ケアチーム登録の継続を行いました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 4月23日 緩和ケア研修会実施。
- (2) 佐野医師7月1～2日 日本緩和医療学会学術大会

- (3) 佐野医師 7月23～24日 日本在宅医療連合学会大会
- (4) 雪田医師 医療・ケアネット県南にて講座
「コロナ禍のもとで緩和医療のあり方を見直す」
- (5) 有田医師 つくば市在宅看取り市民公開講座 在宅
医療啓発 自宅での看取りについて
- (6) 緩和ケアに関する学習会を法人内職員に向けて5回
開催しました。

術後疼痛管理チーム

事務局 齊藤今日子 (看護師)

1. 任務、役割

- (1) 患者の疼痛を最小限に抑えることにより術後機能回復の促進と、生活の質の向上及び合併症の予防を支援します。
- (2) 術後疼痛管理が必要な患者の状態に応じた疼痛管理及び評価を行い、医療記録に記載をします。
- (3) 術後疼痛管理チーム (以下 APS) と病棟医師・看護師が必要に応じてカンファレンスを行い、必要な情報を病棟内または院内全体に発信します。

2. 開催実績 (2023年3月末日現在)

- (1) 体制 9名 (医師5名 看護師2名 薬剤科2名)
- (2) 年間開催数 2回 (毎月第2月曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 2023年2月6日より回診を開始しました。
- (2) 術後悪心嘔吐 (以下 PONV) の改善目的にてオンダ
ンセトロンを導入しました。
- (3) 術後疼痛評価スケール (以下 NRS) の使用の周知を
関連病棟に依頼しました。
- (4) 整形外科必要時指示にジクロフェナク坐薬50mgを
追加し体重に応じて規格を変更することにしました。
- (5) 回診記録にダイナミックテンプレートを活用し、記
録の標準化を行いました。
- (6) 回診実績 2023年2月 72件 3月 115件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

なし

5. 2023年度の課題

- (1) APS 認定薬剤師・看護師の増員をすることで、APS
回診稼動を上げ、術後2日目3日目の回診も実施でき
るようにしていきたいと考えています。
- (2) 術後疼痛コントロール改善・PONV対策に向け、病
棟連携強化を図り、迅速に介入できるように努力して
いきます。

院内迅速対応チーム(RRT)

事務局 寺門妙子(外来看護師)

1. 任務・役割

- (1) 院内迅速対応チームを結成し、予期せぬ院内急変に事前に対応する
- (2) 全職員が院内急変時に役割発揮する事ができるよう訓練や救急カートの整備を行う
- (3) 院内急変事例を他職種チームで振り返り、次の症例に活かすことができる

2. 開催実績

- (1) 体制：看護師4名 薬剤師1名 臨床工学技師1名 医療事務1名
- (2) 月1回の定例会議を開催
- (3) 2022年11月から活動開始
RRT 出動 19件
内訳：呼吸に関すること 6件 循環に関すること 1件
呼吸・循環・その他 7件 その他の懸念 5件
CCOT 11件

3. 2022年度の活動報告

- (1) 院内迅速対応チームのシステム構築
5月よりチームを結成し、11月院内職員向けの活動周知を行った。医師、看護師、事務など総勢93名の参加を得ることができた。RRTの要請基準を掲示し、専用 PHS9000を看護師4名で交替で携帯し、病棟や外来からの要請に応じた対応を行った。また、対応後の状態について翌日以降もラウンドし、患者の状態把握や病棟での対応について介入を行った。
- (2) 救急医学会認定 ICLS コースを6月10月12月3月に開催し、ICLS プロバイダー36名、新たなインストラクターを1名、アシスタントを2名輩出する事ができた。また、院内BLS学習会のための標準テキストを作成し、各部門の学習会の支援を行った。
院内救急カートの整備点検を行い、是正の呼びかけと内容の見直しを行った。

4. 次年度の課題

- (1) 予期せぬ院内急変を事前に捉える力を高めるためにRRTリンクナースの育成を行っていく
- (2) 急変対応能力向上のため、BLS学習会、ICLSコースを継続して開催していく
- (3) ふれあい生協病院の開院に伴い、2病院での活動を行っていく。

報告書確認対策チーム

事務局 成田恵里子(診療放射線技師)

1. 任務・役割

2022診療報酬改訂にて画像診断情報等の適切な管理による医療安全対策に係わる評価として、画像診断又は病理診断が行われた入院患者に対し「報告書管理体制加算(退院時1回) 7点」が新設されました。

報告書の確認不足に対する注意喚起を図り、診断又は治療開始の遅延を防ぐことを目的に患者説明状況の確認を行っています。

2. 開催実績(2023年3月末日現在)

- (1) 体制 6名
- (2) 年間開催数 12回(毎月第4水曜日)

3. 活動と実績等

- (1) 画像・病理診断報告書フォロー手順書を作成しました。
- (2) 画像・病理診断報告書確認の実施状況の評価を月1回行いました。
- (3) 院内に学習ニュースを発行し、関係部門で学習会を行いました(年1回)。

4. 2023年度の課題

- (1) 引き続き、報告書確認の実施状況の評価し診断又は治療開始の遅延を防ぐ活動を行います。
- (2) 電子カルテ更新後に系統的に既読管理を行う方法を検討します。

VI.学術・研究、講演、研究会等の記録

2022年4月～2023年3月

1. 国内学会等の発表

■2022年

氏名 (職種)	演題名	主催 (開催日)	会場
畔柳 綾 (医師)	SCS Start Up Meeting ー今こそ始めよう SCS！ー	Zoom Webiner (4月7日)	WEB 開催
平井 ゆかり (医師)	髄膜炎と第V～Xの多発脳神経障害を併発した Ramsay-Huut 症候群の1例	日本内科学会 ことはじめ (4月16日)	京都市勧業館 (京都府)
松村 憲浩 (医師)	Belimumab が有効であったシューグレン症候群に合併した抗 ds-DNA 抗体陰性ループス腎炎 V 型の2例	日本リウマチ学会 (4月25日～4月27日)	パシフィコ横浜 (神奈川県)
川合 汐里 (医師)	肥満患者への減量治療介入における満足度と Fib4Index の相関に関する検討 (DOR-KyotoJ 研究)	第65回日本糖尿病学会年次学術集会 (5月12日～5月14日)	神戸国際展示場 (兵庫県)
小野 未来代 (医師)	早期胃癌 ESD 適応拡大症例の予後とその対応について	第13回日本消化器内視鏡学会総会 (5月14日)	国立京都国際会館 (京都府)
川合 汐里 (医師)	肥満患者への減量治療の効果に関して FIB4Index を用いて検討する	第95回日本内分泌学会学術総会 (6月3日)	WEB 開催
入江 直子 (医師)	Low-grade fibromyxoid sarcoma of the liver: 2 case report	第34回日本肝胆膵外科学会学術集会 (6月10日～6月11日)	愛媛県県民文化会館 (愛媛県)
丸木 千陽美 (医師)	変形性膝関節症に対する APS 治療1年での MRI 膝軟骨定量評価	JOSKAS-JOSSM2022 (6月17日)	札幌コンベンションセンター (北海道)
畔柳 綾 (医師)	汎用シュミレーションソフトを利用した異常低血圧回避アルゴリズムの評価方法の開発	第69回日本麻酔科学会学術集会 (6月16日～6月18日)	神戸ポートピアホテル (兵庫県)
佐野 広美 (医師)	緩和ケア病棟で病理解剖を提案することは適切か	第27回日本緩和医療学会学術大会 (7月1日～7月2日)	神戸国際会議場 (兵庫県)
肥田 徹 (医師)	PTA について	第67回日本透析医学会学術集会・総会 (7月2日)	パシフィコ横浜 (神奈川県)
畔柳 綾 (医師)	Covid-19 ワクチン接種後の末梢神経障害に星状神経節ブロックが著効した1症例	第56回日本ペインクリニック学会 (7月7日～7月9日)	東京国際フォーラム (東京)
伊藤 理恵 (医師)	クリニックにおける日常皮膚疾患診療	埼玉県保険医協会(2022年7月20日)	(埼玉県)
佐野 広美 (医師)	「自宅看取り」と「病理解剖」終末期悪性腫瘍患者の希望を地域の多職種で連携し実現した1症例	第4回日本在宅医療連合学会大会 (7月23日～7月24日)	神戸国際展示場 (兵庫県)
畔柳 綾 (医師)	ペインクリニックにおける診療と薬物治療	第一三共株式会社 MR 研修会 (8月29日)	WEB 開催
藤田 泰幸 (医師)	当院で開始した学習支援の取り組みについて	第40回日本小児心身医学会学術集会 (9月23日～9月25日)	WEB 開催
佐野 貴之 (医師)	S 状結腸癌に合併したパラガングリオーマの1例	第77回日本大腸肛門病学会学術集会 (10月14日～10月15日)	幕張メッセ国際会議場 (千葉県)
仁平 高太郎 (医師)	Alignment から volume matching method へ ハンドピース型ロボット支援手術システム CORI の可能性と問題点	第50回日本関節病学会 (10月21日)	朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター (新潟県)

氏名 (職種)	演題名	主催(開催日)	会場
栗原 唯生 (医師)	若年男性の腓頭部に発生したMCNの1例	JDDW 2022 (10月27日～10月29日)	福岡国際センター・福岡サニパレス・福岡国際会議場(福岡県)
仁平 高太郎 (医師)	腸腰筋インピンジメントにおける特徴的なエコー所見	第49回日本股関節学会学術集会(10月28日)	やまぎん県民ホール・山形テルサ(山形県)
畔柳 綾 (医師)	当院ペインクリニックで診る神経障害性疼痛	第一三共株式会社 Meet the Expert Web Seminar(11月2日)	WEB開催
畔柳 綾 (医師)	自動薬物投与システムの運用に際しても留意事項	日本臨床麻酔学会第42回大会(11月11日～11月12日)	国立京都国際会館(京都府)
栗原 唯生 (医師)	原発性胆汁性胆管炎とシェーグレン症候群の患者に発生した肝Reactive Lymphoid hyperplasiaの一例	第84回日本臨床外科学会 (11月24日～11月26日)	福岡国際会議場(福岡県)
重吉 到 (医師)	十二指腸GISTに隣接して悪性リンパ腫が併存した一例	第84回日本臨床外科学会(11月24日)	福岡国際会議場(福岡県)
入江 直子 (医師)	腎原発ガストリノーマの肝転移に対して切除術を施行した1例	第84回日本臨床外科学会(11月24日)	福岡国際会議場(福岡県)
鈴木 佳那子 (医師)	異時性両側男性乳癌の一例	第84回日本臨床外科学会(11月24日)	福岡国際会議場(福岡県)
伊藤 理恵 (医師)	アトピー性皮膚診療の取り組みと最近事情	Type2皮膚疾患地域連携会(11月29日)	(埼玉県)
伊藤 理恵 (医師)	そう痒性皮膚疾患の診療戦略 抗アレルギー剤の使い方	デザレックスWeb講演会(12月8日)	WEB開催

■2023年

氏名 (職種)	演題名	主催(開催日)	会場
山本 茂輝 (医師)	電解質喪失症候群を呈した直腸絨毛腫瘍の1例	第684回内科学会関東地方会(2月12日)	東京国際フォーラム(東京都)
瀧田 郁洋 (医師)	酢酸亜鉛水和物投与を契機とした銅欠乏により汎血球減少、骨髄異型成症候群様病態を呈した透析患者の一例	第684回内科学会関東地方会(2月12日)	東京国際フォーラム(東京都)
丸木 千陽美 (医師)	CORIを用いたUKA手術のラーニングカーブの検討	第53回日本人工関節学会(2月17日)	パシフィコ横浜(神奈川県)
重吉 到 (医師)	当院における80歳以上高齢者胃癌の検討	第95回日本胃癌学会総会(2月23日～2月25日)	ロイトン札幌(北海道)
忍 哲也 (医師)	直腸静脈瘤に対してPTOを行った一例	埼玉県医学会総会(2月26日)	(埼玉県)
天笠 諒 (医師)	腸閉塞に合併したSGLT2阻害剤起因性正常血糖ケトアシドーシスの1例	埼玉県医学会総会(2月26日)	(埼玉県)

2. 埼玉協同病院 第5回医療活動交流集会

■2023年2月18日 会場:ふれあい会館(川口市)

氏名	部門・チーム等	演題名
廣澤 教子	病棟診療委員会	2022年度 入院患者満足度調査 結果報告
中島 祐子	外来診療委員会	2022年度外来満足度調査の結果報告と今後の課題
大森 有紀	医療安全委員会	転倒転落予防策に関する多職種検討 ～現場職員とともに考える
小原 春菜	薬剤科	HPV ワクチンを安全に接種するための取り組み
鯉沼 朋也	リハビリテーション技術科	C2病棟で転倒・転落予防カンファレンスを入院直後に実施した結果と特徴
青木 美優	手術看護科	術後訪問率の維持、向上するための取り組み
白和 葉月	C4病棟看護科	認知症・せん妄のある癌終末期の緩和ケアを倫理的視点から考える
高橋 花奈	D5病棟看護科リハ栄養・摂食嚥下口腔ケアチーム	リハビリ直後の栄養補助食品提供の取り組みと栄養状態の変化について
中島 祐子	保健師部会	組合員とともに取り組むウエルカフェでの健康講座
水本 留美子	医療社会事業課	相談支援に関するアンケート調査から分かった事
渡辺 みちよ	外来看護科 I	外来処置室 5S 活動
小山 知里	外来Ⅱ看護科	地域、医療機関の連携による SDH に着目したデイケア利用者の支援
中村 葉月	リハビリテーション技術科	ロボティックアーム手術支援システムの使用は歩行や在院日数に関係するのか
高橋 亜希	クリバス委員会	院内パス活動の活性化への取り組み
中村 大介	栄養サポートチーム	経腸栄養剤による下痢対策
小島 史子	検査科	当院の整形外科における不規則抗体の検出頻度に関して
三澤 美祐	外来看護科Ⅱ	眼科外来における点眼薬投与事故予防対策について
渡邊 那々美	D2病棟看護科	二次性骨折予防継続管理料算定への取り組み
菅野 直美	C3病棟看護科	にこにこ会議(C3病棟三者会議)の取り組み
竹本 耕造	医療社会事業課	在日クルド人も対象にしたむし歯予防教室の取り組み報告
杉浦 洋子	手術看護科	ペイン外来担当看護師育成と今後の課題について
吉田 暁子	外来看護科 I	外来看護科 I (ER) での新人看護師教育の取り組み
関口 梨絵	抗菌薬適正使用支援チーム	AST 薬剤師専従化と細菌検査室との連携による抗菌薬適正使用への早期介入
小林 真弓	検査科	同種血輸血で報告された輸血副反応の実態調査
小峰 将子	C3病棟看護科	医療活動交流集会から得たもの
多田 渚	手術看護科	異国支援係の活動～クルド人が安心して手術を受けるために～
那須 美玲	放射線画像診断科	当院造影 CT における副作用発生の特徴
藤田 恵里花	リハビリテーション技術科	手指消毒のタイミングを意識した1年
盛 雅巳	透析医療チーム	透析運動療法導入の実際
田中 紗代	クオリティマネジメントセンター	私たちの職場について考えてみよう
熊谷 瑛梨	医療社会事業課	外国人患者対応に関する意識調査から見えてきた現状と課題について

3. 埼玉民医連 2022年度 学術・運動交流集会

■2022年12月17日

氏名	職種	演題名
吉田 知行	理学療法士	組織三課題を通して、組織人の育成と学び合いを行った実践報告
坂井 光一郎	事務総合職	埼玉協同病院敷地内に川口市コミュニティバス停留所の設置を求める外来署名の取り組みについて
松島 愛子	社会福祉士	SHJ 推進委員会における戦争体験聴き取り活動の報告
灘本 悠	社会福祉士	地域包括ケア病棟への転院調整に関するアンケート結果の報告
高橋 里美	助産師	看護教育センターとしての人材育成実践報告
室塚 俊行	調理師	コロナ禍を利用して、新しい取り組みを開始したレストラン虹の森の取り組みについて
曾田 知里	事務総合職	医師の業務負担軽減の取り組み
中島 祐子	保健師	組合員とともに取り組む地域薬局 A での健康講座
戸島 希理子	保健師	手術室における急変対応のシナリオ演習の有用性
萩原 なるみ	助産師	新型コロナウイルス感染症流行下における産婦人科での妊産婦支援
伊藤 千晶	助産師	継続支援が必要な家族を支える外来作り
樋口 麻里	理学療法士	A 病院の透析室における運動療法実施の取り組み
多喜 淳夫	管理栄養士	栄養サポートチームの活動について
過足 莉乃	臨床工学技士	脊髄刺激療法に介入して
相澤 真衣	臨床工学技士	臨床工学技士によるシャントエコー業務介入の報告
井田 涼太	薬剤師	バンコマイシン注（VCM）初回投与後の追加投与についての検討
佐藤 栄司	薬剤師	周術期の薬剤科の活動報告 ～万全に手術に臨むために薬剤師が出来ること～
永原 和也	理学療法士	GAIT INNOVATION 導入後の報告
杉田 葵	社会福祉士	本人の意思尊重と家族支援における他職種・他機関の関わり方
小原 春菜	薬剤師	HPV ワクチンを安全に接種するための取り組み
小西 愛子	薬剤師	非癌患者に用いるモルヒネの使用状況調査
白崎 彩子	診療放射線技師	撮影線量の最適化
薄井 健人	診療放射線技師	造影 CT における血管外漏出の対策と発生率の変化

4. 埼玉民医連 看護学会

■2022年2月25日 会場：埼玉協同病院

氏名	職種	演題名
渡辺 ちなみ	看護師	帝王切開術を受ける外国人患者の不安軽減への取り組み ～トルコ語を使用した動画作成を実施して～
小山 ひとみ	看護師	手術部位感染予防における現状把握と必要性の理解
中島 美貴子	看護師	A 病院看護部キャリアラダー運用に向けての取り組み ～主任ラダーチームの活動を振り返って～
高田 綾野	助産師	外来看護師として新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応をしながら、A 病院で働き続けられる理由
原島 まどか	看護師	AYA 世代がん患者の希望を叶える退院調整

氏名	職種	演題名
福田 友美	看護師	COVID-19病棟 看護活動報告 ～3年目を振り返って～
小峰 将子	助産師	切れ目ない母子支援を継続するための病院助産師としての役割 ～産後ケア事業を開始して～
久保 美実	看護師	下肢切断後の排泄自立にむけた多職種アプローチ ～夜間の排泄を中心に～
盛 雅巳	看護師	透析運動療法導入の実際
手川 裕子	看護師	Rapid Response System (RRS) の導入の経過と課題 ～4つのコンポーネントの視点から～

5. 院内における教育活動

(1) 集合研修等

■2022年

(単位:人)

日付	テーマ	主催者	講師	参加
4/12	ドリップイ学習会	ME科 岡本 雪子	MID	7
4/19	HCU 早期リハビリテーション学習会	リハビリ、HCU チーム	リハビリ久保寺・HCU 看護師寺門・手川	12
4/20	妊婦と虫垂炎	C3	花岡伸之介医師	11
4/21	RevMete の遵守	DI室・がん化学療法チーム	ブリストル・マイヤーズ(株)担当 MR	6
4/26	統計学学習会(分散と標準偏差)	ME科 菅隆太	ME科 菅隆太	5
5/13	ミリスロールを用いた rapid tocolysis について	C3病棟担当薬剤師	C3病棟担当薬剤師	13
5/13	ミリスロールを用いた rapid tocolysis について	C3担当薬剤師	C3担当薬剤師	11
5/19	低圧持続吸引器			11
5/20	新任部門 RM 事例分析研修(前半)	医療安全委員会	宮崎俊子	6
5/23	新任部門 RM 事例分析研修(前半)	医療安全委員会	宮崎俊子	9
5/24	新任部門 RM 事例分析研修(前半)	医療安全委員会	宮崎俊子	8
5/25	新任部門 RM 事例分析研修(前半)	医療安全委員会	宮崎俊子	5
5/25	梅毒について	C3	高野剛医師	12
5/25	アジョビ皮下注について	外来Ⅱ	大塚薬品	15
5/27	★新任部門 RM 事例分析研修【後半】	医療安全委員会	宮崎俊子	8
5/30	★新任部門 RM 事例分析研修【後半】	医療安全委員会	宮崎俊子	9
5/30	G5・G7心電図モニター学習会	ME	日本光電 山本	13
5/31	★新任部門 RM 事例分析研修【後半】	医療安全委員会	宮崎俊子	7
5/31	小児 BLS 学習会	小児科 看護	高田綾野	10
6/8	小児 BLS 学習会	つくし保育所	高田綾野	16
6/15	妊娠と精神疾患	C3	正田唯さん(筑波大学)	10
6/15	卒1向け 入院受けについて	D4卒1指導者	佐藤萌香 吉田叶和子	7
6/21	体重測定の実践性について			9
6/22	急変時の対応について	リスクマネージャー		48
6/22	環境学習会	吉田知行	吉田知行	49

日付	テーマ	主催者	講師	参加
6/22	医療安全について		外来看護科Ⅱ 高田綾野	9
6/22	医療安全について	外来看護科Ⅱ 高田綾野		9
6/22	オゼンピックについて		外来看護科Ⅱ 今村さつき	9
6/23	重症患者の全体像をとらえよう	HCU チーム	手川裕子	15
6/23	穿刺時の疼痛緩和 Web セミナー（オンデマンド配信）	ME 科 榎理沙	佐藤製薬	6
6/25	ME 担当向け BLS 講習会	ME 科 ME 科	桐生宣侑	7
6/29	糖尿病について	吉川奈津美	小田医師、新井医師	19
6/29	HPV ワクチンについて	C3	小倉沙紀医師	14
7/5	【キャリ 2 緩和ケア】 初級 緩和概論、看取りケア	緩和ケアチーム	三浦康子、森直美	5
7/5	【キャリ 2 緩和ケア】 初級・中級 症状マネジメント	緩和ケアチーム	森直美、三浦康子	5
7/7	ME 向け植え込み型心電計学習会	ME 科	日本メドトロニック	6
7/13	脳梗塞、脳出血について	D4脳卒中チーム	上戸鎖 Dr、加藤 Dr	16
7/14	ロボパッド（RPA）	外来看護科Ⅱ	経営企画室 桑田さん	8
7/19	糖尿病ミニ講座	糖尿病リンク NS	今村さつき	7
7/20	風疹	C3	深見琢郎医師	9
7/20	セーフマスター入力（褥瘡）	木村秀	渋谷、吉田叶、木村秀、	17
7/21	ハミルトン C6NHF 説明会	ME 科	日本光電工業	6
7/21	ME 担当向け BLS 講習会	藤本	藤本	6
7/27	脳外トリアージ		石丸医師	16
7/28	2022年度第 1 回マネージメントレビュー	拡大管理事務局		31
7/29	Ranger と A ライン	OPE 看護	ME 科 市川	17
7/29	点滴スタンドの取り付け方法	ME 科	透析看護科：竹内 ME 科：榎	10
8/3	人工関節について	リハビリテーション技術科	木村圭一	8
8/9	キャリ 2 褥瘡ケア 褥瘡予防		木村秀実・江畑直子	5
8/9	心電図モニターの波形の読み方（心房細動）	D4循環器チーム	岡崎里南	17
8/9	透析関連機器のトラブルと災害発生時の動作	ME 科 菅隆太、山口颯太	ME 科 菅隆太、山口颯太	7
8/18	緩和ケアについて		地域連携課 森看護師	8
8/18	日本透析医学会での災害対策	ME 科 山口颯太	ME 科 山口颯太	6
8/24	平和の学習会		吉田知行	48
8/24	効果的な確認作業とは 医療安全の仕組みと仕掛け	医療安全委員会	（該当せず）	874
8/25	心電図モニターの波形の読み方（心房細動）	循環器チーム	岡崎里南	9
8/26	HCU における栄養療法	HCU チーム	栄養士多喜	11
8/30	透析学習会	村上理紗	透析室 長竹看護師	10
8/30	呼吸介助	リハビリテーション技術科	OT 寺山 PT 佐藤、鯉沼	8
8/31	心電図モニターの波形の読み方（期外収縮）	循環器チーム	岡崎里南	16
9/7	出生前診断について	C3	酒井祐介医師	14
9/7	心不全療養指導のテンプレート記載方法	循環器チーム	佐藤萌香	15
9/12	2022年度法定研修 1 回目（医局）	AST・感染対策委員会	関口梨絵（薬剤師）、吾妻広基（臨床検査技師）、吉田智恵子（看護師）、守谷能和（医師）	30
9/13	レッスン 1 正しい麻薬の知識をみにつける。	D3緩和ケアチーム	布川昌代	7

日付	テーマ	主催者	講師	参加
9/14	ディスポブロンコ学習会	ME 篠塚	アンプ	6
9/15	レッスン1 正しい麻薬の知識をみにつける。	D3緩和ケアチーム	布川昌代	5
9/15	心電図モニターの波形の読み方(徐脈性不整脈)	循環器チーム	岡崎里南	18
9/17	オリンパス内視鏡 超音波プローブの取扱い	ME科	ME科	7
9/22	NHF使用方法	ME科 相澤	ME科 相澤	9
9/27	NSTについて	NST	看護師、薬剤師、検査技師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士等	6
9/27	防災学習会	渡邊千賀子	渡邊千賀子	18
9/28	防災学習会	リハビリ科科長	吉田知行	47
9/28	危険予知トレーニング	リスクマネージャー	山田泉紀	47
9/28	在宅酸素療法について	ME科 塩崎楓	ME科 塩崎楓	15
9/28	病棟看護師向け透析学習会	相澤 村上	相澤真衣	9
9/30	神経刺激装置 SCS について	ME科 岡本雪子	ME科 市川宗賢	12
9/30	内視鏡基礎知識	外来 I	ME科 木村貴史	8
9/30	接遇学習	ME科 岡本雪子	ナーシングスキル	12
10/3	クリニカルパスについて	船田	船田	6
10/11	ネーザルハイフロー装着患者の看護 D4病棟		C5志村智子	13
10/12	心電図モニターの波形について(ペースメーカー)	D4循環器チーム	岡崎里南	13
10/13	透析室向け BLS 講習会	透析看護科	桐生宣侑	8
10/14	内視鏡基礎知識	外来 I	ME科 福田和斗	5
10/17	医療安全講習	医療安全委員会	宮崎俊子	26
10/18	心電図モニターの波形について(ペースメーカー)	D4循環器チーム	岡崎里南	9
10/19	レッスン2 オピオイドの副作用について	D3緩和ケアチーム	布川昌代	5
10/20	ボルテゾミブ メーカー学習会	がん化学療法チーム・薬剤科 DI室	日本化薬株式会社担当 MR・森口(外来がん薬物療法認定薬剤師)	8
10/21	呼吸療法におけるアセスメントとケア【フィジカルアセスメント編】	呼吸器医療チーム	呼吸器医療チームメンバー	15
10/21	呼吸療法におけるアセスメントとケア【VAP予防編】	呼吸器医療チーム	呼吸器医療チームメンバー	15
10/21	呼吸療法におけるアセスメントとケア【口腔ケア編】	呼吸器医療チーム	歯科衛生士	12
10/24	【看護部キャリア2研修】小児救急看護初級編②	小児救急看護認定看護師	高田綾野	7
10/26	医療安全		外来看護科II 三澤美祐	18
10/26	接遇	高校生対応	堀田一樹	45
10/28	Aline と Flotrac の準備	ME科	ME科 市川宗賢	6
10/28	離床センサー		ME科 過足	9
10/31	接遇学習	教育研修センター	ナーシング・スキル動画	80
10/31	透析中に起きる患者の体調変化	村上	藤本政幸	10
11/1	STによる学習会	D4脳卒中チーム	ST 遠藤	15
11/2	脳卒中の薬物療法	脳卒中チーム	井田涼太	18

日付	テーマ	主催者	講師	参加
11/7	RRT キックオフ 学習会	院内迅速チーム	RRT メンバー	5
11/7	RRT キックオフ 学習会		RRT メンバー	16
11/7	DPC について	D4病棟退院支援係	長峰 森川	13
11/9	RRT キックオフ 学習会	院内迅速チーム	RRT メンバー	5
11/9	RRT キックオフ 学習会	院内迅速対応チーム	RRT メンバー	7
11/9	パーソン・センタード・ケアについて			17
11/11	RRT キックオフ 学習会	院内迅速チーム	RRT メンバー	19
11/11	RRT キックオフ 学習会	院内迅速対応チーム	RRT メンバー	6
11/14	RRT キックオフ学習会 (病棟用)	RRT	手川裕子	16
11/15	歯科衛生士による学習会	D4NST チーム		14
11/15	人工呼吸器の基礎・アラーム対応	D3	志村智子	11
11/16	循環作動薬について	HCU チーム	薬剤師藤井、看護師手川	15
11/17	HPH、SDH について	D4HPH チーム	森本、小峯	16
11/17	(補講) 効果的な確認作業とは 医療安全の仕組みと仕掛け	医療安全委員会	(該当せず)	110
11/21	【看護部キャリア2研修】小児救急看護中級編	小児救急看護認定看護師	高田綾野	7
11/21	モニター学習会	ME 科	ME 中村	7
11/22	D4看護師向け 病棟透析学習会	D4看護師 村上	ME 科 藤本	10
11/24	BLS 学習会		櫻井茉綾さん	45
11/24	せん妄について			11
11/25	危険薬学習会	渡邊弘祐	渡邊弘祐	7
11/28	レッスン3 各種麻薬の取り扱い方法について	D3緩和ケアチーム	布川昌代	5
11/29	危険薬学習会	小原春菜	小原春菜	12
11/29	循環作動薬について	HCU チーム	薬剤師藤井	12
11/29	危険薬学習会	薬剤科 藤井	薬剤科 藤井	8
11/30	次期電子カルテis で目指すクリニカルパス	クリパス委員会		26
11/30	カードシステムについて		外来看護科Ⅱ 今村さつき	15
11/30	診療報酬について		外来医事課 中林	15
12/6	危険薬について		薬剤科 清水里彩	13
12/7	スマートポンプデモ	ME	ME	22
12/8	ACH-Σ Plus i 取り扱い学習会	旭化成メディカル	旭化成メディカル	7
12/8	危険薬について	薬剤科		5
12/9	リブレについて	外来看護科Ⅱ	アボットジャパン 高尾昇平	6
12/9	アズストラル舌下錠	布川看護師	D3病棟担当薬剤師	7
12/9	危険薬について	薬剤科	小澤智美	6
12/9	バンコマイシンの採血について		藤井総一郎	13
12/15	12月度内部監査 オープニング会議	QM センター		52
12/16	呼吸療法におけるアセスメントとケア【フィジカルアセスメント編】	呼吸器医療チーム	C5 志村智子	5
12/16	褥瘡について	C3	江畑直子	9
12/19	危険薬学習会	薬剤科	東綾香	6
12/19	バンコマイシンの採血について	薬剤科	関口梨絵	6
12/20	糖尿病ミニ講座	今村さつき	今村さつき	5
12/20	循環動態モニタ		市川	5
12/20	透析関連機器のトラブルと災害発生時の動作	ME 科 山口颯太	ME 科 山口颯太	10

日付	テーマ	主催者	講師	参加
12/20	褥瘡の知識	木村秀実	木村秀実	6
12/21	新生児あれこれ	C3	平井ゆかり医師	12
12/21	褥瘡の知識	木村秀実	吉田叶和子	8
12/22	褥瘡の知識		木村秀実	9
12/27	NST について	NST	歯科衛生士	7
12/28	腎症 4 期について		畠山雅衣	6
12/28	外陰部ヘルペスとベーチェット病について	C3	市川朝輝医師	9
12/29	循環動態モニタ		市川	5

■2023年

日付	テーマ	主催者	講師	参加
1/12	麻薬学習会	浅尾庸貴	浅尾庸貴	5
1/12	エンハーツ点滴静注用 (がん薬物療法)	がん化学療法チーム・DI 室	メーカー担当 MR	15
1/13	麻薬学習会	浅尾庸貴	浅尾庸貴	7
1/13	エンハーツ点滴静注用 (がん薬物療法)	がん化学療法チーム・DI 室	メーカー担当 MR	6
1/16	麻薬学習会	薬剤科	江藤	6
1/16	日本医療機能評価機構から発信された医療安全から	医療安全委員会		816
1/19	12月度内部監査 クロージング会議	QM センター		37
1/19	麻薬について			11
1/20	麻薬学習会	渡邊弘祐	渡邊弘祐	9
1/20	バンコマイシンの採血について	渡邊弘祐	渡邊弘祐	9
1/20	麻薬学習会	薬剤科	小原春菜	13
1/23	麻薬学習会	薬剤科	佐藤大輔	5
1/24	ACH-Σ Plus i 取り扱い学習会	旭化成メディカル	旭化成メディカル	12
1/24	サマリーの書き方	D4退院支援 PJ	三久保宏子	9
1/25	嘔吐時の対応について	ICS 委員会	藤田恵里花	43
1/25	産婦人科急性腹症	C3	甲斐安祥医師	13
1/25	知っておきたい褥瘡の知識	C3	木村秀実	13
1/30	リクセル取り扱い学習会	ME 科 菅隆太	カネカメディックス	21
1/30	母乳と薬	C3	高橋純菜	10
1/30	C6 NHF モード説明会	ME 科	日本光電 山本	12
1/31	NIHSS 学習会	D4脳卒中チーム	D4手川、三久保、秋好	9
2/7	糖尿病の運動療法について	C3	山下龍也(リハビリスタッフ)	10
2/9	BLS 学習会①	C3	小峰将子	8
2/10	糖尿病の食事療法について	C3	吉田順子 (食養科)	11
2/13	2022年度法定研修 2 回目 (医局)	AST・感染対策委員会	藤井聡一朗 (薬剤師)、本多望 (臨床検査技師)、吉田智恵子 (看護師)、守谷能和 (医師)	27
2/14	高齢者の転倒は事故なのか～高齢者の身体の特徴と転倒～	法人医療安全委員会	稲村光則医師	31
2/14	糖尿病の薬について	C3	藤田絵里 (薬剤科)	7
2/15	離床 CATCH 取り扱い学習会	ME 科 岡本雪子	パラマウントベッド	7
2/16	ハミルトン C6学習会	HCU チーム	ME 科 桐生宣侑	5
2/18	第 5 回 埼玉協同病院 医療活動交流集会	クオリティマネジメントセンター		68
2/21	麻薬について	薬剤科	杉浦郁夏	8

日付	テーマ	主催者	講師	参加
2/22	医療安全	外来看護科Ⅱ	外来看護科Ⅱ 高田綾野	14
2/22	BLS	外来看護科Ⅱ	高田綾野	17
2/22	月経困難症	C3	天笠諒医師	18
2/22	保健予防活動まとめ学習会	リハビリ学習会担当 佐藤稔	作業療法士 寺山	41
2/22	青年委員会 活動報告	リハビリ科学学習会担当 佐藤稔	リハビリテーション技術科科长 吉田知行	43
2/24	BLS 学習会	外来看護科Ⅱ	高田綾野	10
2/28	D4向けテンポラリー学習会	ME 科	桐生宣侑	7
3/2	ICS 各経路別感染予防対策について	佐々木		5
3/2	2022年度第3回マネージメントレビュー	拡大管理事務局		75
3/3	透析クリパスの変更点について	透析チーム	透析チーム	8
3/7	リブレについて			9
3/8	創傷被覆材について	褥瘡委員会	渋谷	12
3/9	モニター心電図学習会	小日向	小日向	9
3/10	体位ドレナージについての学習会	C2病棟	寺山	10
3/14	緩和ケアについて	緩和ケアリンクナース	看護師高見澤・石井	12
3/17	BLS 学習会	薬剤科	牧野太一	27
3/22	意思決定支援を適切に行うために	病棟倫理委員会	病棟看護師：高橋亜希	8
3/22	産科異常出血・産科危機的出血	C3	古旗悠太郎医師	15
3/22	アリケイス使い方	浅尾	メーカー（インスメッド合同会社）	5
3/22	輸液ポンプとシリンジポンプについて		外来看護科Ⅱ 青沼春佳、不破瑞季	15
3/22	リブレ View 運用手順		外来看護科Ⅱ 小林愛	15
3/23	D4向け C6学習会	ME 科	桐生宣侑	9
3/23	外来Ⅱ向け BLS 講習会	RRT	桐生宣侑	5
3/24	BLS 学習会	RRT	桐生宣侑	6
3/27	酸塩基平衡から考える血ガスの見かた	HCU チーム	三久保宏子	11
3/29	退院支援について	D4退院支援	松島 MSW	12
3/29	ポリオグラフ学習会	検査、ME	検査 相原	8
3/29	ナースコール中継ユニット（離床 CATCH）	ME 科	木村	14
3/30	在宅呼吸器 アストラル		ME 市川	10
3/31	2023/4からの HPV ワクチン接種について	産婦人科外来	MSD 担当者	14
3/31	実習指導者の役割とコロナ禍においての特性	C3	中嶋由希子	8
3/31	産科救急を受講して	C3	河島聡美	9
3/31	ICS 尿道留置カテーテルについて	D4病棟 ICS	佐々木舞	11